地域保育学科
2020 年 6 月 26 日　更新

科目名	日本国憲法	単位数	2	実務経験	担当教員	わたなべ　のぶひさ 渡辺　演久
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	PUL12101	授業形態	講義			

授業の内容	憲法はなぜ存在するのかを歴史的経緯から明らかにし、憲法は国家権力を縛ることによって、人権を保障していることを説明していく。また教育基本法や子どもの権利条約などの国際法との関連性についても講義していく。最終的には子どもにまつわる憲法上の諸問題について考えられる講義とする方針である。
到達目標	1. 憲法の制定目的について理解している。 2. 立憲主義について説明できる。 3. 子どもの人権について理解している 4. 子どもの最善の利益について考え行動する力を身につけている。
学位授与方針	幼児教育学科（　　）地域保育学科（１，２，４　）文化表現学科（　　）

授業計画

第１回	内容	ガイダンス、憲法はなぜあるのか（立憲主義）	予習	憲法の前文を読む
			復習	憲法の目的を理解する
第２回	内容	憲法は素晴らしいが、何の役に立つのだろう？（憲法は誰に遵守義務があるのか）	予習	憲法は誰を縛っているのか調べる
			復習	憲法尊重擁護義務について理解する
第３回	内容	戦後の日本はへそによって作られた（日本国憲法の制定過程）	予習	民間の憲法案を調べる
			復習	民間の憲法案がどう反映されたかを理解する
第４回	内容	天皇の給料はお仕事にみあっているか（象徴天皇制）	予習	女性宮家ついて調べる
			復習	現在の皇室をとりまく状況を理解する
第５回	内容	ウルトラマンは地球を守るために戦う？（平和主義と自衛隊））	予習	平和のための戦いはありうるのか考える
			復習	平和主義について理解する
第６回	内容	自由が先か、平等が先か（法の下の平等）	予習	一票の格差とは何か調べる
			復習	選挙制度について理解する
第７回	内容	大岡政談にみる黙秘権と無罪の推定（刑事司法における人権保障）	予習	事件報道について調べる
			復習	無罪推定の意義について理解する
第８回	内容	言論の自由は「言いたいことを言う権利」ではない（言論の自由）	予習	民主政治には何が必要か調べる
			復習	言論の自由の意義を理解する
第９回	内容	教育の主体は国家？それとも国民？（教育を受ける権利）	予習	学校教育の誕生について調べる
			復習	教育を受ける権利について理解する
第 10 回	内容	幸福追求権の中身と自己決定（幸福追求権）	予習	学校のおかしな校則について調べる
			復習	幸福追求権が人権の源になりうることを理解する
第 11 回	内容	参政権があるだけでは民主主義とはいえない（参政権と民意）	予習	自分の選挙区の選挙結果を調べる
			復習	多数が民意とは限らないことを理解する
第 12 回	内容	統治機構は人権を守る手段である（法の支配）	予習	国家を支配しているのは誰か考える
			復習	法の支配について理解する
第 13 回	内容	国会と国会議員の実像（立法機関）	予習	国権とは何か調べる
			復習	三権分立について理解する
第 14 回	内容	内閣と議員内閣制の不思議（内閣）	予習	憲法の行政について読んでおく
			復習	行政権の範囲について理解する
第 15 回	内容	まとめとレポート作成	予習	憲法にまつわる新聞記事を調べる
			復習	憲法の視点から政治問題を考える

予習に要する学習時間：概ね９０分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね９０分を目安とする。

課題へのフィードバック	課題に関して授業で復習を行う
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　）する／（　○）しない 成績評価の方法：レポート・課題（　９０％）、授業態度（　１０％）
教科書	『憲法のおもしろさ（第３版）』（山本聡・渡辺演久著、北樹出版）
参考文献	授業内で適宜紹介する
注意事項	新聞記事等を通じて子どもをとりまく人権状況を取り上げるので、新聞などの報道に興味をもってほしい。

科　目　名	体育実技	単 位 数	1	実務経験	担当教員	しんど　のぶゆき 新戸　信之
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	DMB12101	授業形態	実技			

授業の内容	長寿社会において、生涯を通じて元気でイキイキと生活するためには、生き甲斐づくり、健康づくり、体力づくりが必要である。また、幼児教育の現場において職務を遂行するためには、自らの行動、防衛のためだけでなく、子どもを守るための体力も求められる。本授業では、内発的な動機付けとなる“楽しさ”や“面白さ”が内在する身体活動、即ちスポーツや運動遊びの基礎的な技術及び知識を習得することにより「生涯スポーツ」への契機を与えることをねらいとする。
到達目標	1. 生涯にわたる自らの豊かな人生、社会に貢献できるたくましい心と身体の必要性について理解している。 2. 自己の健康管理、維持・増進に取り組み得る技術及び知識を習得している。 3. 集団生活に必要な規律を理解し、協調性、社会性を身につけている。 4. 幼児教育者として必要な、運動に関する基本的な知識と技能を習得している。
学位授与方針	幼児教育学科（　　）地域保育学科（　2,4,5　）文化表現学科（　　）

授業計画				
第1回	内容	ガイダンス、野外・環境教育実習について	予習	
			復習	
第2回	内容	ドッヂビー、ドッジボール	予習	
			復習	
第3回	内容	イニシアティブゲーム（※グループワーク）	予習	
			復習	
第4回	内容	大縄跳び、縄跳び（※グループワーク）	予習	
			復習	
第5回	内容	スポーツ鬼ごっこ	予習	
			復習	
第6回	内容	バレーボール	予習	
			復習	
第7回	内容	アルティメット	予習	
			復習	
第8回	内容	バスケットボール	予習	
			復習	
第9回	内容	フットサル	予習	
			復習	
第10回	内容	チャレンジザゲーム	予習	
			復習	
第11回	内容	目隠しをするゲーム（※グループワーク）	予習	
			復習	
第12回	内容	バドミントン	予習	
			復習	
第13回	内容	ソフトバレーボール、ビーチボール	予習	
			復習	
第14回	内容	インディアカ	予習	
			復習	
第15回	内容	リズム体操・レクダンスの創り方 （※グループワーク）	予習	
			復習	
第16回	内容	リズム体操・レクダンスの発表 （※グループワーク）	予習	
			復習	
第17回	内容	リズム体操・レクダンスの発表 （※グループワーク）	予習	
			復習	
第18回	内容	ミニ運動会企画（※グループワーク）	予習	
			復習	
第19回	内容	チーム宝探し　（グループワーク）	予習	
			復習	
第20回	内容	ミニ運動会　種目考案（※グループワーク）	予習	
			復習	

	第 21 回	内容	ミニ運動会　用具作成、タイムスケジュール作成 （※グループワーク）	予習	
				復習	
	第 22 回	内容	ミニ運動会	予習	
				復習	
	予習に要する学習時間：概ね　　分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね　　分を目安とする。				
課題へのフィードバック					
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　　）する／（ ○ ）しない 成績評価の方法：作品・発表（２０％）、実技（２０％）、授業態度（６０％）				
教科書	なし （必要に応じ資料等を配布）				
参考文献	なし				
注意事項	1.実技の時は、必ず指定の運動着を着用して受講すること。 2.意欲をもって積極的に取り組む姿勢を評価する。				

科　目　名	体育講義	単 位 数	1	実務経験	担当教員	しんど　のぶゆき 新戸　信之
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	DMB12102	授業形態	講義			

授業の内容	健康寿命の延伸に向けた取り組みが進められている昨今、これまでの「保健」の考え方から、積極的に健康をつくり出そうとする考え方が主流となりつつある。 　本講義では健康・運動・体力について正しい知識を学び、自ら健康の維持増進の方法を考え、実践していく力を養うことをねらいとする。
到達目標	1. 健康に関する正しい知識を学び、健康的なライフスタイルを実践する力を身に付ける。 2. 各年齢に適した食事や運動実践の方法について理解する。 3. 将来幼児教育者とし自己の健康管理、子どもたちの健康・運動の援助指導を適切に行えるよう基礎的知識を習得する。
学位授与方針	幼児教育学科（　　）地域保育学科（　1,2　）文化表現学科（　　）

授業計画

第１回	内容	受講上の留意事項について 現代社会と健康	予習	健康に関するニュースや話題を web 検索する
			復習	健康についての考えをまとめる
第２回	内容	心の健康	予習	現代社会における「こころの病気」について web 検索する。
			復習	こころの病気とその特徴についてまとめる。
第３回	内容	青年期と性	予習	若年者の性感染症の現状について web 検索する。
			復習	性感染症の種類と症状・予防についてまとめる。
第４回	内容	運動と健康	予習	「健康寿命」について web 検索する。
			復習	ライフステージ別に適した運動についてまとめる。
第５回	内容	体力	予習	現代人の体力や運動能力が低下している原因について考察する。
			復習	体力の分類を整理し、その必要性についてまとめる
第６回	内容	置トレーニングの基礎理論	予習	アスリートがどのようなトレーニングを行っているか調べる。
			復習	トレーニングの原理、原則及び種類についてまとめる。
第７回	内容	スポーツ傷害と応急処	予習	身近なスポーツに潜む危険について考察する。
			復習	スポーツに纏わる外傷や障害の症状及び応急処置についてまとめる。
第８回	内容		予習	
			復習	

予習に要する学習時間：概ね　　分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね　　分を目安とする。

課題へのフィードバック	小テスト終了後に解説をする。
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　）する／（ ○ ）しない 成績評価の方法：　筆記試験（６０％）＊授業内における小テスト、レポート・課題（２０％）,授業態度（２０％）
教科書	『大学生のための体育講義－今日つくる未来・今日を生きる課題－（若井香保里他、推敲舎）
参考文献	『健康づくりのための運動科学』(鵤木秀夫編、化学同人)、『大学生の健康・スポーツ科学』(大学生の健康・スポーツ科学研究会編、道和書院)
注意事項	

科目名	地域保育基礎講座	単位数	2	実務経験	担当教員	かがや　たかふみ 加賀谷　崇文　他
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	EDU21101	授業形態	講義			

授業の内容	本授業では、これから三年間の短大教育を始めるに当たって、必要な基礎学力や学ぶための姿勢について講義を行う。また、地域保育学科の理念を理解し、特色を持った保育者となるための教育も行う。 　後期は、公務員試験対策として基礎学力や一般教養についての具体的な学習を行う。
到達目標	1.短期大学の学びを理解している。 2.地域保育学科の教育理念を理解し、特色を持った保育者になることを目指している。 3. 発表を人前で行うことができる。 4. 公務員試験を合格することができる学力を有している。
学位授与方針	幼児教育学科（　　）地域保育学科（1,2　　）文化表現学科（　　）

授業計画

第1回	内容	オリエンテーション	予習	シラバスを読んでおく
			復習	資格取得必要事項の確認
第2回	内容	学校施設紹介・図書館利用方法	予習	シラバスを読んでおく
			復習	授業内容の確認
第3回	内容	学科長講話	予習	事前に伝える
			復習	講話内容を整理する
第4回	内容	入学前課題解説	予習	事前に伝える
			復習	担任の指導内容を整理する
第5回	内容	発表について	予習	事前に伝える
			復習	発表のための本を読む
第6回	内容	大学での学び①（教科書・ノートについて）	予習	教科書 31～74 ページを読んでおく
			復習	授業内容の確認
第7回	内容	大学での学び②（自分の意見の伝え方・発表について）	予習	教科書 97～114、179～192 ページを読んでおく
			復習	授業内容の確認
第8回	内容	大学での学び③（論文の書き方・プレゼンテーションの方法）	予習	教科書 133～178、193～206 ページを読んでおく
			復習	授業内容の確認
第9回	内容	レジュメ提出・発表準備	予習	レジュメの作成
			復習	レジュメの修正
第10回	内容	発表①	予習	発表の練習
			復習	他の学生の発表を振り返る
第11回	内容	発表②	予習	発表の練習
			復習	他の学生の発表を振り返る
第12回	内容	学科企画	予習	事前に伝える
			復習	企画内容を整理する
第13回	内容	外部講師講演会	予習	事前に伝える
			復習	講演内容を確認する
第14回	内容	女性としての学び	予習	事前に伝える
			復習	授業内容の確認
第15回	内容	学外活動（行先未定）	予習	施設の概要を知っておく
			復習	見学時の感想を整理する
第16回	内容	後期オリエンテーション、保育士・保育を取り巻く状況	予習	ニュースを見る、新聞を読む。
			復習	保育士として出来ることを考える。
第17回	内容	少子化問題	予習	ニュースを見る、新聞を読む。
			復習	少子化対策を考える。
第18回	内容	子どもへの虐待問題・数学基礎	予習	ニュースを見る、新聞を読む。
			復習	虐待事件を考える。
第19回	内容	子どもの貧困問題・作文を書く	予習	ニュースを見る、新聞を読む。
			復習	原因や問題を考える。
第20回	内容	待機児童問題・歴史	予習	ニュースを見る、新聞を読む。
			復習	対策を考える。

	第 21 回	内容	海外の保育事情・男性の育児・保育専門試験	予習	ニュースを見る、新聞を読む。
				復習	日本と海外の保育を比較する。
	第 22 回	内容	ハラスメント・求められる保育士とは	予習	ニュースを見る、新聞を読む。
				復習	保育士の役割を考える。
	第 23 回	内容	復習・まとめのテスト	予習	ニュースを見る、新聞を読む。
				復習	自分の将来を考えてみる。
	第 24 回	内容	保育の歴史・社会科学	予習	ニュースを見る、新聞を読む。
				復習	保育の歴史をまとめる。
	第 25 回	内容	保育士の待遇・数学課題	予習	ニュースを見る、新聞を読む。
				復習	保育士の給料が低い理由を考える。
	第 26 回	内容	働き方改革・生物基礎	予習	ニュースを見る、新聞を読む。
				復習	ワークライフバランスを考える。
	第 27 回	内容	女性の職業・歴史	予習	ニュースを見る、新聞を読む。
				復習	興味がある職業を考える。
	第 28 回	内容	人を守る法律・保育士採用専門	予習	ニュースを見る、新聞を読む。
				復習	労働基準法を学ぶ。
	第 29 回	内容	現代社会の問題・専門試験演習	予習	ニュースを見る、新聞を読む。
				復習	どのような問題があるのか考える
	第 30 回	内容	教養試験演習	予習	全ての資料を整理する。
				復習	後期に学んだことを振り返る。
	予習に要する学習時間：概ね 90 分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね 90 分を目安とする。				
課題へのフィードバック	必要に応じて行う。				
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　）する／（〇）しない 成績評価の方法：　筆記試験（　　%）、レポート・課題（　　%）、作品・発表（50%）、実技（　　%）、授業態度（　50%）				
教科書	『改増版　大学基礎講座』（藤田哲也ほか、北大路書房）				
参考文献	『書名』（著者名、出版社名）				
注意事項	（北野５・加賀谷６・大輪６・松永１・橋本５・土屋５・伊藤５・秋山５・利根川５・星野６・新戸５・清水１５）				

科目名	地域保育基礎講座	単位数	2	実務経験	担当教員	かがや　たかふみ 加賀谷　崇文　他
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	EDU21101	授業形態	講義			

授業の内容	保育の現実を様々な角度から学ぶとともに、中学校や高校時代の復習を通じて、「学ぶこと」の基本を身に着けてもらう。 将来の就職準備のために、保育士採用試験についての簡単な説明や、それに必要な知識の基本を学ぶ。 保育に必要な常識を身に着けるだけでなく、自分で考えることを身に着けてもらうための練習を行う。
到達目標	1. 保育士や保育することの現実を知る。 2. どのような知識や経験が保育士にとって必要なのかを身に着ける。 3. 一人ひとりが自分で考えるということの重要性を身に着ける。 4. 基礎学力を身に着ける。
学位授与方針	幼児教育学科（　　）地域保育学科（１　２　５　）文化表現学科（　　）

授業計画

第１回	内容	オリエンテーション　自己紹介	予習	ニュースを見る。新聞を読む。
			復習	自分をしっかり紹介できたかを振り返る。
第２回	内容	保育士や保育を取り巻く状況　中・高校時代の復習テスト	予習	ニュースを見る。新聞を読む。
			復習	プリントを必ず読み直す。
第３回	内容	少子化問題１　社会科学（政治経済など）１	予習	ニュースを見る。新聞を読む。
			復習	少子化の原因を考える。
第４回	内容	少子化問題２　社会科学（政治経済など）２	予習	ニュースを見る。新聞を読む。
			復習	少子化対策について考えをまとめる。
第５回	内容	子どもへの虐待問題１　　数学基礎　１	予習	ニュースを見る。新聞を読む。
			復習	虐待事件を復習する。
第６回	内容	子どもへの虐待問題２　　数学基礎　２	予習	ニュースを見る。新聞を読む。
			復習	保育士としてできることを考える。
第７回	内容	子どもの貧困問題１　　作文を書く　１	予習	ニュースを見る。新聞を読む。
			復習	子どもの貧困の現状を知る。
第８回	内容	子どもの貧困問題２　　作文を書く　２	予習	ニュースを見る。新聞を読む。
			復習	原因やもたらされる問題を考える。
第９回	内容	待機児童問題１　　歴史　１	予習	ニュースを見る。新聞を読む。
			復習	児童虐待の現状について知る。
第10回	内容	待機児童問題２　　歴史　２	予習	ニュースを見る。新聞を読む。
			復習	児童虐待への対策を考える。
第11回	内容	海外の保育事情　　保育専門試験１	予習	ニュースを見る。新聞を読む。
			復習	日本の保育、世界の保育を比較する。
第12回	内容	進まない男性の育児問題　　保育専門試験２	予習	ニュースを見る。新聞を読む。
			復習	父親、母親の苦労を考える。
第13回	内容	マタハラ・パタハラ問題　　保育専門試験３	予習	ニュースを見る。新聞を読む。
			復習	仕事と育児の両立の苦労を理解する。
第14回	内容	求められる保育士とは　　話し合う	予習	ニュースを見る。新聞を読む。
			復習	保育士とは何かをあらためて考える。
第15回	内容	それまでの復習　まとめのテスト　反省	予習	ニュースを見る。新聞を読む。
			復習	自分の将来を考えてみる。
第16回	内容	保育士の歴史１　　社会科学（政治経済など）３	予習	ニュースを見る。新聞を読む。
			復習	保育の歴史について復習する。
第17回	内容	保育の歴史２　　社会科学（政治経済など）４	予習	ニュースを見る。新聞を読む。
			復習	特に戦後の保育について復習する。
第18回	内容	保育士の待遇１　　数学基礎　３	予習	ニュースを見る。新聞を読む。
			復習	保育士の現状を再認識する。
第19回	内容	保育士の待遇２　　数学基礎　４	予習	ニュースを見る。新聞を読む。
			復習	保育士の給料が低い理由を考える。
第20回	内容	働き方改革１　　生物基礎　１	予習	ニュースを見る。新聞を読む。
			復習	日本社会の労働の現実を知る。

	第 21 回	内容	働き方改革２　　生物基礎　２	予習	ニュースを見る。新聞を読む。
				復習	ワークライフバランスを考える。
	第 22 回	内容	女性の職業１　　歴史　３	予習	ニュースを見る。新聞を読む。
				復習	どのような職業があるのかを知る。
	第 23 回	内容	女性の職業２　　歴史　４	予習	ニュースを見る。新聞を読む。
				復習	興味がある職業を調べてみる。
	第 24 回	内容	働く人を守る法律１　　保育士採用専門１	予習	ニュースを見る。新聞を読む。
				復習	労働基準法を学ぶ。
	第 25 回	内容	働く人を守る法律２　　保育士採用専門２	予習	ニュースを見る。新聞を読む。
				復習	どのような問題があるのを考える。
	第 26 回	内容	現代社会の問題１　　保育士採用専門３	予習	ニュースを見る。新聞を読む。
				復習	例えば「ひきこもり」などを考える。
	第 27 回	内容	現代社会の問題２　　保育士採用専門４	予習	ニュースを見る。新聞を読む。
				復習	世界における日本について考える。
	第 28 回	内容	簡単な専門試験演習	予習	ニュースを見る。新聞を読む。
				復習	今までのプリント総復習
	第 29 回	内容	教養試験演習	予習	ニュースを見る。新聞を読む。
				復習	今までのプリント総復習
	第 30 回	内容	1 年間の復習（作文も含む）	予習	すべてのプリントの総復習
				復習	1 年間で学んだことを振り返る。
	予習に要する学習時間：概ね　３０分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね３０分を目安とする。				
課題へのフィードバック	毎回プリントを作成してくばり、学ぶべきことは伝える。				
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　）する／（○ ）しない 成績評価の方法：　筆記試験（５０%)、レポート・課題（　　%)、作品・発表（　　%)、実技（　　%)、授業態度（５０%）				
教科書	『書名』（著者名、出版社名）特になし				
参考文献	『書名』（著者名、出版社名）特になし				
注意事項					

科目名	情報処理	単位数	2	実務経験	担当教員	ほしの　おさむ 星野　治
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	EDT21101	授業形態	演習			

授業の内容	Microsoft Office に含まれる事務処理系ソフトウェア群のうち、文書作成用ソフトウェア（Word）、表計算用ソフトウェア（Excel）およびプレゼンテーション用ソフトウェア（PowerPoint）の基本的な取り扱いかたを学ぶ。 授業の後半では、各ソフトウェアの同時利用などの応用課題に取り組む。
到達目標	1. 幼児教育・保育の現場での情報メディア活用法を習得している。 2. パソコン初心者は、「覚えるよりも慣れること」の大切さを理解している。 3. パソコン経験者は、「より賢いパソコン活用の仕方」を理解している。
学位授与方針	幼児教育学科（　　）地域保育学科（ 1,2 ）文化表現学科（　　）

授業計画

第１回	内容	ガイダンス ｲﾝﾀｰﾈｯﾄでのﾓﾗﾙ、Windows の基礎知識、日本語の入力、ｿﾌﾄｳｪｱの起動終了、その他	予習	シラバスを読んでおく。
			復習	パソコンの基本操作を確実に行う。
第２回	内容	Word の学習① やさしい文書の作成、その他	予習	Word の編集画面の内容を理解する。
			復習	配布資料を用いて入力練習をする。
第３回	内容	Word の学習② 表の取り扱い、文章の修飾(ﾌｫﾝﾄ、下線、網かけ、ﾚｲｱｳﾄ、等々)、その他	予習	表の取り扱い（Word の場合）について確認する。
			復習	指定された課題（表付き文書）を作成する。
第４回	内容	Word の学習③ 文章の修飾（ｸﾘｯﾌﾟｱｰﾄ、ﾜｰﾄﾞｱｰﾄ、図・画像の挿入、ﾍﾟｰｼﾞ罫線）、その他	予習	文書の基本的な修飾機能について確認する。
			復習	指定された課題（修飾付き文書）を作成する。
第５回	内容	Word の学習④ やや高度な文書加工（ﾍﾟｰｼﾞ番号、ﾍｯﾀﾞｰ･ﾌｯﾀｰ、段落、文字列の検索・置換）、その他	予習	文書の応用的な修飾機能について確認する。
			復習	指定された課題（応用修飾付き文書）を作成する。
第６回	内容	Excel の学習① 基本的な表（数表）の作成、その他	予習	Excel の編集画面の内容を理解する。
			復習	表作成を通して Word の操作との違いを理解する。
第７回	内容	Excel の学習② 表（数表）の作成（関数の取り扱い、文字の装飾、行・列の加工、等々）、その他	予習	資料類にて示された組み込み関数を確認する。
			復習	指定された課題（計算付き数表）を作成する。
第８回	内容	Excel の学習③ より高度なﾃﾞｰﾀ処理（条件判定、ｾﾙ参照、ｸﾞﾗﾌ）、その他	予習	条件判定の指定方法について確認する。
			復習	指定された課題（条件付き数表）を作成する。
第９回	内容	Excel の学習④ より高度なﾃﾞｰﾀ処理（簡単なﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽ、ﾌｨﾙﾀﾘﾝｸﾞ）、その他	予習	入力値の並べ替え方法について確認する。
			復習	指定された課題（入力値の抽出処理）を作成する。
第 10 回	内容	PowerPoint の学習① ｽﾗｲﾄﾞ作成の基本（文字入力、ｽﾗｲﾄﾞの挿入・削除・置換）、その他	予習	PowerPoint の編集画面の内容を理解する。
			復習	指定された課題（簡単なｽﾗｲﾄﾞ）を作成する。
第 11 回	内容	PowerPoint の学習② ｽﾗｲﾄﾞ作成の応用（図表・画像の挿入、ｱﾆﾒｰｼｮﾝ効果）、その他	予習	ｽﾗｲﾄﾞの応用的な修飾方法について確認する。
			復習	指定された課題(前回の成果物の改良)を作成する。
第 12 回	内容	Word および Excel の応用① 長文ﾚﾎﾟｰﾄ（鑑賞文など）の作成、その他	予習	Word および Excel の基本操作を再確認する。
			復習	指定された課題(両ソフトの同時利用)を作成する。
第 13 回	内容	Word および Excel の応用② 各ｿﾌﾄｳｪｱの同時使用、Excel を用いた数学問題の求解、その他	予習	Word および Excel の応用操作を再確認する。
			復習	指定された課題(数学問題の求解など)を作成する。
第 14 回	内容	PowerPoint の応用 Word および Excel を併用した高度なｽﾗｲﾄﾞの作成、その他	予習	PowerPoint の基本操作を再確認する。
			復習	指定された課題（授業時に指示する）を作成する。
第 15 回	内容	全体のまとめ 幼児教育・保育の現場での情報ﾒﾃﾞｨｱ活用法について、各自の見解をまとめる。	予習	これまでに配布済みの全資料類に目を通しておく。
			復習	授業時に指定された内容のレポートを作成する。

予習に要する学習時間：概ね２５分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね２５分を目安とする。

課題へのフィードバック	提出されたレポート・課題については、必要に応じて改訂増補された成果物の再提出を求める。
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　）する／（ ○ ）しない 成績評価の方法：　レポート・課題（５０％）、授業態度（５０％）
教科書	プリントを随時配布する。
参考文献	プリントを随時配布するほか、必要に応じて随時紹介する。
注意事項	1. パソコンの操作はピアノの演奏と同じで、触れる機会が多ければ多いほど早く上達する。パソコンに対して苦手意識のある人は、たとえば授業時間外にネットサーフィンを行う等して、パソコンの取り扱いに慣れ親しむようにするとよい。 2. 無断欠席、無断遅刻等々、「無断～」な言動は厳禁とする。

科目名	英語	単位数	2	実務経験	担当教員	はまな なな 浜名 那奈
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	ENL2111	授業形態	演習			

授業の内容	国際化が進み、今後ますます、保育者が英語でのコミュニケーションを求められるようになると予想される。日本語を母国語としない子どもやその保護者と接する機会は、増えていくことだろう。たとえ英語に対する苦手意識をもっていたとしても、外国から来た子どもたちが安心して楽しい園生活を送れるよう、保育者として彼らを支えてほしい。そのためには、多文化への理解と、積極的にコミュニケーションをとる勇気が必要である。この授業では、楽しく英語に親しみながら、それらを身に付けることをねらいとする。
到達目標	1. 英語でのアクティビティに関する知識をもち、楽しんで取り組める。 2. 様々な文化的背景をもつ人々がいることを理解し、受け入れられる。 3. 日本語を母国語としない相手とも、積極的にコミュニケーションがとれる。 4. 保育者として必要な英語力を有している。
学位授与方針	幼児教育学科（　　）地域保育学科（1、2、3、4）文化表現学科（　　）

授業計画

第1回	内容	英語で自己紹介 英語の名前について	予習	シラバスを読んでおく。
			復習	英語でなめらかに自己紹介できるよう練習する。
第2回	内容	英語で話しかけられたときの対応、イースターについて 保育に役立つ英単語①	予習	イースターとは何か、調べておく。
			復習	英語での返答を声に出して練習する。
第3回	内容	英語で場所を聞かれたときの対応、母の日について 保育に役立つ英単語②	予習	英語圏の国での母の日について調べておく。
			復習	英語での道順の教え方を声に出して練習する。
第4回	内容	オノマトペを楽しもう 保育に役立つ英単語③	予習	オノマトペとは何か、調べておく。
			復習	習った単語・フレーズ等を声に出して練習する。
第5回	内容	登園・降園時の会話 保育に役立つ英単語④	予習	登園・降園のあいさつを事前に調べておく。
			復習	登園・降園のあいさつを声に出して練習する。
第6回	内容	保育者の日課①、時間の表し方 保育に役立つ英単語⑤	予習	英語での時間の表し方について調べておく。
			復習	英語での時間の表し方を声に出して練習する。
第7回	内容	保育者の日課②、ベビーシャワーについて 保育に役立つ英単語⑥	予習	ベビーシャワーとは何か、調べておく。
			復習	乳幼児保育に関する表現を声に出して練習する。
第8回	内容	電話①：電話を受ける、父の日について 保育に役立つ英単語⑦	予習	英語での電話の受け方を調べておく。
			復習	英語での電話の受け方を声に出して練習する。
第9回	内容	電話②：保護者に電話をかける 保育に役立つ英単語⑧	予習	英語での電話のかけ方を調べておく。
			復習	英語での電話のかけ方を声に出して練習する。
第10回	内容	子どもの体調不良、体温の表し方 保育に役立つ英単語⑨	予習	英語での体温の表し方について調べておく。
			復習	体調不良についての会話を声に出して練習する。
第11回	内容	排泄 保育に役立つ英単語⑩	予習	排泄の発達には個人差があることを調べておく。
			復習	おトイレを促す会話を声に出して練習する。
第12回	内容	遊び 保育に役立つ英単語⑪	予習	園児の遊びには何があるか、調べておく。
			復習	遊びの際の会話を声に出して練習する。
第13回	内容	食事・アレルギー 保育に役立つ英単語⑫	予習	子どもの食物アレルギーについて調べておく。
			復習	昼食時の会話を声に出して練習する。
第14回	内容	マザーグースを楽しもう	予習	マザーグースとは何か、調べておく。
			復習	マザーグースを声に出して練習する。
第15回	内容	英語ではがきを書く	予習	宛て先を決め、住所を調べておく。
			復習	別の相手にも英語ではがきを書く。
第16回	内容	発表：英語の絵本読み聞かせ①	予習	発表の準備をする。
			復習	発表を振り返る。
第17回	内容	発表：英語の絵本読み聞かせ②	予習	発表の準備をする。
			復習	発表を振り返る。
第18回	内容	発表：英語の絵本読み聞かせ③	予習	発表の準備をする。
			復習	発表を振り返る。
第19回	内容	お制作、ハロウィンについて 保育に役立つ英単語⑬	予習	ハロウィンとは何か、調べておく。
			復習	お制作の時間の会話を発声練習する。
第20回	内容	子どものケンカ 保育に役立つ英単語⑭	予習	子どものケンカにどう対処すべきか考えてくる。
			復習	ケンカに介入する表現を声に出して練習する。

	第 21 回	内容	子どものケガ 保育に役立つ英単語⑮	予習	子どものケガにどう対処すべきか考えてくる。
				復習	子どものケガの際の会話を声に出して練習する。
	第 22 回	内容	園外活動、感謝祭について 保育に役立つ英単語⑯	予習	感謝祭とは何か、調べておく。
				復習	園外活動時の会話を声に出して練習する。
	第 23 回	内容	卒園 保育に役立つ英単語⑰	予習	英語での祝福や感謝の表現を調べておく。
				復習	卒園時の会話を声に出して練習する。
	第 24 回	内容	クリスマスについて クリスマスカードを書く	予習	カードの宛て先を決め、住所を調べておく。
				復習	別の相手にもクリスマスカードを書く。
	第 25 回	内容	年越しについて クリスマスのアクティビティ	予習	英語圏の国での年越しについて調べておく。
				復習	アクティビティの段取りをふり返る。
	第 26 回	内容	バレンタインデーとセントパトリックスデーについて ハンディキャップのある子	予習	バレンタインデーの起源について調べておく。
				復習	授業で習った米国手話の練習をする。
	第 27 回	内容	発表：英語のアクティビティ①	予習	発表の準備をする。
				復習	発表を振り返る。
	第 28 回	内容	発表：英語のアクティビティ②	予習	発表の準備をする。
				復習	発表を振り返る。
	第 29 回	内容	発表：英語のアクティビティ③	予習	発表の準備をする。
				復習	発表を振り返る。
	第 30 回	内容	全体のまとめ	予習	これまでに配布されたプリント全体に目を通す。
				復習	一年間で何を得ることができたか、振り返る。
	予習に要する学習時間：概ね１５分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね３０分を目安とする。				
課題へのフィードバック	発表の講評を行う。 振り返りの小テストやリフレクション・カードにコメントを付す。				
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　）する／（〇）しない 成績評価の方法：作品・発表（５０％)、授業態度（５０％）　（注）各回、振り返りの小テストを実施する。				
教科書	なし				
参考文献	配布プリントで、その都度紹介する。				
注意事項	毎回、A4 サイズのプリントを配布する。一年分のプリントを収納できるよう、A4 サイズのファイルを用意すること。 発表の準備をすること。				

科　目　名	心理学入門	単位数	2	実務経験	担当教員	かがや　たかふみ 加賀谷　崇文
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	EDP21101	授業形態	講義			

授業の内容	心理学は人の心という誰にとっても身近なものを扱う学問であるが、領域は多岐に渡り、様々な分野の「～心理学」がある。本講義では、心理学における主要な考え方を紹介するとともに、学生が授業の中で、心理学的な体験をしてもらう。
到達目標	1. 心理学という学問領域を理解している。 2. 心理学の諸領域を理解している。 3. 心理学の代表的な理論を習得している。 4. 自身の体験と心理学の理論を関連付けることができる。
学位授与方針	幼児教育学科（　　）地域保育学科（　1,2　）文化表現学科（　　）

授業計画

第1回	内容	心理学とは	予習	シラバスを読んでおく。
			復習	授業内容の確認。
第2回	内容	心理学の歴史	予習	心とは何か考えてみる。
			復習	授業内容の確認。
第3回	内容	認知と心理学	予習	自分自身の感覚を理解しておく。
			復習	自分の生活に当てはめて考える。
第4回	内容	行動と心理学	予習	自分の行動パターンの特徴を考えてみる。
			復習	自分の生活に当てはめて考える。
第5回	内容	発達と心理学	予習	自分と子どもの心の違いを考えてみる。
			復習	自分の生活に当てはめて考える。
第6回	内容	知能と心理学	予習	知能と学力の違いを考えてみる。
			復習	自分の生活に当てはめて考える。
第7回	内容	性格と心理学	予習	自分の性格特徴を考えてみる。
			復習	自分の生活に当てはめて考える。
第8回	内容	心理テストと心理学	予習	自分の性格のわからないところを考えてみる。
			復習	自分の生活に当てはめて考える。
第9回	内容	精神医学と心理学	予習	心の不健康とは何か考えてみる。
			復習	自分の生活に当てはめて考える。
第10回	内容	悩みと心理学	予習	自分の悩みを振り返ってみる。
			復習	自分の生活に当てはめて考える。
第11回	内容	対人援助と心理学	予習	自分と他者の関わり方を考えてみる。
			復習	自分の生活に当てはめて考える。
第12回	内容	その他の心理学	予習	心理学の種類を調べる。
			復習	自分の生活に当てはめて考える。
第13回	内容	心理学と研究	予習	客観的データとは何かを考えてみる。
			復習	自分の生活に当てはめて考える。
第14回	内容	心理学と実験	予習	心理学の実験法を調べてみる。
			復習	自分の生活に当てはめて考える。
第15回	内容	心理学と生活	予習	心理学を生かせる場面について考えてみる。
			復習	自分の生活に当てはめて考える。

予習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。

課題へのフィードバック	テストの結果について知らせる。
成績評価	試験期間における定期試験：実施（○）する／（　）しない 成績評価の方法：　筆記試験（90%）、授業態度（10%）
教科書	『新体系　看護学全書　基礎分野　心理学』（田中一彦、長田久雄、メヂカルフレンド社）
参考文献	
注意事項	私語を慎むこと。

科目名	マンガ・イラスト表現	単位数	2	実務経験	担当教員	いいだ　こういちろう 飯田　耕一郎
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	ARL21101	授業形態	演習			

授業の内容	マンガは絵と物語の両方を合わせた世界なので、デッサン、キャラクター、背景、パースなどの基本を複合的に進めていく形になると思います。 イラストもまた物語性を理解することによって創作の幅が拡がるものと考えて大きな区別はありません。
到達目標	1. 人物の顔と表情が描き分けられるようになり、いろんなキャラを描ける。 2. 人物の全身は難しいですが、チビキャラで構造を理解し描けるようになる。 3. 人物に合わせて背景も描けるためのパースの基礎を理解できるようになる。 4.
学位授与方針	幼児教育学科（　　）地域保育学科（　　）文化表現学科（　　）

授業計画

第1回	内容	**【○と□を描こう】円と四角を描けることが基本の基本。**	予習	シラバスを確認する。
			復習	この日の課題をあらためて描いてみる。
第2回	内容	**【いろんな表情を描こう】表情が変化するパターンを学ぶ。**	予習	シラバスを確認しておく。
			復習	この日の課題をあらためて描いてみる。
第3回	内容	**【喜怒哀楽の表情を描こう】感情表現を理解する。**	予習	課題を元にイメージスケッチしてみる。
			復習	この日の課題をあらためて描いてみる。
第4回	内容	**【二頭身キャラを描こう】シンプルなキャラを描く。**	予習	課題を元にイメージスケッチしてみる。
			復習	この日の課題をあらためて描いてみる。
第5回	内容	**【二頭身キャラのアクション】キャラに動きをつける。**	予習	課題を元にイメージスケッチしてみる。
			復習	この日の課題のバリエーションを描いてみる。
第6回	内容	**【三頭身キャラを描こう】キャラを描く。**	予習	課題を元にイメージスケッチしてみる。
			復習	この日の課題のバリエーションを描いてみる。
第7回	内容	**【三頭身キャラのアクション】キャラに動きをつける。**	予習	課題を元にイメージスケッチしてみる。
			復習	この日の課題のバリエーションを描いてみる。
第8回	内容	**【一点透視図法を学ぼう】パースを理解する。**	予習	遠近のある物を描いてみる。
			復習	この日の課題のバリエーションを描いてみる。
第9回	内容	【二点透視図法と三点透視図法を学ぼう】パースを理解する。	予習	遠近のある物を描いてみる。
			復習	この日の課題のバリエーションを描いてみる。
第10回	内容	【色んな角度から顔を描く】同一人物を角度を変えて描く。	予習	遠近のある物を描いてみる。
			復習	この日の課題のバリエーションを描いてみる。
第11回	内容	**【倒れた瓶を模写してみよう】模写の仕方を学ぶ。**	予習	好きな物を模写してみる。
			復習	この日の課題のバリエーションを描いてみる。
第12回	内容	【シワの描き方を学ぼう】服のなどのシワの理屈を学ぶ。	予習	シワをスケッチしてみる。
			復習	この日の課題のバリエーションを描いてみる。
第13回	内容	【六頭身キャラを描いてみよう】フルサイズのキャラ描く。	予習	課題を元にイメージスケッチしてみる。
			復習	この日の課題のバリエーションを描いてみる。
第14回	内容	【全身で感情表現してみよう】感情と動きを全身で描く。	予習	課題を元にイメージスケッチしてみる。
			復習	この日の課題のバリエーションを描いてみる。
第15回	内容	**【色を塗ってみよう】塗り絵でカラー表現を学ぶ。**	予習	色鉛筆を準備しておく。
			復習	この日の課題のバリエーションを描いてみる。

予習に要する学習時間：概ね　15分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね　30分を目安とする。

課題へのフィードバック	課題作品にたいしてのアドバイスによる修正点、上達ポイントを指摘することでより向上を目指します。
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　）する／（○）しない 成績評価の方法：　筆記試験（0%）、レポート・課題（30%）、作品・発表（20%）、実技（30%）、授業態度（20%）
教科書	なし
参考文献	なし
注意事項	

科目名	日本語表現	単位数	2	実務経験	担当教員	はまな　なな 浜名 那奈
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	EDU2112	授業形態	講義			

授業の内容	文章作成の基本を知り、美しい日本語、読みやすい文章とは何かを学ぶ。また、日本語の基礎を身につけ、常識としての日本語表現を習得する。人前で発表することで、わかりやすい説明の仕方を身につけると同時に、読書する喜びを味わう。
到達目標	1. 社会生活に必要な漢字、熟語等の語彙を取得している。 2. わかりやすく読みやすい文章の基本を学び、文章表現技術を習得している。 3. 名文の観賞力を習得している。 4. 人前で発表できる。 5. 日常的に読書をする習慣を取得している。
学位授与方針	幼児教育学科（　　）地域保育学科（1・2）文化表現学科（　　）

授業計画

第1回	内容	オリエンテーション	予習	シラバスを読んでおく。
			復習	自分の読書暦を振り返る。
第2回	内容	名文を読む	予習	自分の好きな文学を準備する。
			復習	文学の朗読の練習をする。
第3回	内容	詩を鑑賞する	予習	自分の好きな詩集を準備する。
			復習	詩の朗読の練習をする。
第4回	内容	保育士に必要な日本語トレーニング① ことわざ、四字熟語を学ぶ。	予習	ことわざ、四字熟語について調べる。
			復習	ことわざ、四字熟語を覚える。
第5回	内容	保育士に必要な日本語トレーニング② 正しい表記の仕方　間違えやすい熟語・漢字を学ぶ。	予習	間違えやすい表記、熟語、漢字について調べる。
			復習	正しい表記、熟語、漢字の書き方を覚える。
第6回	内容	保育士に必要な日本語トレーニング③ 敬語の基本を学ぶ。	予習	敬吾について調べる。
			復習	正しい敬吾の使い方を覚える。
第7回	内容	保育士に必要な日本語トレーニング④ 敬語を使う。	予習	正しい敬吾を使えるようにする。
			復習	日常的に敬吾を使う。
第8回	内容	保育士に必要な日本語トレーニング⑤ 文章トレーニング	予習	日常生活で気付いたことをメモする。
			復習	エッセイにまとめる。
第9回	内容	保育士に必要な日本語トレーニング⑥ 自由文を書く。	予習	興味のあるテーマを探す。
			復習	自由文にまとめる。
第10回	内容	保育士に必要な日本語トレーニング⑦ テーマに沿って書く。	予習	保育に関するテーマの資料を準備する。
			復習	レポートにまとめる。
第11回	内容	保育士に必要な日本語トレーニング⑧ 手紙、はがきを書く。	予習	手紙、はがきの書き方を調べる。
			復習	手紙、はがきを書く。
第12回	内容	発表の仕方を学ぶ。	予習	発表の仕方を調べる。
			復習	発表の仕方をまとめる。
第13回	内容	発表①　発表し、その後の振り返りをする。(アクティブ・ラーニング)	予習	発表の準備をする。
			復習	発表全般の振り返りをする。
第14回	内容	発表②　発表し、振り返りをする。	予習	発表の準備をする。
			復習	発表全般の振り返りをする。
第15回	内容	発表③　発表し、振り返りをする。	予習	発表の準備をする。
			復習	発表全般の振り返りをする。

予習に要する学習時間：概ね 90　　分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね　90　　分を目安とする。

課題へのフィードバック	授業内にて小テストを行い、要点を解説する。次回の内容と予習すべき事項を示す。
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　）する／（ ○ ）しない 成績評価の方法：　筆記試験 (30　　%)、レポート・課題（　40　%)、作品・発表（　20　%)、実技（　　%)、授業態度（　10　%)
教科書	『書名』(著者名、出版社名)『保育者になるための国語表現』(田上貞一郎、萌文書林
参考文献	『書名』(著者名、出版社名)　その都度紹介する。
注意事項	授業を通して、日本語に対する意識を高め、美しい日本語を身に付けるよう努力してほしい。

科目名	データサイエンス	単位数	2	実務経験	担当教員	星野（ほしの） 治（おさむ）
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	STS12101	授業形態	演習			

授業の内容	本授業では、パソコンの表計算ソフトウェアを併用した統計処理の基本を学ぶ。 また、実在の集計データ（学外事業体が公開提供しているものなど）を用いて、データ処理業務の一端を模擬的に体験する。 本授業は、パソコンやデータに興味関心をもつ学生（科目等履修生を含む）であれば、所属学科を問わず誰でも受講を歓迎する。
到達目標	1. データ処理演習を通して、データが内包する様々な情報の意味を理解できる。 2. パソコンを積極的に活用する作業について、その利便性や問題点を理解できる。 3. 今後の社会に必要とされる基本的な数理的思考や、データの分析・活用ができる。
学位授与方針	幼児教育学科（　３，４，５　）地域保育学科（　２，３，５　）文化表現学科（　２，３，４　）

授業計画

第１回	内容	ガイダンス 統計学の基本①：統計学の成り立ちと意義	予習	シラバスを読んで、授業の流れを把握する。
			復習	配布プリントを再読し、疑問点を整理する。
第２回	内容	統計学の基本②：いろいろな統計値の意味	予習	第１回授業時の配布プリントを再々読する。
			復習	追加配布プリントを再読する。
第３回	内容	統計学の基本③：可視化を通して分かるデータの性質	予習	第２回授業までの全配布プリントを再々読する。
			復習	追加配布プリントを再読する。
第４回	内容	統計学の基本④：様々な検定手法	予習	第３回授業までの全配布プリントを再々読する。
			復習	追加配布プリントを再読する。
第５回	内容	第１回～第４回の授業の総括	予習	第４回授業までの全配布プリントを再々読する。
			復習	授業時に出題された課題Ⅴの準備を始める。
第６回	内容	統計学演習①：平均値、中央値、標準偏差、分散、順位、偏差値、etc.	予習	第５回授業時の配布プリントを再読する。
			復習	授業時に出題された演習問題Ⅰを手掛ける。
第７回	内容	統計学演習②：ABC 分析、相関分析、回帰分析、etc.	予習	第５回・第６回の配布プリントを再々読する。
			復習	授業時に出題された演習問題Ⅱを手掛ける。
第８回	内容	統計学演習③：時系列分析、平均値の差の検定、分散の差の検定、etc.	予習	第５～７回までの全配布プリントを再々読する。
			復習	授業時に出題された演習問題Ⅲを手掛ける。
第９回	内容	統計学演習④：独立性の検定、相関の検定、重回帰分析、etc.	予習	第５～８回までの全配布プリントを再々読する。
			復習	授業時に出題された演習問題Ⅳを手掛ける
第 10 回	内容	第６回～第９回の授業の総括	予習	第５～９回までの全配布プリントを再々読する。
			復習	演習問題Ⅰ～Ⅳおよび既出の課題Ⅴを完成する。
第 11 回	内容	実際の集計データの処理①：身近なデータ（身長と体重、etc.）の特徴を探る	予習	第 10 回授業時の配布プリントを再読する。
			復習	追加配布プリントを再読する。
第 12 回	内容	実際の集計データの処理②：自然科学系データ（地震情報、etc.）の数値処理を学ぶ	予習	第 10～11 回までの全配布プリントを再々読する。
			復習	追加配布プリントを再読する。
第 13 回	内容	実際の集計データの処理③：大規模データ（公共事業関連など）の分析を試みる	予習	第 10～12 回までの全配布プリントを再々読する。
			復習	追加配布プリントを再読する。
第 14 回	内容	第 11 回～第 13 回の授業の総括：実際の集計データに係る処理結果の発表と考察	予習	第 11～13 回までの処理結果をまとめておく。
			復習	発表内容に対する各自のコメントを整理する。
第 15 回	内容	全授業の総括	予習	これまでの全配布プリントを再度熟読する。
			復習	授業時に出題された課題Ⅵを仕上げて提出する。

予習に要する学習時間：概ね 25 分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね 25 分を目安とする。

課題へのフィードバック	授業開講期間の後半において、実在の集計データに対する数値分析を履修者が分担して行い、その結果および解釈を互いに論評し合う。
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　）する／（ ○ ）しない 成績評価の方法：　レポート・課題（50%）、作品・発表（25%）、授業態度（25%）
教科書	プリントを随時配布するほか、必要に応じて紹介する。
参考文献	『やさしく学ぶ　データ分析に必要な統計の教科書』（羽山　博著、株式会社インプレス刊）、その他必要に応じて紹介する。
注意事項	1. 本授業で取り上げる統計処理は、いずれも Microsoft Excel の標準搭載機能を利用している。そのため、本授業を受講することによって“統計学の基本知識の習得”および“Microsoft Excel の操作全般に係る総復習”の機会を得ることができる。 2. 上記「授業計画」の内容は、授業の実際の進行具合などに応じて、適宜変更されることがある。 3. 担当教員の業務都合などの理由により授業の開講日時が変更される場合は、教務課掲示板にて通知する。 4. 他の授業と同じく、無断欠席・無断遅刻・無断発語・無断退出など「無断～」な言動は厳に慎むこと。

科　目　名	保育原理Ⅰ	単 位 数	2	実務経験	担当教員	つちや　ゆう 土屋　由
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	EDU22101	授業形態	講義			

授　業　の 内　　容	本講義では、主に次のような内容を学ぶ。 1．　保育の制度や現状、保育の思想や歴史について学び、保育の意義を学ぶ。 2．『保育所保育指針』・『幼稚園教育要領』・『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』を踏まえて、生活や遊びを中心とした保育内容、子ども理解や保育の計画といった保育の基本的な考え方を学ぶ。 3．保育・子育てに関する現状や課題を理解し、今日的な課題について考える。
到 達 目 標	1．1. 保育の制度や現状、保育の思想や歴史について学び、保育の意義を理解している。 2．生活や遊びを中心とした保育内容、子ども理解や環境構成といった保育の基本的な考え方を理解している。 3．子どもの育ちにかかわる保護者・保育者にとっての保育の意義を理解している。 4．保育・子育てに関する現状や課題を理解し、今日的な課題について考えることができる。
学位授与方針	幼児教育学科（　　）地域保育学科（①②④　）文化表現学科（　　）

授 業 計 画					
	第1回	内容	オリエンテーション	予習	教科書の全体に目を通す
				復習	幼稚園教育要領や保育所保育指針に目を通す
	第2回	内容	保育の意義（子ども・保護者・保育者、それぞれが育つ場所）	予習	保育の意義について、プリントの穴埋めをする
				復習	保育の意義をノートに整理する
	第3回	内容	保育の制度と現状	予習	保育の制度と現状について、プリントの穴埋め
				復習	保育の制度と現状をノートに整理する
	第4回	内容	保育の思想と歴史（西洋を中心とした諸外国の保育の歴史）	予習	保育の思想と歴史（西洋）のプリント穴埋め
				復習	保育の思想と歴史（西洋）をノートに整理する
	第5回	内容	保育の思想と歴史（日本における保育の歴史）	予習	保育の思想と歴史（日本）のプリント穴埋め
				復習	保育の思想と歴史（日本）をノートに整理する
	第6回	内容	保育の基本的な考え方①子どもの主体性を尊重する	予習	子どもの主体性の尊重、プリントの穴埋め
				復習	子どもの主体性の尊重をノートに整理する
	第7回	内容	保育の基本的な考え方②遊びを中心とする保育	予習	遊びを中心とする保育、プリントの穴埋め
				復習	遊びを中心とする保育をノートに整理する
	第8回	内容	保育の基本的な考え方③環境を通しての育ち	予習	環境を通しての育ち、プリントの穴埋めをする
				復習	環境を通しての育ちをノートに整理する
	第9回	内容	保育の基本的な考え方④子ども一人ひとりの発達過程を捉える	予習	子どもの発達過程、プリントの穴埋めをする
				復習	子どもの発達過程をノートに整理する
	第10回	内容	保育の基本的な考え方⑤個と集団	予習	個と集団についてプリントの穴埋めをする
				復習	個と集団をノートに整理する
	第11回	内容	保育の基本的な考え方⑥全体的な計画・教育課程と指導計画	予習	保育の計画についてプリントの穴埋めをする
				復習	保育の計画をノートに整理する
	第12回	内容	子どもと自然	予習	子どもと自然、プリントの穴埋めをする
				復習	子どもと自然をノートに整理する
	第13回	内容	子どもと文化	予習	子どもと文化、プリントの穴埋めをする
				復習	子どもと文化をノートに整理する
	第14回	内容	保育における子ども理解	予習	子ども理解、プリントの穴埋めをする
				復習	子ども理解をノートに整理する
	第15回	内容	保育者に求められるもの、まとめ	予習	これまでの内容を整理する
				復習	学んだ内容を整理する
	予習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。				

課題へのフィードバック	定期試験の内容について、解説を行う。
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　）する／（○）しない 成績評価の方法：　筆記試験（70%）、レポート・課題（20%）、授業態度（10%）
教科書	『つながる保育原理』（井上孝之他、みらい）
参考文献	『保育所保育指針解説書』（厚生労働省、フレーベル館）　『幼稚園教育要領解説』（文部科学省、フレーベル館） 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（内閣府・文部科学省・厚生労働省、フレーベル館）
注意事項	

科目名	教育原理	単位数	2	実務経験	担当教員	とねがわ　あきひろ 利根川　彰博
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	EDU22103	授業形態	講義			

授業の内容	この授業では、他者との出会いの中に「教育」の根源的な性質が存在することを理解することから始める。そのうえで、子どもに対する考え方が歴史的にどのように変化し、学校教育へと制度化していったかを学んでいく。授業の後半では、今日的な教育課題へと視野を広げ、子どもをとりまく現状について理解を深めていく。
到達目標	１．人間の教育を成り立たせている諸要素を理解している。 ２．子どもの教育の歴史的・制度的な変遷を理解している。 ３．現代の日本社会の教育問題について意識を向ける。 ４．これまで受けてきた教育経験を教育学の基礎的な諸概念を用いて説明することができる。
学位授与方針	幼児教育学科（　　）地域保育学科（１，２，４　）文化表現学科（　　）

授業計画

第１回	内容	オリエンテーション：教育学とは何か	予習	シラバスを読み、授業計画を把握する。
			復習	授業の評価方法や注意事項を確認する。
第２回	内容	教育の概念①：人間の発達と赤ちゃんの特徴	予習	人間の赤ちゃんの特徴を調べる。
			復習	哺乳類動物と人間の赤ちゃんを比較し、その特徴を整理する。
第３回	内容	教育の概念②：人間の発達過程と他者との関わり	予習	乳幼児と大人の会話場面を観察する。
			復習	乳幼児と大人の相互行為の特徴を整理する。
第４回	内容	教育と社会①：教育における家庭と社会の役割	予習	「しつけ」の言葉の意味を調べる。
			復習	教育の社会的機能についてまとめる。
第５回	内容	教育と社会②：分業化社会と教育	予習	課題文を読み、要点をまとめる。
			復習	社会形態の変遷と教育の関係を整理する。
第６回	内容	教育の思想①：西洋近代の教育思想と近代的な子ども観	予習	今日的な子どものイメージを調べる。
			復習	子ども観の変遷をまとめる。
第７回	内容	教育の思想②：日本社会における子ども観の変化と子どもの生活	予習	資料から読み取った内容をまとめる。
			復習	日本社会の子ども観の変遷を整理する。
第８回	内容	中間のまとめと補論：子ども・家庭・社会の歴史的展開と相互の関連性	予習	これまでの授業の質問事項をまとめる。
			復習	子ども・家庭・社会の関係を整理する。
第９回	内容	教育の歴史①：西洋の近代学校教育制度の成立と展開	予習	資料から読み取った内容をまとめる。
			復習	西洋の近代学校教育制度の変遷を整理する。
第10回	内容	教育の歴史②：日本の近代学校教育制度の成立と展開	予習	資料から読み取った内容をまとめる。
			復習	日本の近代学校教育制度の変遷を整理する。
第11回	内容	教育の概念③：教育と社会化	予習	「社会化」という言葉の意味を調べる。
			復習	「社会化」の具体的事例をまとめる。
第12回	内容	教育の概念④：就学前教育から小学校への移行期と子どもの社会化	予習	課題文を読み、要点をまとめる。
			復習	就学前教育と小学校の教育の特徴を整理する。
第13回	内容	今日の教育の課題①：社会的マイノリティと教育	予習	課題文を読み、要点をまとめる。
			復習	社会的マイノリティへの対応を整理する。
第14回	内容	今日の教育の課題②：教育における排除と包摂	予習	課題文を読み、要点をまとめる。
			復習	教育における排除の構造を整理する。
第15回	内容	全体のまとめと補論：教育とは何か	予習	これまでの授業の質問事項をまとめる。
			復習	教育とは何かについて意見をまとめる。

予習に要する学習時間：概ね９０分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね９０分を目安とする。

課題へのフィードバック	授業内課題はコメントをつけて返却する
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　　）する／（○）しない 成績評価の方法：　筆記試験（４０％）、レポート・課題（３０％）、授業態度（３０％）
教科書	なし
参考文献	『はじめての子ども教育原理』（福本真由美編，有斐閣ストゥディア）　『幼稚園教育要領解説』（文部科学省、フレーベル館）
注意事項	・授業毎にプリントを配布する。配布プリントはファイルにまとめて保管しておくこと。

科　目　名	子ども家庭福祉	単 位 数	2	実務経験	担当教員	あきやま　ひろこ 秋 山　展子
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	SWS2321	授業形態	講義			

授　業　の 内　　容	現代社会における児童の成長・発達、生活実態や子ども家庭福祉の歴史的変遷、理念や意義について学ぶ。子どもの人権擁護についてや制度や実施体系等について理解する。子ども家庭福祉の動向と展望について理解する。
到 達 目 標	1．専門職のあり方や児童福祉と環境との関わりの問題を理解している。 2．相談援助活動や家族支援のための施策等について理解している。 3．児童福祉関係法とサービス体系の供給を理解している。
学位授与方針	幼児教育学科（　　）地域保育学科（　1・4　）文化表現学科（　　）

授 業 計 画					
	第1回	内容	現代社会と子ども家庭	予習	シラバスを読んでおく
				復習	この科目で習得すべき内容を理解する
	第2回	内容	子どもの育ち、子育てのニーズ	予習	教科書「現代児童福祉」章の前半を読んでおく
				復習	プリントを中心に現代児童福祉をまとめる
	第3回	内容	子ども家庭福祉とは何か	予習	教科書「現代児童福祉」章の後半を読んでおく
				復習	プリントを中心に子どもの環境内容をまとめる
	第4回	内容	子どもと家庭の権利保障	予習	教科書「子どもの権利擁護」の章を読んでおく
				復習	プリントを中心に子どもの権利擁護をまとめる
	第5回	内容	子ども家庭福祉にかかわる法制度	予習	教科書「児童福祉法体系」の章を読んでおく
				復習	プリントを中心に児童福祉法体系をまとめる
	第6回	内容	子ども家庭福祉の実施体制	予習	教科書「実施体系」の章を読んでおく
				復習	プリントを中心に実施体系についてまとめる
	第7回	内容	子ども家庭福祉の専門職	予習	教科書「専門職」の章を読んでおく
				復習	プリントを中心に専門職についてまとめる
	第8回	内容	子ども家庭にかかわる福祉・保健	予習	教科書「母子保健」の章を読んでおく
				復習	プリントを中心に内容をまとめる
	第9回	内容	児童健全育成	予習	教科書「健全育成」の章を読んでおく
				復習	プリントを中心に母子保健についてまとめる
	第10回	内容	ひとり親家庭の福祉	予習	教科書「子育て家庭支援」の章を読んでおく
				復習	プリントを中心に子育て家庭支援をまとめる
	第11回	内容	児童虐待対策	予習	教科書「要保護児童支援」の章を読んでおく
				復習	プリントを中心に要保護児童についてまとめる
	第12回	内容	非行児童・情緒障害児への支援	予習	教科書「少年非行」の章を読んでおく
				復習	プリントを中心に非行少年についてまとめる
	第13回	内容	子どもと家庭にかかわる女性福祉	予習	教科書「保育サービス」の章を読んでおく
				復習	プリントを中心に保育サービスについてまとめる
	第14回	内容	子ども家庭への援助活動	予習	教科書「連携支援」の章を読んでおく
				復習	プリントを中心に連携支援についてまとめる
	第15回	内容	これまでのまとめ	予習	教科書・プリントの内容を整理する
				復習	学習内容をまとめて、学習成果を振り返る
	予習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。				

課題へのフィードバック	・小テストを行い、試験後に解答を示し、解説をおこなう。 ・提出物等について確認を行う。
成績評価	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（○）しない 成績評価の方法：　筆記試験（50%）、レポート・課題（20%）、授業態度（30%）※講義の中で必要に応じて小テストをおこなう。
教科書	『保育者養成シリーズ　新版・児童家庭福祉論』（山﨑順子・髙玉和子・和田上貴昭編著、一芸社） 『子育てとケアの原理』（髙橋貴志監修、望月雅和編著、北樹出版）
参考文献	なし
注意事項	なし

科目名	社会福祉	単位数	2	実務経験	担当教員	あきやま ひろこ 秋山 展子
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	SWS22101	授業形態	講義			

授業の内容	福祉制度の意義や理念，福祉政策との関係、福祉政策におけるニーズと資源、福祉政策の構成要素やその課題などについて学ぶことを目的としている。さらに、社会福祉における子ども家庭支援の視点についても理解する。
到達目標	1．福祉政策を理解している。 2．現代における福祉課題を理解している。 3．社会の変化について理解している
学位授与方針	幼児教育学科（　　）地域保育学科（　1・4　）文化表現学科（　　）

授業計画

第1回	内容	社会福祉の新たな展開	予習	シラバスを読んでおく
			復習	この科目で習得すべき内容を理解する
第2回	内容	福祉政策理解の枠組み	予習	自身の生活と福祉のつながりを考えてくる
			復習	現代生活と福祉の関係を理解する
第3回	内容	社会の変化と福祉	予習	教科書「生活と社会福祉」の章を読んでおく
			復習	プリントを中心に現代社会の変化をまとめる
第4回	内容	福祉と福祉政策	予習	教科書「生活保護」の章を読んでおく
			復習	プリントを中心に福祉政策についてまとめる
第5回	内容	福祉の思想と哲学	予習	教科書「社会福祉の歴史」の章を読んでおく
			復習	プリントを中心に福祉思想についてまとめる
第6回	内容	社会政策と福祉政策	予習	教科書「社会福祉の法律」の章を読んでおく
			復習	プリントを中心に福祉関連法をまとめる
第7回	内容	福祉政策の民間活動	予習	教科書「民間活動」の章を読んでおく
			復習	プリントを中心に民間活動についてまとめる
第8回	内容	保育と社会福祉	予習	教科書「保育と社会福祉」の章を読んでおく
			復習	プリントを中心に保育と福祉についてまとめる
第9回	内容	福祉政策における必要と資源	予習	教科書「利用者保護」の章を読んでおく
			復習	プリントを中心に社会資源についてまとめる
第10回	内容	障がい者福祉	予習	教科書「障がい者福祉」の章を読んでおく
			復習	プリントを中心に障がい者福祉の内容をまとめる
第11回	内容	福祉政策の関連領域	予習	教科書「社会福祉従事者」の章を読んでおく
			復習	プリントを中心に福祉従事者についてまとめる
第12回	内容	社会福祉制度の体系	予習	教科書「行政組織」の章を読んでおく
			復習	プリントを中心に福祉制度内容をまとめる
第13回	内容	児童家庭福祉	予習	教科書「児童家庭福祉」の章を読んでおく
			復習	プリントを中心に児童家庭福祉の内容をまとめる
第14回	内容	福祉教育	予習	教科書「福祉教育」の章を読んでおく
			復習	プリントを中心に福祉教育についてまとめる
第15回	内容	これまでのまとめ	予習	教科書・プリントの内容を整理する
			復習	学習内容をまとめて、学習成果を振り返る

予習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。

課題へのフィードバック	・小テストを行い、試験後に解答を示し、解説をおこなう。 ・提出物等について確認を行う。
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　）する／（○）しない 成績評価の方法：筆記試験（50%）、レポート・課題（20%）、授業態度（30%）※講義の中で必要に応じて小テストをおこなう。
教科書	『社会福祉の基本体系　第5版』（井村圭壮編著、勁草書房）
参考文献	なし
注意事項	なし

科目名	保育の心理学	単位数	2	実務経験	担当教員	いとう　あきよし 伊藤　明芳
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	EDP22101	授業形態	講義			

授業の内容	本講義では、発達心理学と教育心理学等の基礎的知識の獲得と現場で生きる実践的能力の応用を図ることを目的とする。 保育方法の工夫への手立て、家庭や保護者との関わり、保育者自身の心の安定と成長等にもアプローチしたいと考えている。
到達目標	1. 発達心理学、教育心理学等の基本的および発展的知識を正確に習得している。 2. 学んだ知識を活用して、実際の保育現場の子どもの心の発達等について考えられる力を身につけている。 3. 学んだ知識を子育て支援に活かすことができる。
学位授与方針	幼児教育学科（　　）地域保育学科（　1,4　　）文化表現学科（　　）

授業計画

第1回	内容	イントロダクション	予習	シラバスを読み、授業計画を把握する。
			復習	授業内容と評価方法について理解する。
第2回	内容	保育の心理学の基礎①［発達理論］	予習	発達理論について調べる。
			復習	発達理論について理解し整理する。
第3回	内容	保育の心理学の基礎②［発達理論］	予習	その他の発達理論について調べる。
			復習	発達理論について理解し整理する。
第4回	内容	保育の心理学の基礎③［教育心理学の理論等］	予習	教育心理学の理論等について調べる。
			復習	教育心理学の理論等について調べる。
第5回	内容	保育の心理学の基礎④［教育心理学の理論等］	予習	その他の教育心理学の理論等について調べる。
			復習	教育心理学の理論等について理解し整理する。
第6回	内容	知的機能の発達	予習	知的機能について調べる。
			復習	知的機能について理解し整理する。
第7回	内容	情緒の芽生えと発達	予習	情緒について調べる。
			復習	情緒について理解し整理する。
第8回	内容	社会性の発達	予習	社会性について調べる。
			復習	社会性について理解し整理する。
第9回	内容	発達障害［発達障害とは何か］①	予習	発達障害について調べる。
			復習	発達障害について理解し整理する。
第10回	内容	発達障害［発達障害の種類］②	予習	発達障害の種類について調べる。
			復習	発達障害の種類について理解し整理する。
第11回	内容	発達障害［発達障害への対応］③	予習	発達障害への対応について調べる。
			復習	発達障害への対応について理解し整理する。
第12回	内容	子どもの発達への関わりと保育方法の工夫	予習	子どもの発達について調べる。
			復習	発達への関わりと工夫について理解し整理する。
第13回	内容	家庭、保護者、他機関等との連携	予習	家庭、保護者、他機関等との連携
			復習	他者・他機関との連携について理解し整理する。
第14回	内容	保育者自身の心の健康	予習	心の健康について調べる。
			復習	保育者の心の健康について理解し整理する。
第15回	内容	まとめと今後へのアドバイス	予習	本講義全体の学びと疑問点を整理する。
			復習	学んだ知見の活用について考察をする。

予習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね60分を目安とする。

課題へのフィードバック	受講学生に対して、講義内容、試験のフィードバックをおこなう。
成績評価	試験期間における定期試験：実施（○）する／（　）しない 成績評価の方法：　筆記試験（60　%）、授業態度（40%）
教科書	特に指定しない。
参考文献	講義の際に随時紹介する。
注意事項	講義を中心におこなう。実際の事例などをあげ、受講生にわかりやすい内容を心がけたい。その他、事例やビデオ視聴等で理解を深め、さまざまな知見等を保育の実践に活かすことを考える。受講者には自ら学び考える意欲をもって授業に参加する態度が求められる。

科　目　名	子ども家庭支援の心理学	単位数	2	実務経験	担当教員	かがや　たかふみ 加賀谷　崇文
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	EDP22102	授業形態	講義			

授業の内容	①生涯発達に関する心理学の基本的知識を身につけ、各発達段階の発達課題について理解すること、②現代社会における家族・家庭のあり方や多様な家庭について理解すること、③子どもの心の健康に関する課題について理解すること。これら３つの視点から子ども家庭支援について包括的に理解することを本講義の目的とする。
到達目標	1. 生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、発達課題について理解している 2. 家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係などについて発達的な観点から理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得している 3. 子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について理解している 4. 子どもの精神保健とその課題について理解している
学位授与方針	幼児教育学科（　　）地域保育学科（地域保育学科　①・②・3・4・5　　）文化表現学科（　　）

授業計画					
	第１回	内容	**オリエンテーション、乳児期の発達**	予習	**シラバスを読んでキーワードを調べておく**
				復習	**親子関係の重要性についてまとめる**
	第２回	内容	**幼児期の発達**	予習	**幼児期の子どもの特徴について調べる**
				復習	**幼児期の発達課題についてまとめる**
	第３回	内容	**学童期の発達**	予習	**学童期の子どもの特徴について調べる**
				復習	**学童期の目標設定についてまとめる**
	第４回	内容	**青年期から成人期の発達**	予習	**青年期のライフイベントについて調べる**
				復習	**青年期の発達課題についてまとめる**
	第５回	内容	**老年期の発達**	予習	**老年期のライフイベントについて調べる**
				復習	**老年期の発達課題についてまとめる**
	第６回	内容	**家族・家庭の意義と機能**	予習	**家族・家庭の機能について調べる**
				復習	**家族・家庭の意義と機能についてまとめる**
	第７回	内容	**親子関係・家族関係の理解**	予習	**親子関係の機能について調べる**
				復習	**親子関係・家族関係について発達的視点からまとめる**
	第８回	内容	**子育ての経験と親としての育ち**	予習	**子育てと親の育ちについて調べる**
				復習	**子育て経験と親の育ちについてまとめる**
	第９回	内容	**子育て家庭に関する現状と課題**	予習	**子育て家庭の現状と課題について調べる**
				復習	**子育て家族の現状と課題についてまとめる**
	第 10 回	内容	**ライフコースと仕事・子育て**	予習	**仕事と子育ての関係について調べる**
				復習	**ライフコースと仕事・子育てについてまとめる**
	第 11 回	内容	**多様な家庭の理解と支援**	予習	**多様な家庭の現状と課題について調べる**
				復習	**多様な家庭の現状と課題についてまとめる**
	第 12 回	内容	**特別な配慮を要する家庭の理解と支援①**	予習	**特別な配慮を要する家庭の現状と課題について調べる**
				復習	**特別な配慮を要する家庭の現状と課題についてまとめる**
	第 13 回	内容	**特別な配慮を要する家庭の理解と支援②**	予習	**特別な配慮を要する家庭への支援について調べる**
				復習	**特別な配慮を要する家庭への支援についてまとめる**
	第 14 回	内容	**子どもの心の健康に関わる問題**	予習	**子どもの心の健康に関する現状と課題について調べる**
				復習	**子どもの心の健康についてまとめる**
	第 15 回	内容	ふりかえりとまとめ	予習	**これまでの学習内容について総復習する**
				復習	**子ども家庭支援のあり方についてまとめる**
	予習に要する学習時間：概ね　90 分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね　90 分を目安とする。				

課題へのフィードバック	試験について後日解説する。
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　○）する／（　）しない 成績評価の方法：　筆記試験（　90%）、レポート・課題（　　%）、作品・発表（　　%）、実技（　　%）、授業態度（　10%）
教科書	『書名』（著者名、出版社名）
参考文献	『書名』（著者名、出版社名）
注意事項	積極的に自分の感じ考えたことを発言することを期待する。

科　目　名	子どもの保健	単 位 数	2	実務経験	担当教員	みた　のりこ 味田　徳子
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	PUH2313	授業形態	講義			

授　業　の 内　　容	子どもの健康と保健の意義について理解する。 身体や心の基本的知識について習得するとともに、子どものかかりやすい病気とその予防・対応法について学び、援助できる力をみにつけることを目的とする。
到 達 目 標	1. 子どもの発育・発達についての基礎知識を習得し、一人ひとりに応じた評価ができる。 2.　子どもの病気とその予防、適切な対応について理解できている。 3. 子どもの心身の健康状態を把握し、その対応方法が理解できている。 4. 保健活動において、保護者および多職種間の連携・協働の重要性がわかる。
学位授与方針	幼児教育学科（　　）地域保育学科（１．２．４．５ ）文化表現学科（　　）

授 業 計 画

第１回	内容	オリエンテーション Ⅰ、子どもの心身の健康と保健の意義、健康の概念・指標	予習	P２～５まで読んでおく
			復習	自分や周りの人の「健康」について考える
第２回	内容	現代社会における子どもの健康に関する現状と課題 ＝グループワーク＝	予習	現代の子どもの健康の課題は何か調べる
			復習	第２回プリント見直し・まとめ
第３回	内容	Ⅱ、子どもの身体的発育・発達と保健 ①　身体発達－生命の誕生、胎児、子ども	予習	家族から自分の「妊娠～出生までの経過」を聞く
			復習	第３回プリントの見直し・まとめ
第４回	内容	②　発育と発達　原理原則 運動機能の発達と保健(反射、運動、言語)	予習	P26～31 までを読んでおく
			復習	反射・発達について、月齢をおってまとめる
第５回	内容	③　生理機能の発達と保健 呼吸・体温・循環	予習	P32～33 まで読み、理解しておく
			復習	乳幼児の特徴についてまとめる
第６回	内容	消化・排泄・睡眠	予習	P33～34 まで読み、子どもの特徴を知る
			復習	乳幼児の特徴についてまとめる
第７回	内容	Ⅲ、子どもの心身の健康状態とその把握 観察・早期発見	予習	子どもの健康状態のポイントを考える
			復習	子どもの観察ポイントを部位別にまとめる
第８回	内容	身体計測とその評価 パーセンタイル曲線　　母子健康手帳	予習	P45～52 読む　自分の母子健康手帳の内容を確認
			復習	第８回までの要点について見直す
第９回	内容	－小テスト－　(15 分程度) 健康診断	予習	自分の母子健康手帳の健診内容を確認しておく
			復習	乳幼児健診の内容についてまとめる
第 10 回	内容	Ⅳ、子どもの疾病予防と適切な対応 ①　症状のある子どもへの対応	予習	一般的にみられる症状はどのようなものがあるか考える
			復習	症状の対応についてまとめる
第 11 回	内容	②　感染症 感染経路　　保育所で多い感染症	予習	P63～74 まで読んでおく
			復習	感染経路をまとめる
第 12 回	内容	③　予防接種 予防接種の種類	予習	抗原抗体反応について調べる
			復習	自分が行ったことのある予防接種を確認する
第 13 回	内容	④　アレルギー疾患 （アトピー性皮膚炎　食物アレルギー　気管支喘息）	予習	アレルギーの事例について調べる
			復習	アレルギー疾患の対応について調べる
第 14 回	内容	⑤　その他の疾患 （心臓　腎臓　血液　代謝　内分泌）	予習	先天性疾患にはどのようなものがあるか調べる
			復習	慢性疾患についてまとめる
第 15 回	内容	⑥　精神疾患 ＊全 15 回講義ポイント確認➡第 16 回目に期末試験を実施	予習	最近の虐待事例について調べる
			復習	第 15 回までのプリント見直し・まとめ

予習に要する学習時間：概ね　９０分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね　９０分を目安とする。

課題へのフィードバック	授業内で質問できる時間を設ける。 課題・提出物においては、採点後または必要に応じてコメントを添えて返却する。
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　○ ）する／（　 ）しない 成績評価の方法：　筆記試験（　８０　%)、レポート・課題（　１０　%)、授業態度（　１０　%）
教科書	『書名』(著者名、出版社名)『子どもの保健　健康と安全』(岩田力・細井香、光生館)
参考文献	『書名』(著者名、出版社名)『授業で現場で役立つ！子どもの保健テキスト』(小林美由紀・森脇浩一　、診断と治療社)
注意事項	講義終了後、次回プリントを配布します。前回講義欠席者は、授業前に申し出て、プリントをもらってから受講してください。

科　目　名	子どもの食と栄養	単 位 数	2	実務経験	担当教員	はしもと　ようこ 橋 本　洋子
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	EAH22101	授業形態	演習			

授　業　の 内　　容	乳・幼児期の食生活は心身の発育・発達に大きく影響し、幼児期に身に付いた食生活はその子どもの一生の食習慣を左右する。食事はたんに栄養素を摂取するだけではなく、心身の順調な発育、発達を促し健康な生活を営むための基礎となることを理解し、保育者として必要な食・栄養の知識を身につける。子どもを取り巻く食環境や課題を把握し、この授業を通して自身の適切な食生活も考えて欲しい。
到 達 目 標	1.健康な生活を営むために必要な栄養の知識と体の仕組みを理解し、適切な食生活をおくることができる。 2.子どもの心身の発達段階にふさわしい栄養と食生活を理解し、子どもがよく噛んで美味しく味わうための環境づくりに取り組むことができる。 3.子どもを取り巻く食の様々な問題点から食教育の重要性を理解し実践力を身につけている。
学位授与方針	地域保育学科（①・②・3・④・5）

授 業 計 画					
	第1回	内容	オリエンテーション 健康・栄養とは　　栄養クイズ	予習	シラバスを読んでおく
				復習	栄養の基礎知識を確認しておく
	第2回	内容	子どもを取り巻く食環境 心身の健康と食生活	予習	**自分自身の食生活を振り返る**
				復習	**栄養素の名称と働きについて調べる**
	第3回	内容	からだと栄養① 栄養・健康に関する基礎知識	予習	**健康について考える**
				復習	**栄養素の役割と食品をまとめる**
	第4回	内容	からだと栄養② 栄養の概念と栄養素の役割	予習	**栄養と栄養素の違いを理解する**
				復習	**栄養の重要性を理解する**
	第5回	内容	からだと栄養さん 食べ物のゆくえ ～消化・吸収のいとなみ～（ビデオ）	予習	**からだに必要な栄養を考える**
				復習	**栄養素の体内での営みと役割を理解する**
	第6回	内容	からだと栄養④ 発育・発達と栄養 まとめ・小テスト	予習	**発育・発達の意味を調べる**
				復習	**発育・発達に必要な栄養を理解する**
	第7回	内容	からだと栄養⑤ 食事摂取基準と献立作成・調理の基本	予習	**栄養所要量、食事摂取基準について調べる**
				復習	**食事摂取基準とその利用を理解する**
	第8回	内容	妊娠期・授乳期の食生活	予習	**妊娠期・授乳期の栄養について考える**
				復習	**妊娠期・授乳期に必要な栄養をまとめる**
	第9回	内容	子どもの発育・発達と食生活② 乳汁栄養（母乳、人工栄養）	予習	**乳汁栄養について調べる**
				復習	**母乳の利点、人工栄養についてまとめる**
	第10回	内容	子どもの発育・発達と食生活③ 哺乳動作の発達（ビデオ）	予習	**哺乳、原始反射について調べる**
				復習	**ビデオから学んだ原始反射についてまとめる**
	第11回	内容	子どもの発育・発達と食生活④ 排泄	予習	**排泄の重要性を考える**
				復習	**食事と排泄についてまとめる**
	第12回	内容	子どもの発育・発達と食生活⑤ 摂食機能の発達（ビデオ）	予習	哺乳から摂食へ移行する意味を考える
				復習	ビデオから学んだ摂食機能をまとめる
	第13回	内容	子どもの発育・発達と食生活⑥ 離乳の意義と進め方	予習	離乳の必要性を考える
				復習	離乳を進めるためのポイントをまとめる
	第14回	内容	子どもの発育・発達と食生活⑥ 離乳期の食生活・離乳食（ビデオ）	予習	離乳の進め方を理解しておく
				復習	ビデオから学んだ離乳食の形態と調理方法をまとめる
	第15回	内容	子どもの発育・発達と食生活⑦ 園での食事（ビデオ）・まとめ・テスト	予習	市販のベビーフードについて調べる
				復習	保育所等での食事の様子を理解する
	第16回	内容	幼児期の発育・発達と栄養	予習	幼児期の食生活の問題点について調べる
				復習	幼児期に必要な栄養をまとめる
	第17回	内容	学童期の栄養	予習	学童期の食生活、問題点について調べる
				復習	必要な栄養と学童への食教育についてまとめる
	第18回	内容	給食 児童福祉施設の食事、学校給食	予習	給食の意義を調べる
				復習	給食の目的、種類、利点を理解する
	第19回	内容	アレルギー 食物アレルギーと子どもへの対応・エピペンの使用方法	予習	アレルギーについて調べる
				復習	アレルギーを持つ子どもへの対応策をまとめる
	第20回	内容	特別な配慮が必要なこどもの食と栄養①	予習	食べる機能の障がいを考える

			障がいのある子どもへの対応	復習	障がいをもつ子どもへの食支援をまとめる
	第 21 回	内容	特別な配慮が必要なこどもの食と栄養② 疾病、体調不良の子どもへの対応	予習	子どもの体調不良について調べる
				復習	子どもの体調に合わせた食事と対応方法をまとめる
	第 22 回	内容	食教育① 日本の栄養教育の歴史 食育基本法の目的と概要	予習	食育の意味を考える
				復習	保育者に必要な食育基本法の内容をまとめる
	第 23 回	内容	食教育② 食育のための環境、小テスト	予習	乳幼児への食教育の意義を考える
				復習	食教育のための環境と必要性をまとめる
	第 24 回	内容	食教育③ 食育計画の立案 まとめ	予習	子どもの年齢に応じた食事と食関連の法律をまとめる
				復習	保育者に求められている食教育を理解する
	第 25 回	内容	食教育演習① 食育計画と媒体、資料収集	予習	対象年齢の子どもに必要な食教育を考える
				復習	食育計画のねらいに合わせた媒体を立案する
	第 26 回	内容	食教育演習② 対象年齢に合わせた食育媒体制作	予習	媒体制作に必要な資料、材料を準備する
				復習	媒体制作をすすめる
	第 27 回	内容	食教育演習③ 食教育媒体制作・発表準備	予習	媒体制作をすすめる
				復習	媒体を用いた保育計画を理解する
	第 28 回	内容	発表①	予習	発表準備をする
				復習	発表を振り返る
	第 29 回	内容	発表②	予習	発表準備をする
				復習	発表を振り返る
	第 30 回	内容	発表③　食教育の評価を行う まとめ	予習	食教育プランの評価を行う
				復習	ライフステージ毎の栄養をまとめる
	予習に要する学習時間：概ね４５分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね４５分を目安とする。				

課題へのフィードバック	授業内でふりかえりテストを実施し解説を行う。レポート、課題等にコメントを行う。
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　）する／（〇）しない 成績評価の方法：　筆記試験（７０％）、課題・発表（２０％）、授業態度（１０％）
教科書	『子どもの食と栄養　演習』（岡崎光子編、同文書院）
参考文献	『子どもの食と栄養演習書』（小川雄二編、医歯薬出版株式会社）他、授業内で随時紹介する
注意事項	テキスト・ビデオ・配布資料等の教材を使用した講義が中心となるが、献立作成、食育媒体制作等も含む演習科目である。授業内で指示する事前学習を前提として授業をすすめる。いま保育者に期待されている食指導・支援の重要性を考え、課題や発表に積極的に取り組んで欲しい。随時小テスト、試験を実施する。授業を通して自身の食生活・健康を振り返り、望ましい生活習慣の確立にも取り組んで欲しい。

科目名	子どものための食育実習	単位数	1	実務経験	担当教員	はしもと　ようこ 橋本　洋子
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	NUS2322	授業形態	実習			

授業の内容	子どもは、乳・幼児期の短期間にめざましい摂食機能の発達を遂げる。この食育実習では、１年次の「子どもの食と栄養」で学んだ知識をもとに、子どもの発達過程に応じた食事を実際に調理し試食することにより咀嚼機能の発達を理解し、乳幼児に関わる専門職としての適切な食指導・食支援の方法を学ぶ。基本的な調理の知識・技術を習得する。
到達目標	１．準備（計る・洗うなど）から片付けにいたる調理に必要な知識、技術を身につけている。 ２．たんに「空腹を満たす食事」ではない、子どもの年齢（月齢）と咀嚼機能に応じた食品の選択、調理方法（適切な量・調理形態）を理解し実践できる。 ３．「美味しく」「楽しい」かつ「安全な」食事を提供するための環境整備ができる。 ４．乳幼児に正しい食具の持ち方を指導することができる。
学位授与方針	地域保育学科（①・②・3・④・⑤）

授業計画

第1回	内容	オリエンテーション 調理室の使い方･授業の進め方について	予習	シラバスを読んでおく
			復習	授業内容を理解する
第2回	内容	基本調理 調理の基本、包丁の使い方	予習	調理室、調理器具等の使い方を理解する
			復習	調理に必要な知識、技術を整理する
第3回	内容	調乳・赤ちゃん人形のお世話	予習	前年度のテキスト「人工栄養」を復習する
			復習	調乳の意義と配慮すべき内容をまとめる
第4回	内容	離乳食①　準備食～５，６か月	予習	準備食、離乳の意義について考える
			復習	離乳食を作る際の留意点をレポートにまとめる
第5回	内容	離乳食②　７～８か月、間食	予習	前週の離乳食の形態を確認しておく
			復習	調理のポイントをレポートにまとめる
第6回	内容	離乳食③　９～１１か月	予習	前週の離乳食の形態を確認しておく
			復習	調理のポイントをレポートにまとめる
第7回	内容	離乳食④　１２～１８か月	予習	前週の離乳食の形態・量を確認しておく
			復習	移行期の食事を考える
第8回	内容	幼児食①　１～２才、３～５才	予習	離乳食との違いを調べる
			復習	幼児期の前・後期の食事の違いを理解する
第9回	内容	幼児食②　お弁当	予習	お弁当の目的について調べる
			復習	お弁当の留意点をレポートにまとめる
第10回	内容	妊産婦の食事	予習	妊産婦の食事の特徴を調べる
			復習	妊産婦に必要な栄養を理解し留意点をまとめる
第11回	内容	幼児食③　間食・食物アレルギーを考える	予習	アレルギーについて調べる
			復習	アレルギー対応の調理を理解する
第12回	内容	幼児食④　行事食	予習	日本の行事・伝統食を調べる
			復習	子どもにとっての行事食の重要性を理解する
第13回	内容	まとめ レポート提出　　【第１３週で終了】	予習	レポートを整理し内容を確認する
			復習	子どもの食事内容と食教育についてまとめる

予習に要する学習時間：概ね３０分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね３０分を目安とする。

課題へのフィードバック	実習レポートに講評を行う。
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　）する／（〇）しない 成績評価の方法：　レポート（６０％）、実技（２０％）、授業態度（２０％）
教科書	実習資料（マニュアル）を配布する。実習前に必ず目を通すこと。
参考文献	必要に応じて紹介する
注意事項	この調理実習は毎回２時限連続で行う。デモンストレーション・説明の後、４～５人のグループに分かれて実習を行う。必要に応じてビデオ等の教材も使用する。毎回、調理、試食、片付け後に各自でレポートを作成、子どもの発達をふまえて考察すること。レポートは最後にまとめて提出する。グループ毎の実習であり欠席は同グループの学生に迷惑をかけ、遅刻もデモンストレーションの妨げとなる。授業中の私語は円滑な実習のために禁止する。割烹着（エプロン）、三角巾を必ず着用すること。

科目名	臨床心理学	単位数	2	実務経験	担当教員	かがや　たかふみ 加賀谷　崇文
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	CLP2326	授業形態	演習			

授業の内容	現代社会では、不登校やいじめ・摂食障害など、こころの問題が原因と思われる現象が様々な場面で見られている。臨床心理学とは、このような問題を、どのように理解し、どのように援助していくかを考える学問である。このような視点を紹介した上で、我々が生活の中で、臨床心理学的な考えをどう活かしていくか考えていきたい。
到達目標	1. 臨床心理学という学問分野を理解している。 2. 保育と臨床心理学の接点を考えることができる。 3. 人の心の動きを知っている。 4. 自分自身について理解している。
学位授与方針	幼児教育学科（　　）地域保育学科（　1,2,4　　）文化表現学科（　　）

授業計画

第1回	内容	臨床心理学とは	予習	シラバスを読んでおく。
			復習	教科書全体に目を通してみる。
第2回	内容	臨床心理学の研究領域	予習	臨床心理学で何をあきらかに出来るか考える。
			復習	授業内容の整理。
第3回	内容	臨床心理学の歴史：古代における心のとらえ方	予習	平安時代以前の日本の文化について調べる。
			復習	授業内容の整理。
第4回	内容	臨床心理学の歴史：キリスト教と心の癒し	予習	キリスト教の考え方を調べる。
			復習	授業内容の整理。
第5回	内容	臨床心理学の歴史：フランス革命と自然科学	予習	フランス革命について調べておく。
			復習	授業内容の整理。
第6回	内容	臨床心理学の歴史：メスメルと催眠療法	予習	催眠療法について調べておく。
			復習	授業内容の整理。
第7回	内容	臨床心理学の歴史：フロイトと精神分析	予習	フロイトの人物像を知っておく。
			復習	授業内容の整理。
第8回	内容	臨床心理学の歴史：心理学の発展	予習	現代の心理療法の考え方を調べておく。
			復習	授業内容の整理。
第9回	内容	ユングのグリム童話分析	予習	グリム童話をいくつか読んでおく。
			復習	読んでおいた童話を分析してみる。
第10回	内容	乳児期の発達	予習	乳児期の子どもの行動を整理しておく。
			復習	実際の乳児の例に当てはめてみる。
第11回	内容	メラニー･クラインとウィニコットの理論	予習	対象関係論について調べておく
			復習	実際の母子の例に当てはめてみる。
第12回	内容	幼児期前半の発達	予習	1歳から3歳の子どもの行動を整理しておく。
			復習	実際の幼児の例に当てはめてみる。
第13回	内容	幼児期後半の発達	予習	3歳から5歳の子どもの行動を整理しておく。
			復習	実際の幼児の例に当てはめてみる。
第14回	内容	児童期の発達	予習	小学生の行動を整理しておく。
			復習	実際の小学生の例に当てはめてみる。
第15回	内容	青年期から老年期の発達	予習	青年期以降の変化を調べておく。
			復習	実際の人物の例に当てはめてみる。
第16回	内容	クライエント中心療法の実践	予習	理想的な相談スタイルを調べておく。
			復習	ビデオ内容を振り返ってみる。
第17回	内容	クライエント中心療法の理論	予習	自己理論について調べておく。
			復習	授業内容の整理。
第18回	内容	クライエント中心療法の技法	予習	受容と共感の方法を考えてみる。
			復習	授業内容の整理。
第19回	内容	心理アセスメント	予習	心理アセスメントの意味を考えておく。
			復習	授業内容の整理。
第20回	内容	言語による情報収集	予習	友人の情報をどこまで知っているか考えてみる。
			復習	周囲の人物で考えてみる。

	第 21 回	内容	非言語による情報収集	予習	友人の様子を観察しておく。
				復習	周囲の人物で考えてみる。
	第 22 回	内容	心理テスト	予習	自分の性格傾向を考えてみる。
				復習	心理テストの結果を振り返ってみる。
	第 23 回	内容	健康な人の心理療法	予習	健康な悩みとは何か考える。
				復習	授業内容の整理。
	第 24 回	内容	神経症水準の心理療法	予習	不安障害やパニック障害について調べておく。
				復習	授業内容の整理。
	第 25 回	内容	人格障害水準の心理療法	予習	人格障害とは何か調べておく。
				復習	授業内容の整理。
	第 26 回	内容	境界性人格障害について	予習	境界性人格障害とは何か調べておく。
				復習	授業内容の整理。
	第 27 回	内容	精神病水準の心理療法	予習	精神障害について調べておく。
				復習	授業内容の整理。
	第 28 回	内容	統合失調症とは	予習	統合失調症の特徴を調べておく。
				復習	授業内容の整理。
	第 29 回	内容	統合失調症の正しい理解	予習	精神病院の現状を調べておく。
				復習	授業内容の整理。
	第 30 回	内容	催眠療法	予習	自己暗示とは何か調べておく。
				復習	授業内容の整理。
	予習に要する学習時間：概ね 45 分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね 20 分を目安とする。				
課題へのフィードバック	テストや提出物を返却する。				
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　○）する／（　　）しない 成績評価の方法：　筆記試験（　90%)、授業態度（　10%）				
教科書	『いちばんよくわかる図解臨床心理学』(加賀谷崇文、成美堂出版)				
参考文献	なし				
注意事項	私語は慎むこと				

科　目　名	保育・教育課程論	単　位　数	2	実務経験	担当教員	おおしま　おりえ 大嶋　織江
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	EDU2322	授業形態	講義			

授業の内容	関係法令や幼稚園教育要領に基づき、教育課程や長期・短期の指導計画の作成・立案について理解する。教育課程からどのように指導計画（長期指導計画）が具体化されていくのかについて、実際の教育課程や指導計画をいくつか事例として取り上げながら、子どもの実態に即した計画の立て方や環境構成のあり方について考え、指導計画を作成できる力を養う。
到達目標	1.　教育課程編成の考え方・手順を知り、PDCA サイクルの考え方を理解している。 2.　指導計画の基本や考え方を理解している。 3.　ねらいや子どもの姿から、経験させたい具体的な活動をすぐに思い浮かべることができる。 4.　教育課程・保育課程（全体的な計画）から長期・短期の指導計画を立案することができる。
学位授与方針	幼児教育学科（　　）地域保育学科（１・２・４　）文化表現学科（　　）

授業計画					
	第１回	内容	オリエンテーション～授業内容の説明と予定について～ ～教育課程・全体的な計画とは何か？～	予習	教育課程と全体的な計画の違いの確認
				復習	教育課程と全体的な計画とは何かを整理
	第２回	内容	保育における計画と評価の意義について	予習	保育に計画が必要な理由を考える
				復習	保育における計画と評価の意義について整理
	第３回	内容	カリキュラムの基礎理論について	予習	カリキュラムとは何かを確認
				復習	3 つのカリキュラムを説明できるように整理
	第４回	内容	教育課程・保育課程の変遷について	予習	教育課程・保育課程の変遷を教科書で確認
				復習	教育課程・保育課程の歴史的変遷を整理
	第５回	内容	改訂幼稚園教育要領と「育みたい資質・能力」について	予習	「育みたい資質・能力」を確認
				復習	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を確認
	第６回	内容	幼稚園・保育所・認定こども園における関係法令について	予習	幼稚園・保育所・認定こども園の違いを確認
				復習	幼稚園・保育所の関係法令についての整理
	第７回	内容	教育課程および全体的な計画等の編成の方法と手順について	予習	教育課程の編成の方法と手順を教科書で確認
				復習	教育課程の編成の方法と手順についての理解
	第８回	内容	指導計画の作成① ～長期の指導計画の編成について～	予習	長期の指導計画の種類を確認
				復習	長期の指導計画編成についての理解
	第９回	内容	指導計画の作成②～短期の指導計画の編成について～ ごっこ遊びの体験①（お寿司屋さんごっこ） ～グループワークと指導案の作成～	予習	製作に必要な準備物の用意
				復習	作成した指導案の見直しを行う
	第 10 回	内容	ごっこ遊びの体験②（パン屋さんごっこ） ～もくねんさんの粘土を使ってのパン作り（形づくり）～	予習	製作に必要な準備物の用意
				復習	環境に配慮した素材（粘土）を使う意味を考える
	第 11 回	内容	ごっこ遊びの体験②（続き）（パン屋さんごっこ） ～もくねんさんの粘土を使ってのパン作り（色塗り）とグループワーク～	予習	製作に必要な準備物の用意
				復習	グループワークで考えた内容についての理解
	第 12 回	内容	食育と食育カリキュラムについて	予習	幼稚園などで食育を行う意義を考える
				復習	食育を行う意義についての整理
	第 13 回	内容	子育て支援としての延長保育 ～長時間保育の実際について～	予習	延長保育の現状について調べる
				復習	延長保育のメリットとデメリットの整理
	第 14 回	内容	保育の記録および省察について	予習	保育の記録および省察を行う理由を考える
				復習	保育の記録および省察を行う意義を整理
	第 15 回	内容	保育の評価と改善～PDCA サイクルの考え方について～	予習	保育の PDCA サイクルとは何かを確認
				復習	保育の PDCA サイクルの意義を整理
	予習に要する学習時間：概ね　90　分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね　90 分を目安とする。				

課題へのフィードバック	グループワークなどの後に講評を行い、必要な資料などを配布する。
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　）する／（　○　）しない 成績評価の方法：　筆記試験（　40　%）、レポート・課題（　30　%）、作品・発表（　20　%）、授業態度（　10　%）
教科書	『書名』（著者名、出版社名）『保育の計画と評価』―豊富な例で１からわかるー　　宮川萬寿美　編著　啓文書林　2018
参考文献	『書名』（著者名、出版社名）『保育所保育指針』『幼稚園教育要領』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』
注意事項	私語を慎み、質問があるときには、遠慮せずに聞くようにしてください。

科目名	保育内容総論	単位数	1	実務経験	担当教員	いしかわ　のぶまさ 石河　信雅
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	EDU22202	授業形態	演習			

授業の内容	保育内容は「健康」「人間関係」「環境」「言葉」「表現」そして「養護」の領域があり、専門的にはそれぞれの領域を別々に学んでいる。しかし、保育実践（教育）の場面ではそれらが当然のごとく、遊びや・生活の中で一体的に進められるのである。ですから、保育内容総論は実際の保育場面で、各領域が統合して行われる実際を理解し、保育実践にいかに臨むかを事例に基づきながら学んでいく。
到達目標	1. 保育所・幼稚園・幼保連携型認定こども園に関する基本事項を理解している。 2. 子どもの発達と保育内容との関連について理解している。 3. 各領域と教育・保育内容について理解し、実際の保育現場での在り方を理解している。 4. 教育・保育の実際を総合的に理解し、今後の学びへの目標設定を見直すことができる。
学位授与方針	幼児教育学科（　　）地域保育学科（１・２・４）文化表現学科（　　）

授業計画

第１回	内容	オリエンテーション：保育内容総論の学びの意義について	予習	シラバスを読んでおく
			復習	この科目で習得すべき内容を理解する
第２回	内容	幼稚園教育要領を概観し、「論」と「実践」の在り方について。	予習	幼稚園教育要領を読んでおく
			復習	本時の学びを教育要領との関連でまとめる
第３回	内容	保育所保育指針を概観し、「論」と「実践」の在り方について	予習	保育所保育指針を読んでおく
			復習	本時の学びを保育士との関連でまとめる
第４回	内容	幼保連携型認定こども園教育・保育要領を概観し、「論」と「実践」の在り方について	予習	教育・保育要領を読んでおく
			復習	本時の学びをまとめる
第５回	内容	各年齢層の保育を遊びを通して学ぶ	予習	子どもと遊びについて調べる
			復習	幼児期の遊びの重要性についてまとめる
第６回	内容	幼児期の人間関係をコミュニケーションに着目して学ぶ	予習	コミュニケーションとは何か調べる
			復習	コミュニケーション能力についてまとめる
第７回	内容	絵本・素話をグループワークを通して学ぶ１	予習	素話の作成について素案の資料取集をする
			復習	作成過程の素話について反省的に振り返る
第８回	内容	絵本・素話をグループワークを通して学ぶ２	予習	素話の作成について素案の資料取集をする
			復習	作成過程の素話について反省的に振り返る
第９回	内容	絵本・素話をグループワークを通して学ぶ・学びの成果を発表する３	予習	発表方法より良い方法について調べる
			復習	作成した素話・発表について振り返る
第 10 回	内容	望ましい保育者像について	予習	目指すべき保育者像につて文献等で調べる
			復習	自己を振返りまとめる
第 11 回	内容	保育をめぐる最近の動向について	予習	保育をめぐる最近の動向について調べる
			復習	最近の動向についてまとめる
第 12 回	内容	多様性を重視した保育について	予習	発達障害等について調べる
			復習	発達障害等早期対応についてまとめる
第 13 回	内容	幼児の発達について	予習	幼児の発達について調べる
			復習	幼児の発達についてまとめる
第 14 回	内容	保幼小の連携について	予習	保幼小の連携について調べておく
			復習	保幼施用の連携について実践方法をまとめる
第 15 回	内容	これからの保育に求められるものについて	予習	これからの保育について調べる
			復習	これからの保育について考えをまとめる

予習に要する学習時間：概ね１５分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね３０分を目安とする。

課題へのフィードバック	日々の講義の中で、レポート等を作成しそのレポートについて個々の学生にコメントをする。総合的な内容について講義中に説明を加える。
成績評価	試験期間における定期試験：実施（○ ）する／（　 ）しない 成績評価の方法：　筆記試験（５０%）、レポート・課題（２０%）、作品・発表（１０%）、実技（　　%）、授業態度（２０%）
教科書	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領
参考文献	講義の中で適宜提示する
注意事項	授業を通して、保育内容の総体をイメージし自分自身の中に、あるべき保育活動の構築に取り組んでほしい。

科　目　名	乳　児　保　育Ⅰ	単 位 数	2	実務経験	担当教員	いのう　けいこ 伊能　恵子
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	CHS22201	授業形態	講義			

授　業　の 内　　容	乳幼児期における発達の姿を、心、体、生活等といった細かい項目に分け、明確に捉えること、さらにその実践力の習得を目的とする。
到 達 目 標	1. 新生児、乳児期、幼児期の発達を理解している 2. 発達にあった保育援助の必要性を理解している 3. 理論を実践につなげる力の獲得に取り組むことができる
学位授与方針	幼児教育学科（　　）地域保育学科（１・２・３）文化表現学科（　　）

授業計画

第１回	内容	生涯発達という捉え方	予習	シラバスを読んでくる
			復習	自己の生育歴を考える
第２回	内容	発達の法則と捉え方	予習	発達とは何かを調べる
			復習	発達課題をまとめる
第３回	内容	新生児期と反射	予習	新生児期とは何かを調べる
			復習	原始反射の意味をまとめる
第４回	内容	新生児期・乳児期の発達	予習	誕生一年の運動発達を調べる
			復習	誕生後一年の重要性をまとめる
第５回	内容	離乳食・食の重要性	予習	自己の食生活をふりかえる
			復習	食の重要性をまとめる
第６回	内容	乳児期の母子相互作用	予習	母親の役割について考える
			復習	母子相互作用をふまえ保育士の役割をまとめる
第７回	内容	人との関わりの発達と保育援助	予習	保育援助とは何かを考える
			復習	人間関係の発達と保育援助をまとめる
第８回	内容	「保育所保育指針」と保育援助	予習	「保育所保育指針」は保育士にとってどんなものか考える
			復習	「保育所保育指針」の援助ポイントをまとめる
第９回	内容	「保育所保育指針」：養護の視点	予習	養護とは何かを考える
			復習	養護のポイントをまとめる
第 10 回	内容	「保育所保育指針」：安全の視点	予習	安全とは何かを考える
			復習	安全管理マニュアルを作成する
第 11 回	内容	「保育所保育指針：教育の視点	予習	教育とは何かを考える
			復習	教育のポイントをまとめる
第 12 回	内容	保育者資質：現場で求められる資質	予習	保育者の求められる資質は何かを考える
			復習	自己を向上させる資質の磨き方をまとめる
第 13 回	内容	保育者資質：ビジネス・ライティング	予習	保育者の求められる技術を考える
			復習	自己を向上させる技術の磨き方をまとめる
第 14 回	内容	乳児保育～文献からの学び～	予習	文献を探してくる
			復習	文献からの学びをまとめる
第 15 回	内容	乳児保育～まとめ～	予習	乳児保育とは何かを考える
			復習	乳児保育の学びをまとめる

予習に要する学習時間：概ね９０分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね９０分を目安とする。

課題へのフィードバック	毎授業ごとの課題レポートにコメントし返却する
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　）する／（〇）しない 成績評価の方法：　筆記試験（　　%）、レポート・課題（１００%）、作品・発表（　　%）、実技（　　%）、授業態度（　　%）
教科書	なし
参考文献	『実習育児学』（吉岡毅著、日本小児医事出版）『保育士養成講座：発達心理学』（全国社会福祉協議会） 『保育と保健』（日本保育保健協議会）
注意事項	毎授業に課題提出を求める為、出席は必須である。

科　目　名	乳　児　保　育Ⅱ	単 位 数	1	実務経験	担当教員	いのう　けいこ 伊能　恵子
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	CHN2314	授業形態	演習			

授　業　の 内　　容	乳幼児期の重要性と支援の重要性を理解する。特に保育現場におけるトラブルやその解決を含め、理論と実践力を結びつけることを目標とし、乳児保育の理解と実践力の習得を目的とする。
到 達 目 標	1. 乳幼児期の重要性を理解している。 2. 発達にあった保育援助力習得の土台を育むことができる。 3. 発達を支援する方法を理解している。 4. 理論と実践をつなぎ自己を向上させる力を獲得している。
学位授与方針	幼児教育学科（　　）地域保育学科（１・２・３　）文化表現学科（　　）

授 業 計 画					
	第１回	内容	発達の姿	予習	シラバスを読んでくる
				復習	発達を支援することをまとめる
	第２回	内容	睡眠の発達と保育援助	予習	0 才、1 才児の理想的生活リズムを調べる
				復習	睡眠の重要性をまとめる
	第３回	内容	視覚の発達と保育援助	予習	目の機能を調べる
				復習	視覚の発達を促す保育援助をまとめる
	第４回	内容	聴覚の発達と保育援助	予習	耳の機能を調べる
				復習	聴覚の重要性と支援をまとめる
	第５回	内容	知覚の発達と保育援助	予習	感覚とは何かを調べる
				復習	固有感覚のプロセスをまとめる
	第６回	内容	情緒の発達と保育援助	予習	感情・情緒とは何かを調べる
				復習	情緒発達の支援をまとめる
	第７回	内容	言葉の発達と保育援助：言葉、語彙の発達	予習	言葉とは何かを調べる
				復習	言葉の重要性をまとめる
	第８回	内容	言葉の発達と保育援助：絵本の力	予習	自分の好きな絵本を推薦する
				復習	絵本の重要性をまとめる
	第９回	内容	発達を支援する窓口 （グループワーク、発表、討議）	予習	発達とは何かを考える
				復習	スクリーニングの窓口をまとめる
	第 10 回	内容	乳児期の重要性①：乳幼児期の脳	予習	臨界期とは何かを調べる
				復習	乳児期の育ちに必要な環境をまとめる
	第 11 回	内容	乳児期の重要性②：知能の成り立ち	予習	脳を育む必要性について調べる
				復習	乳児期の重要性をまとめる
	第 12 回	内容	人間的発達の契機 （グループワーク、発表、討議）	予習	人間とは何かを考える
				復習	人への保育援助をまとめる
	第 13 回	内容	遊びの重要性 （グループワーク、発表、討議）	予習	昔あそびについて調べる
				復習	遊びの重要性をまとめる
	第 14 回	内容	乳児保育～文献からの学び～	予習	参考文献を探してくる
				復習	文献からの学びをまとめる
	第 15 回	内容	乳児保育～まとめ～	予習	乳児保育の学びをまとめる
				復習	乳児保育の大切さをまとめる
	予習に要する学習時間：概ね９０分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね９０分を目安とする。				

課題へのフィードバック	毎授業ごとの課題レポートにコメントし返却する
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　）する／（　）しない 成績評価の方法：　筆記試験（　　%）、レポート・課題（１００%）、作品・発表（　　%）、実技（　　%）、授業態度（　　%）
教科書	なし
参考文献	『保育士養成講座：発達心理学』（全国社会福祉協議会）『実習育児学』（吉岡毅、日本小児医事出版） 『幼児教育と脳』（澤口俊之著、文芸春秋）『子どもの脳の発達臨界期敏感期』（榊原洋一著、講談社）
注意事項	毎授業に課題提出を求める為、出席は必須である。

科　目　名	健康（指導法）	単 位 数	1	実務経験	担当教員	しんど　のぶゆき 新戸　信之
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ		授業形態	演習			

授業の内容	幼稚園教育要領の領域「健康」 のねらいと内容及び内容の取扱いについて理解し、健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活を作り出す力を養うために必要な知識・技術を身に付ける。特に乳幼児期の健康に関わる生活習慣や心身の発育・発達、運動発遥の特徴の理解を深め、適切な指導方法を身に付ける。
到達目標	1. 幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「健康」のねらい及び内容を理解する。 2. 幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「健康ｊに関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身に付ける。
学位授与方針	幼児教育学科（　　）地域保育学科（　1,2,5　）文化表現学科（　　）

授業計画

第１回	内容	領域「健康」のねらい及び内容の確認	予習	１年次に履修した「健康」のノートを確認する。
			復習	「健康」のねらい及び内容についてまとめる。
第２回	内容	グループ対抗による運動遊び	予習	幼児ができるグループ対抗の遊びを調べる。
			復習	「作戦タイム」の意義についてまとめる。
第３回	内容	幼児向けのイニシアティブゲーム	予習	「イニシアティブゲーム」について調べる。
			復習	心的経験の意義についてまとめる。
第４回	内容	いろいろなリレー、鬼ごっこ	予習	リレー、鬼ごっこのバリエーションを調べる。
			復習	子どもが走る動機となる遊びについてまとめる。
第５回	内容	ネイチャーゲーム、自然遊び	予習	幼少期に経験した自然遊びについて家族と話す。
			復習	ネイチャーゲームを調べる。
第６回	内容	戸外遊びに関する保険だより及び教材の作成	予習	１年次「健康」の授業支援システムにログインし、「遊び」に関するファイルを確認する。
			復習	保険だより及び教材を完成させる。
第７回	内容	戸外遊びに関する保険だよりの発表と模擬指導	予習	発表及び模擬指導のリハーサル
			復習	発表及び模擬指導の振り返り
第８回	内容	生活習慣に関する保険だより及び教材の作成	予習	１年次「健康」の授業支援システムにログインし、「生活習慣」に関するファイルを確認する。
			復習	保険だより及び教材を完成させる。
第９回	内容	生活習慣に関する保険だより発表と模擬指導	予習	発表及び模擬指導のリハーサル
			復習	発表及び模擬指導の振り返り
第 10 回	内容	食習慣・食育に関する保険だより及び教材の作成	予習	１年次「健康」の授業支援システムにログインし、「食習慣」に関するファイルを確認する。
			復習	保険だより及び教材を完成させる。
第 11 回	内容	食習慣・食育に関する保険だよりの発表と模擬指導	予習	発表及び模擬指導のリハーサル
			復習	発表及び模擬指導の振り返り
第 12 回	内容	疾病予防に関する保険だより及び教材の作成	予習	１年次「健康」の授業支援システムにログインし、「健康課題」に関するファイルを確認する。
			復習	保険だより及び教材を完成させる。
第 13 回	内容	疾病予防に関する保険だよりの発表と模擬指導	予習	発表及び模擬指導のリハーサル
			復習	発表及び模擬指導の振り返り
第 14 回	内容	安全に関する保険だより及び教材の作成	予習	１年次「健康」の授業支援システムにログインし、「戸外遊び」に関するファイルを確認する。
			復習	保険だより及び教材を完成させる。
第 15 回	内容	安全に関する保険だよりの発表と模擬指導	予習	発表及び模擬指導のリハーサル
			復習	発表及び模擬指導の振り返り

予習に要する学習時間：概ね 25 分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね 20 分を目安とする。

課題へのフィードバック	スマートフォンとL.M.Sを用い学生相互及び教師が情報を共有し、必要に応じアドバイスする。
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　）する／（〇）しない 成績評価の方法：レポート・課題（３０％）、作品・発表（３０％）、実技（２０％）、授業態度（２０％）
教科書	必要に応じて資料を配布
参考文献	幼児期の食事と健康 - 公益社団法人 千葉県栄養士会【WEB】、幼児期運動指針：文部科学省【WEB】 幼児期の運動遊びが生涯の体力を左右する - 健康・体力づくり事業財団【WEB】
注意事項	

科　目　名	人間関係（指導法）	単 位 数	1	実務経験	担当教員	つちや　ゆう 土屋　由
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ		授業形態	演習			

授業の内容	保育内容の領域の一つに、人とのかかわりに関する領域「人間関係」が設けられている。本講義では、領域「人間関係」に関連する社会学や発達心理学などの理論をベースとした基礎知識を押さえるとともに、乳児期、幼児期のそれぞれの発達過程において、どのように人とのかかわりが育つのかを学ぶ。また、保育者の保護者への対応や保育者同士の連携も含めた保育者の果たす役割を学ぶ。
到達目標	1. 領域「人間関係」を理解するのに必要な基礎知識を身につけている。 2. 一人一人が十分に生かされる集団であることの大切さといった「人間関係」を捉える視点を身につけている。 3. 保育者の保護者への対応や保育者同士の連携といった保育者の役割を理解している。
学位授与方針	幼児教育学科（　　）地域保育学科（①②④　）文化表現学科（　　）

授業計画

第１回	内容	オリエンテーション	予習	教科書の全体に目を通す
			復習	幼稚園教育要領や保育所保育指針に目を通す
第２回	内容	人と人との関係	予習	人と人との関係、事例を考察する
			復習	人と人との関係、自分の意見をまとめる
第３回	内容	保育・幼児教育の基本と領域「人間関係」	予習	領域「人間関係」、プリントの穴埋めをする
			復習	領域「人間関係」、自分の意見をまとめる
第４回	内容	子どもを取り巻く人々と人間関係	予習	子どもを取り巻く人々、事例を考察する
			復習	子どもを取り巻く人々、自分の意見をまとめる
第５回	内容	乳児保育における人間関係	予習	乳児保育における人間関係、事例を考察する
			復習	乳児保育における人間関係、意見をまとめる
第６回	内容	子どもの遊びと人間関係	予習	子どもの遊びと人間関係、事例を考察する
			復習	遊びと人間関係、自分の意見をまとめる
第７回	内容	子どものいざこざと人間関係	予習	子どものいざこざ、事例を考察する
			復習	子どものいざこざ、自分の意見をまとめる
第８回	内容	子どもの様々な感情と人間関係	予習	子どもの様々な感情、事例を考察する
			復習	子どもの様々な感情、自分の意見をまとめる
第９回	内容	他者への賞賛と人間関係	予習	他者への賞賛と人間関係、事例を考察する
			復習	他者への賞賛、自分の意見をまとめる
第 10 回	内容	子どもの自我と人間関係	予習	子どもの自我と人間関係、事例を考察する
			復習	子どもの自我、自分の意見をまとめる
第 11 回	内容	個性的な子どもと人間関係	予習	個性的な子ども、事例を考察する
			復習	個性的な子ども、自分の意見をまとめる
第 12 回	内容	領域「人間関係」からみた小学校との連携	予習	小学校との連携、事例を考察する
			復習	小学校との連携、自分の意見をまとめる
第 13 回	内容	園で育む子どもの人間関係	予習	園で育む子どもの人間関係、事例を考察する
			復習	園で育む人間関係、自分の意見をまとめる
第 14 回	内容	身近な大人との関係を振り返る	予習	身近な大人との関係を振り返る
			復習	他の人の意見を聞き、気づいたことをまとめる
第 15 回	内容	授業のまとめ	予習	これまでの内容を整理する
			復習	学んだ内容を整理する

予習に要する学習時間：概ね 25 分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね 20 分を目安とする。

課題へのフィードバック	レポート及び小テストを返却し、コメントを伝える。
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　）する／（〇）しない 成績評価の方法：　筆記試験（70%）、レポート・課題（20%）、授業態度（10%）
教科書	『コンパス　保育内容　人間関係』（岸井慶子・酒井真由子編著、建帛社）
参考文献	授業において紹介する。
注意事項	他の受講生の意見や考えを聞くこと、また自分自身の体験とつなげて考えることで、学びを深めてほしい。

科　目　名	言葉（指導法）	単 位 数	1	実務経験	担当教員	なかやま　かずこ 中 山　佳寿子
ナンバリングコード	CHS2311	授業形態	演習			

授　業　の 内　　容	領域「言葉」の目標「経験したことや考えたことを自分なりの言葉で表現し、相手の話す言葉を聞こうとする意欲や態度を育て、言葉に対する感覚や言葉で表現する力を養う」及び幼児教育で育みたい「資質・能力」を理解する。幼児の言葉の発達に即した活動・遊びなどを構想する力を身に付けることを目標とする。
到 達 目 標	１．乳幼児の言葉の発達を理解している ２．領域「言葉」のねらいや内容を理解している ３．子どもの豊かな言葉を育む活動や遊びを構想できる ４．児童の発達を促す児童文化財について理解している ５．具体的な保育を想定した指導案を作成できる
学位授与方針	幼児教育学科（　　）地域保育学科（　１２　　）文化表現学科（　　）

授 業 計 画				
	第１回	オリエンテーション（授業の内容、紹介する遊びや活動について）／　言葉（指導法）を学ぶ意義	予習	シラバスに目を通しておく
			復習	授業のノート・指針・要領を対応させて読み込む
	第２回	言葉の発達を学ぶ①（０～３歳） 活動：「おなまえリレー」（グループワーク）	予習	前回のノートに目を通す
			復習	授業で行った活動について、後で再現できるようまとめる
	第３回	言葉の発達を学ぶ②（３～６歳） 活動：「自己紹介の歌を作ろう①」（発表）	予習	前回のノートに目を通す
			復習	授業で行った活動について、後で再現できるようまとめる
	第４回	児童文化財とは何か？ 活動：「自己紹介の歌を作ろう②」	予習	前回のノートに目を通す
			復習	児童文化財についてまとめておく
	第５回	幼児教育の社会的意義 討議：「幼児教育の社会的意義」　活動：「額縁の絵」	予習	幼児教育とは何か、言葉の意味を考えておく
			復習	討議された内容をまとめておく
	第６回	話しことばと書きことば　～文字との出会い～ 活動：「おみせやさんごっこ」「おてがみごっこ」の展開を考えよう	予習	「文字を書きたくなる遊び」について考える
			復習	文字の習得の前提となる発達上の条件についてノートを見返しておく
	第７回	一次的ことばと二次的ことば 活動：二次的ことばを育む活動と援助（模擬保育）	予習	教科書第５章、６章に目を通しておく
			復習	二次的ことばを育む活動についてまとめる
	第８回	ごっこ遊びの展開 活動「ももたろうのごっこあそび②」（グループワークの後、発表）	予習	前期ごっこ遊びについての学びを復習しておく
			復習	授業で行った活動について、後で再現できるようまとめる
	第９回	絵本をもとにしたごっこあそびの構想①（手順と方法）／活動：「ごっこあそびを構想しよう」（グループワークの後、発表）	予習	４、５歳児向け絵本を探して３冊持参する
			復習	絵本を保育でどのように活用するかまとめる
	第 10 回	絵本をもとにしたごっこあそびの構想②（自分の選んだ絵本でごっこ遊びを構想する）～ごっこあそびの指導計画案作成～	予習	前回のノートを読んでおく
			復習	他のグループの発表内容もまとめておく
	第 11 回	ごっこあそびの模擬保育（指導計画案をもとにして）	予習	模擬保育がスムーズに出来るようメモを作成する
			復習	模擬保育で気付いたことを指導計画案に赤字で記入
	第 12 回	ごっこあそびの指導案の作成	予習	領域「言葉」のねらいや内容を指針で確認しておく
			復習	授業で学んだことをヒントに指導案を修正する
	第 13 回	ごっこあそびから劇遊びへ 活動：脚本を書いてみよう	予習	模擬保育で出た友だちのアイディアを整理しておく
			復習	脚本を書いた感想をまとめておく
	第 14 回	劇遊びの展開（計画と実践） 活動：脚本の読み合わせをしてみよう	予習	園で劇の発表会がいつ行われているか調べる
			復習	読み合わせをして気付いたことをまとめる
	第 15 回	まとめ（学習内容と活動の振り返り）	予習	これまでのノートを見返しておく
			復習	
	予習に要する学習時間：概ね 20 分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね 25 分を目安とする。			

課題へのフィードバック	レポートにコメントを記入する。発表については具体的なアドバイスを行う。
成 績 評 価	試験期間における定期試験：実施（　）する／（　○　）しない 成績評価の方法：　レポート・課題（５０％）、作品・発表（３０％）、授業態度（２０％）
教　科　書	『新訂　事例で学ぶ保育内容　領域言葉』（無藤隆監修、出版社名　萌文書林）
参 考 文 献	『保育所保育指針』『幼稚園教育要領』
注 意 事 項	授業を通して保育者にふさわしい言葉の豊かさや表現力を身につけよう。

科　目　名	造形表現（指導法）	単 位 数	1	実務経験	担当教員	たけだ　まりえ 武田　真理恵
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ		授業形態	演習	有・無		

授　業　の 内　　容	幼児期の造形表現とその指導法について、テキストからだけではなく、実際に現場で用いる多様な教材や用具に触れ、表現や指導を体験することから学ぶ。 幼児の成長に合わせた造形表現活動や遊びを通して豊かな感性を育む道筋を学ぶ。
到 達 目 標	1. 制作活動を主体的に取り組み自分らしい造形表現が出来る 2. 基礎的知識や技能をもとに多様に応用できる力を身につけている 3. 幼児の造形表現指導に必要な伝わりやすい指導法を身につけている 4. 子どもの発達に応じた表現活動の行動計画を考え構成できる。
学位授与方針	幼児教育学科（　　）地域保育学科（①・②・④・⑤）文化表現学科（　　）

授 業 計 画

第１回	内容	オリエンテーション 造形表現（指導法）の取り組みについて	予習	シラバスを読んでおく
			復習	授業内容を理解する／折り紙
第２回	内容	描く−１　技法を楽しむ　　クレヨンと絵の具	予習	クレヨン・絵の具について調べる
			復習	技法について理解を深める／折り紙
第３回	内容	立体−１ 生活素材で手づくりおもちゃを作る	予習	手づくりおもちゃについて調べる
			復習	おもちゃについて理解を深める／折り紙
第４回	内容	立体−２ 楽器を作る	予習	作品イメージを決めておく
			復習	作品を完成させる／折り紙
第５回	内容	感性・イメージを豊かにする−１ ひかりと遊ぶ	予習	光について調べる
			復習	光を使った他の活動を考える／折り紙
第６回	内容	遊びを豊かにする−１ 人形遊びについて（ペープサート１）	予習	作品イメージを決めておく
			復習	作品が仕上がるために準備する／折り紙
第７回	内容	遊びを豊かにする−１ 人形遊びについて（ペープサート２）	予習	人形遊びについて調べる
			復習	人形遊びについて理解を深める／折り紙
第８回	内容	遊びを豊かにする−３ 生活とあそびについて（ままごとあそび）	予習	作品イメージを決めておく
			復習	ままごとあそびを深める／折り紙
第９回	内容	感性・イメージを豊かにする−２ 自然物を使った製作　落ち葉のアート他	予習	落ち葉を拾いにいく
			復習	自然物に興味を持つ／折り紙
第10回	内容	編む・織る 毛糸であそぶ　機織り−１	予習	編む、織るについて調べる
			復習	編む、織るについて理解を深める／折り紙
第11回	内容	編む・織る 毛糸であそぶ　機織り−２	予習	作品が仕上がるために準備する
			復習	作品が仕上がるための準備をする／折り紙
第12回	内容	環境・行動を豊かにする−１ 子どもとつくる壁面構成グループワーク	予習	作品イメージを話し合う
			復習	壁面構成について理解を深める／折り紙
第13回	内容	環境・行動を豊かにする−２ 子どもとつくる壁面構成グループワーク	予習	折り紙課題提出準備
			復習	壁面構成について理解を深める／折り紙
第14回	内容	遊びを豊かにする造形表現活動 指導計画をつくる、※折り紙課題提出	予習	指導計画の準備をする
			復習	指導計画について理解を深める
第15回	内容	造形表現指導実践とフィードバック	予習	手づくりおもちゃの指導法について調べる
			復習	自分なりの指導法を考える／授業ふりかえり

予習に要する学習時間：概ね１５分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね３０分を目安とする。

課題へのフィードバック	作成した作品やレポートにコメントを行なう。提出課題のフィードバック（１０回目あたり）
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　）する／（○）しない 成績評価の方法：　レポート（２０％）・課題（２０％）、作品・発表（４０％）、授業態度（２０％）
教科書	
参考文献	『楽しい造形表現』子どもの造形表現研究会　編著　圭文社 『クレヨンからはじめる幼児の描画指導』松浦龍子　黎明書房　　ほか
注意事項	①作品の提出期限を守ること　　②授業に必要な道具や材料は各自責任を持って準備すること ③製作に要する材料費は本人負担　　④グループワークは人に任せず、積極的に関わること

科　目　名	音楽・身体表現（指導法）	単 位 数	1	実務経験	担当教員	塩崎（しおざき）　みづほ・二藤（にとう）　宏美（ひろみ）
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	CHS2311	授業形態	演習			

授業の内容	保育内容の各領域を総合的にとらえ表現活動を中心に乳幼児の実態に応じた保育内容の展開や指導法を学ぶ。体の動き、音・リズムを工夫し、豊かな感性を育み、自らのイメージを広げて表現する楽しさについて理解し、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。
到達目標	1.幼児の心情、認識、思考、動きなどを視野にいれた保育の構想の重要性を理解している。 2.指導案の構造を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。 3.模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身につけている。 4.音楽・身体表現の特性に応じた保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。
学位授与方針	幼児教育学科（　　）地域保育学科（１・２）文化表現学科（　　）

授業計画

第１回	内容	本授業の概要（合同） 音楽・身体表現のねらい、および内容について乳幼児期の発達を踏まえて理解する	予習	領域「表現」について教育要領等を読んでくる
			復習	本時の内容をノートにまとめる
第２回	内容	【塩崎①】　指導案作成の構造を理解し、身体表現活動におけるねらいについて考え、具体的な題材について検討し、指導実践法について研究する。	予習	１年後期の授業のプリントを読んでくる
			復習	本時の内容をノートにまとめ、興味のある題材を一つに絞る
第３回	内容	【塩崎②】　豊かな感性を育み、イメージが広がり、工夫した動きを引き出す言葉がけ・問いかけについ理解し、具体的な保育を想定した指導場面での活用について考える。	予習	指導案のねらいを考え、ノートの記入しておく
			復習	具体的な題材を決め、指導案を完成させてくる
第４回	内容	【塩崎③】3歳未満児の身体表現の指導案を作成し、模擬保育の実践を行い、その振り返りを通して保育の改善点について考える。	予習	指導ノートの記入の仕方例を読み込んでくる
			復習	指導案に沿った指導ノートを記入する
第５回	内容	【塩崎④】３歳児の身体表現の指導案を作成し、模擬保育の実践を行い、その振り返りを通して保育の改善点について考える。	予習	指導のリハーサルを行う
			復習	指導実践後の振り返りをノートにまとめる
第６回	内容	【塩崎⑤】4歳児の身体表現の指導案を作成し、模擬保育の実践を行い、その振り返りを通して保育の改善について考える。	予習	身体表現遊びのウォーミングアップについて考えてくる
			復習	本時の指導実践の振り返りをノートにまとめる
第７回	内容	【塩崎⑥】5歳児の身体表現の指導案を作成し、模擬保育の実践を行い、その振り返りを通して保育の改善について考える。	予習	５歳児の題材について考えノートにまとめる
			復習	本時の指導実践の振り返りをノートにまとめる
第８回	内容	【塩崎⑦】身体表現遊びの意義についてディスカッションし、指導法において重要な点についてまとめる	予習	身体表現遊びの意義について自分なりの考えをノートにまとめる
			復習	指導法についてノートにまとめる
第９回	内容	【二藤①】幼児期の音楽表現活動におけるねらいについて考え、題材の概観・理解・実践を通して指導の姿をイメージする。	予習	教科書を読んで活動のねらいをノートにまとめる
			復習	扱った音楽遊びの内容を覚え、指導案をまとめる
第10回	内容	【二藤②】３歳児の音楽表現活動の指導案を作成し、模擬授業の実践を行い、その振り返りを通して保育の改善について考える。	予習	３歳児の指導案を作成し指導のリハーサルを行う
			復習	３歳児の指導実践後の振り返りをノートにまとめる
第11回	内容	【二藤③】４歳児の音楽表現活動の指導案を作成し、模擬授業の実践を行い、その振り返りを通して保育の改善について考える。	予習	４歳児の指導案を作成し指導のリハーサルを行う
			復習	４歳児の指導実践後の振り返りをノートにまとめる
第12回	内容	【二藤④】５歳児の音楽表現活動の指導案を作成し、模擬授業の実践を行い、その振り返りを通して保育の改善について考える。	予習	５歳児の指導案を作成し指導のリハーサルを行う
			復習	５歳児の指導実践後の振り返りをノートにまとめる
第13回	内容	【二藤⑤】５歳児の合奏表現活動の指導案を作成し、模擬授業の実践を行い、その振り返りを通して保育の改善について考える。	予習	合奏表現活動の指導案を作成し指導のリハーサルを行う
			復習	合奏表現活動の指導実践後の振り返りをノートにまとめる
第14回	内容	【二藤⑥】（グループワーク）テーマに沿って、声、音、楽器を使ったものがたりを創作し、発表の準備を行う。	予習	担当するテーマについて展開を考えてくる
			復習	発表内容をまとめて練習しておく
第15回	内容	【二藤⑦】作品を発表し互いに講評し合う。音楽表現指導の今日的な意義についてディスカッションする。	予習	発表内容のリハーサルを行う
			復習	討論を踏まえて自分の考えをまとめる

予習に要する学習時間：概ね４５分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね４５分を目安とする。

課題へのフィードバック	発表において、発表後に講評を行う。 レポート、ノートについては集めた際にコメントを書き返却する

成績評価	試験期間における定期試験：実施（　）する／（　○　）しない 成績評価の方法：　レポート・課題（30%）、作品・発表（30%）、実技（20%）、授業態度（20%）
教科書	『体を楽器にした音楽表現リズム＆ゲームにどっぷり！リトミック 77 選』（神原雅之著、明治図書出版） 『運動あそび・表現あそび　指導方法を身に付ける理論と実例』宮下恭子編著、大学図書出版
参考文献	『リトミックで遊ぼう　器楽合奏編』（定成淡紅子、全音楽譜出版社）
注意事項	身体表現の授業時は、学校指定のジャージを着用すること。 出席も評価の対象とする。　　（塩崎８・二藤８）

科目名	健康	単位数	1	実務経験	担当教員	しんど　のぶゆき 新戸　信之
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	CHS22101	授業形態	演習			

授業の内容	子ども達の健康な心と体を育てるための基盤となる知識を身に付ける。具体的には、幼児の心身の発達、基本的生活習慣、安全な生活、運動発達等において、幼児期には大人と違った特徴や意義があることを理解し、個々の発育・発達に即した指導をする際に必要となる知識を習得する。
到達目標	1. 幼児期の健康課題について理解し、説明できる。 2. 幼児期の体の諸機能の発達と生活習慣の形成を理解し、説明できる。 3. 安全な生活と怪我や病気の予防について理解し、説明できる。 4. 幼児期の運動発達の特徴と意義を理解し、説明できる。
学位授与方針	幼児教育学科（　　）地域保育学科（　1,2　）文化表現学科（　　）

授業計画

第1回	内容	保育現場の現状と「生きる力」について	予習	生きるために必要な力とその獲得方法を考える。
			復習	「健康」のねらい及び内容についてまとめる。
第2回	内容	健康の定義と乳幼児の健康	予習	健康のためにしていることについて家族と話す。
			復習	「子どもの健康」の捉え方についてまとめる。
第3回	内容	乳幼児期の健康課題	予習	自分の乳幼児期の健康状態について家族と話す。
			復習	乳幼児の健康課題の変遷についてまとめる。
第4回	内容	乳幼児期の発育と発達	予習	出生時～5歳時の自分の身長と体重を調べる。
			復習	年齢ごとの発育・発達の特徴についてまとめる。
第5回	内容	幼児の心の健康と自己肯定感	予習	「自己肯定感」について web で調べる。
			復習	心の安定や自己肯定感の重要性についてまとめる。
第6回	内容	生活習慣の獲得とその意義 基本的生活習慣	予習	「しつけ」の必要性を考える。
			復習	生活習慣を獲得することを意義についてまとめる。
第7回	内容	生活習慣の獲得とその意義 「食事」、「睡眠」	予習	5歳時の自分の起床時間と就寝時間について、家族から聞き取る。
			復習	食事や睡眠に纏わる問題点の解決策を考える。
第8回	内容	乳幼児期の運動発達	予習	自分が「初めてできた事」が何歳であったのか、家族から聞き取る。
			復習	「ゴールデンエイジ」についてまとめる。
第9回	内容	日常生活における幼児の身体活動	予習	日常生活における、幼児の身体活動をリストアップする。
			復習	「便利さ」と「健康」とのバランスについて考える
第10回	内容	幼児期の運動遊びの重要性	予習	運動遊びの種類を調べる。
			復習	遊びをすることにより身につくと思われる能力についてまとめる。
第11回	内容	自然に触れること、戸外で遊ぶことの重要性	予習	自然に触れる遊びをリストアップする。
			復習	自宅周辺で可能な自然に触れる遊びを考える。
第12回	内容	保育現場におけるリスクとハザード	予習	「リスク」、「ハザード」を含む言葉を調べる。
			復習	登下校時のリスクについて考える。
第13回	内容	リスクマネジメントについて	予習	公園から消えた「動く遊具」について調べる。
			復習	リスク対応についてまとめる。
第14回	内容	傷病の予防と応急処置	予習	乳幼児に多いケガや病気について調べる。
			復習	傷病の予防方法、応急処置方法についてまとめる。
第15回	内容	子どもの健康に果たす保育者の役割 まとめ	予習	保育園や幼稚園で自分を担任した先生の言動を思い出す。
			復習	保育者としての役割を果たすために必要な資質についてまとめる。

予習に要する学習時間：概ね25分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね20分を目安とする。

課題へのフィードバック	小テストにより理解度を確認し、必要に応じた解説をする。
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　）する／（○）しない 成績評価の方法：　筆記試験（50%）、レポート・課題（30%）、授業態度（20%）
教科書	必要に応じて資料を配布
参考文献	幼児期の食事と健康 - 公益社団法人 千葉県栄養士会【WEB】、幼児期運動指針：文部科学省【WEB】 幼児期の運動遊びが生涯の体力を左右する - 健康・体力づくり事業財団【WEB】
注意事項	

科　目　名	人間関係	単 位 数	1	実務経験	担当教員	つちや　ゆう 土屋　由
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	CHS22102	授業形態	演習			

授業の内容	保育内容の領域の一つに、人とのかかわりに関する領域「人間関係」が設けられている。本講義では、領域「人間関係」に関連する社会学や発達心理学などの理論をベースとした基礎知識を押さえるとともに、乳児期、幼児期のそれぞれの発達過程において、どのように人と関わる力が育つのかを学ぶ。また、保育者の保護者への対応や保育者同士の連携も含めた保育者の果たす役割を学ぶ。
到達目標	1. 領域「人間関係」を理解するのに必要な基礎知識を身につけている。 2. 3歳未満児における人間関係がどのように発達するのかを理解している。 3. 幼児期の生活や遊びの中で見られる人と関わる力がどのように育つかを理解している。 4. 保育者の保護者への対応や保育者同士の連携といった保育者の役割を理解している。
学位授与方針	幼児教育学科（　　）地域保育学科（①②④　　）文化表現学科（　　）

授業計画

第1回	内容	現代社会と幼児の人間関係ー家庭・地域での経験と幼児教育に期待されるもの	予習	教科書の全体に目を通す
			復習	現代社会と幼児の人間関係をノートに整理する
第2回	内容	領域「人間関係」のめざすもの	予習	領域「人間関係」、プリントの穴埋めをする
			復習	領域「人間関係」をノートに整理する
第3回	内容	幼児期に育みたい資質・能力と人間関係ー乳児期・幼児期・学童期以降の育ちのつながりを理解する	予習	幼児期の資質・能力と人間関係、プリント穴埋め
			復習	幼児期の資質・能力と人間関係を整理する
第4回	内容	3歳未満児における人間関係の発達ー身近な大人との関係を基盤として育つ子ども	予習	3歳未満児の人間関係、プリントの穴埋めをする
			復習	3歳未満児の人間関係をノートに整理する
第5回	内容	3歳未満児における人間関係の発達ー愛着形成過程におけるリスク要因	予習	愛着形成過程、プリントの穴埋めをする
			復習	愛着形成過程をノートに整理する
第6回	内容	幼児期の遊びや生活の中で見られる人と関わる力の育ちー関係性の育ちを視点として	予習	幼児期の人と関わる力、プリントの穴埋め
			復習	幼児期の人と関わる力をノートに整理する
第7回	内容	幼児期の遊びや生活の中で見られる人と関わる力の育ちー集団の育ちを視点として	予習	幼児期の人と関わる力（集団）、プリント穴埋め
			復習	幼児期の人と関わる力（集団）を整理する
第8回	内容	乳幼児期の自立心の育ちー甘え	予習	自立心の育ち（甘え）、プリントの穴埋めをする
			復習	自立心の育ち（甘え）をノートに整理する
第9回	内容	乳幼児期の自立心と育ちー「イヤ」「ジブンデ」	予習	自立心と育ち（イヤ・ジブンデ）、プリント穴埋め
			復習	自立心と育ち（イヤ・ジブンデ）を整理する
第10回	内容	幼児期の協同性の育ちー友達とのつながり	予習	協同性の育ち、プリントの穴埋めをする
			復習	協同性の育ちをノートに整理する
第11回	内容	幼児期の協同性の育ちー目標の共有と協力してやり遂げようとする力の育ち	予習	協同性の育ち（目標の共有）、プリントの穴埋め
			復習	協同性の育ち（目標の共有）をノートに整理する
第12回	内容	幼児期の道徳性・規範意識の芽生えと育ちー他者とのかっ藤体験を通してきまりの必要性を理解する	予習	道徳性・規範意識の芽生え、プリントの穴埋め
			復習	道徳性・規範意識の芽生えをノートに整理する
第13回	内容	幼児期の道徳性・規範意識の芽生えと育ちー気持ちを調整して折り合いをつける力の育ち	予習	気持ちを調整する力、プリントの穴埋めをする
			復習	気持ちを調整する力をノートに整理する
第14回	内容	乳幼児期の人間関係のひろがる場と関係性ー家庭生活～園生活へ	予習	家庭生活から園生活、プリントの穴埋めをする
			復習	家庭生活から園生活をノートに整理する
第15回	内容	乳幼児期の人間関係のひろがる場と関係性ー園生活～地域へ、まとめ	予習	これまでの内容を整理する
			復習	学んだ内容を整理する

予習に要する学習時間：概ね25分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね20分を目安とする。

課題へのフィードバック	レポート及び小テストを返却し、コメントを伝える。
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　）する／（〇）しない 成績評価の方法：　筆記試験（70%）、レポート・課題（20%）、授業態度（10%）
教科書	『コンパス　保育内容　人間関係』（岸井慶子・酒井真由子編著、建帛社）
参考文献	授業において紹介する。
注意事項	他の受講生の意見や考えを聞くこと、また自分自身の体験とつなげて考えることで、学びを深めてほしい。

科　目　名	環境	単 位 数	1	実務経験	担当教員	まつなが　しずこ 松永　静子
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ		授業形態	演習			

授　業　の 内　　容	・幼稚園教育要領及び保育所保育指針 及び幼保連携型認定こども園教育保育要領に基づく保育内容「環境」の基本的な知識として理解を深める。 ・子どもを取り巻く「環境」について、広い視野で関心を持ち知識を得、理解を深める。 ・「環境を通して行う保育とは」では乳幼児の発達を踏まえ、生活や遊びの環境がどうあれば良いか、子どもが自ら主体的に関わる環境について、実践的に学んでいく。
到 達 目 標	1. 保育内容「環境」のねらいと内容について、基本的な理解を深める。 2. 子どもを取り巻く様々な環境について関心をもち、環境とは何かを深く考える。 3. 子どもの発達を理解し、保育の中で自ら主体的に環境と関わること、また生活に取り入れていこうとする力を育てる。
学位授与方針	幼児教育学科（1・2・3・4・5・6・7）地域保育学科（1・2・3・4・5）文化表現学科（1・2・3・4）

授 業 計 画					
	第１回	内容	環境とは「子どもを取り巻く環境の変化」	予習	環境問題について調べる
				復習	授業とむすびつけて復習する（まとめ）
	第２回	内容	「環境」について考えるワーク（発表）　パソコン室で	予習	ネットで環境問題を調べてみる
				復習	環境問題の対策についてまとめる
	第３回	内容	保育と環境「環境を通して行う保育」とは	予習	幼稚園教育要領・保育所保育指針総則を読む
				復習	環境を通して行う保育についてまとめる
	第４回	内容	領域「環境」のねらいと内容「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「認定こども園教育保育要領」から	予習	保育内容「環境」を読んでおく。
				復習	「環境」のねらい、内容を復習しておく。
	第５回	内容	領域「環境」と他領域とのつながり	予習	幼稚園教育要領・保育所保育指針保育内容５領域を読む
				復習	領域とは何か、復習する。
	第６回	内容	子どもの育ちと領域［環境］乳児期	予習	子どもの発達を予習しておく
				復習	子どもの発達に応じた環境についてまとめる
	第７回	内容	子どもの育ちと領域［環境］幼児期	予習	前半授業の振り返りをする
				復習	自分の学習課題を考える
	第８回	内容	子どもの生活と自然環境（自然体験など） 提出課題の説明（散歩の安全を考える）	予習	自然をとりいれた遊びを考えてくる
				復習	子どもの自然へのかかわりをまとめる
	第９回	内容	子どもの生活と自然環境（生き物など）	予習	戸外で自然素材を探す
				復習	生命の大切さをまとめる
	第 10 回	内容	子どもの生活と遊び（空間構成など）	予習	幼稚園実習の保育室の環境を振り返る。
				復習	室内。室外の環境をそれぞれまとめてみる
	第 11 回	内容	子どもの学びと環境構成（モノや道具） 課題提出（散歩マップ）	予習	実習でかかわっていたものや道具をかきだす
				復習	保育室の環境構成をまとめる
	第 12 回	内容	文字や標識・図形・数量と保育 ・折り紙のワーク	予習	後半授業の振り返りをする
				復習	全体を通して振り返る
	第 13 回	内容	後半授業のまとめ（授業内レポート） 授業資料の持ち込み可	予習	環境を通した保育の指導案を作成するために図書館などで参考書を探す。
				復習	指導案の原案を書いてみる
	第 14 回	内容	子育てをめぐる環境（虐待・貧困）	予習	考えた活動で指導案の流れを考える
				復習	指導案作成に取り組む
	第 15 回	内容	保幼小の連携をめぐる環境	予習	報告していただく実践園の予習
				復習	講話からまなんだことを振り返る
	予習に要する学習時間：概ね　30 分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね　時　３０分を目安とする。				

課題へのフィードバック	環境問題への関心を深めたり、主体的な学びの環境づくり、保育を目指せる授業内容とする。
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　）する／（○ ）しない　ただし授業内レポート実施、指導案提出により評価する。 成績評価の方法：　筆記試験（(レポート）40%)、ミニレポート・課題・指導案（50%)、授業態度・リアクションペーパー（１０%）
教科書	『書名』(著者名、出版社名
参考文献	『書名』(著者名、出版社名)
注意事項	

科　目　名	言　葉	単 位 数	1	実務経験	担当教員	なかやま　かずこ 中 山　佳寿子
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ		授業形態	演習			

授　業　の 内　　容	乳幼児が豊かな言葉と表現を身につけ想像する楽しみを広げるために必要となる領域「言葉」指導の基礎的知識を身につける。言葉の意義と機能について理解した上で、乳幼児の発達に即して言葉を育む基礎的な力と、乳幼児の言葉を豊かに育む遊びや活動に関する知識を身につける。
到 達 目 標	１．乳幼児の言葉の発達を理解している。 ２．人間にとっての言葉の意義や機能を理解する。 ３．乳幼児にとっての児童文化財の意義を理解する。 ４．子どもの豊かな言葉を育む活動や遊びについて基礎的な知識を身につける。
学位授与方針	幼児教育学科（　　）地域保育学科（　１２　　）文化表現学科（　　）

授業計画

第１回	内容	オリエンテーション（授業の内容、紹介する遊びや活動について）／　領域「言葉」を学ぶ意義	予習	シラバスに目を通しておく
			復習	授業のノート・指針・要領を対応させて読み込む
第２回	内容	言葉の発達を学ぶ①（０歳～１歳半） 活動：「おなまえリレー」（グループワーク）	予習	前回のノートに目を通す
			復習	授業で行った活動について、後で再現できるようまとめる
第３回	内容	言葉の発達を学ぶ②（１歳半～３歳） 活動：「たんたん連想ゲーム」（グループワーク）	予習	前回のノートに目を通す
			復習	授業で行った活動について、後で再現できるようまとめる
第４回	内容	言葉の発達を学ぶ③（３歳～６歳） 活動：「ポーズでしりとり」	予習	前回のノートに目を通す
			復習	言葉の発達について、ノートと教科書を見ながら理解を定着させる
第５回	内容	言葉の発達を学ぶ④（まとめ） 討議：「早期幼児教育」のもたらす影響（グループワークの後、発表）	予習	前回までのノートに目を通す
			復習	早期教育の問題点についてまとめる
第６回	内容	多様な感情体験とことば①（教科書第３章） 活動：「額縁の絵Ⅰ」（グループワークの後、発表）	予習	事例（3-1、3-4、3-5、3-6）のみ目を通しておく
			復習	授業で行った活動について、後で再現できるようまとめる
第７回	内容	多様な感情体験とことば②（教科書第３章） 活動：「額縁の絵Ⅱ」（グループワークの後、発表）	予習	事例（3-8、3-9、3-11、3-14）のみ目を通しておく
			復習	授業で行った活動について、後で再現できるようまとめる
第８回	内容	体験・思いを共有するためのことば（教科書第４章）	予習	事例（4-3、4-6、4-7、4-8）のみ目を通しておく
			復習	事例における「保育者の援助」をまとめる
第９回	内容	ごっこ遊びの意義（教科書第７章） 活動：「ももたろうのごっこあそび①」（グループワークの後、発表）	予習	ごっこ遊びにはどんなものがあるか考えておく
			復習	ごっこあそびを構想する手順をまとめておく
第 10 回	内容	子どもと絵本（絵本の種類など） 活動：絵本を友だちに紹介しよう（グループワークの後、発表）　レポート：４・５歳児向けの絵本	予習	４・５歳児向けの絵本を３冊読み授業にも持参する
			復習	授業で出会った絵本の保育での活用法を考える
第 11 回	内容	一次的ことばと二次的ことば（教科書第５章、６章） 活動：くろまる絵本を作ろう	予習	教科書 P130～131,138～142 を読んでおく
			復習	二次的ことばについてまとめる／くろまる絵本を仕上げておく
第 12 回	内容	話しことばと書きことば　～文字との出会い～ 活動：自作絵本（くろまる絵本）の発表	予習	「文字を書きたくなる遊び」について考える
			復習	文字の習得の前提となる発達上の条件についてまとめる
第 13 回	内容	ことばとはなにか？～言葉と思考～ 討議：「ケーキの切れない非行少年たち」について	予習	言葉を使わないで考えられるか試してみる
			復習	言葉と思考の関係についてまとめておく
第 14 回	内容	現代的課題と領域「言葉」（教科書第８章） 討議：「メディアによるバーチャル体験」と「ごっこ遊び」の違いについて考えよう（発表）	予習	教科書 P190～191 を読んでおく
			復習	保育者として子どもの「感性」「創造性」「言葉の豊かさ」をどのように育むか、考察してまとめる
第 15 回	内容	まとめ（学習内容と活動の振り返り）	予習	これまでのノートを見返しておく
			復習	領域「言葉」と他領域の関連をまとめる

予習に要する学習時間：概ね 20 分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね 25 分を目安とする。

課題へのフィードバック	レポートにコメントを記入する。発表については具体的なアドバイスを行う。
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　）する／（　○　）しない 成績評価の方法：　レポート・課題（５０％）、作品・発表（３０％）、授業態度（２０％）
教科書	『新訂　事例で学ぶ保育内容　領域言葉』（無藤隆監修、出版社名　萌文書林）
参考文献	『保育所保育指針』『幼稚園教育要領』
注意事項	授業を通して保育者にふさわしい言葉の豊かさや表現力を身につけよう。

科　目　名	造形表現	単 位 数	1	実務経験	担当教員	小口（おぐち）　偉（すぐる）
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	CHS22105	授業形態	演習			

授　業　の　内　容	乳幼児期の造形的表現方法は、発達段階を踏まえ、適切な素材提供をすることが、活動に広がりと奥行きをもたらす。子どもの活動をもとにした活動体験をすることから、「素材、道具について」の造形的側面と、「乳幼児の表現活動について」の心身の発達における側面から、造形を通した表現について理解、関心を深める。
到 達 目 標	1. 子どもたちの表現活動の意義を理解している。 2. 年齢やクラス編成ごとに変化する活動内容に応じた環境づくりができる。 3. 子どもたちと活動が楽しめる技術、視点、方法を身につけている。
学位授与方針	幼児教育学科（　　）地域保育学科（１・２　）文化表現学科（　　）

授 業 計 画

第１回	内容	素材体験１ 紙について 質感で遊ぶ	予習	参考書等の紙の活動に関することを読み込む
			復習	身近な紙の触り心地を確かめておく
第２回	内容	素材体験２ グループワーク 紙について２ 空間を使って遊ぶ	予習	遊ぶこととは何かノートに書き出し持参する。
			復習	体験を通して空間を使って遊ぶこととは何か自分なりに考え、まとめる。
第３回	内容	素材体験３ クレヨン、パスについて	予習	参考書等のクレヨン、パスに関する項目を読み込む。
			復習	クレヨン、パスの体験内容を記録ノートにまとめる。
第４回	内容	素材体験４ グループワーク　粘土について	予習	参考書等の粘土に関する記述について読む。
			復習	粘土の体験内容をノートにまとめる。
第５回	内容	素材体験 5 グループワーク　シート系素材について	予習	参考書等のハサミに関する記述について、ノートにまとめ持参する。
			復習	シート素材の体験内容を記録ノートにまとめる。
第６回	内容	道具体験１ ハサミについて	予習	参考書等のステープラーに関する記述について、ノートにまとめ持参する。
			復習	ハサミの体験内容を記録ノートにまとめる。
第７回	内容	道具体験２ ステープラーについて	予習	参考書等の接着に関する記述について読み込み、ノートにまとめ持参する。
			復習	体験内容を記録ノートにまとめる。
第８回	内容	応用１ 構成遊びについて１ 色画用紙での構成遊び	予習	ステープラ―の構成遊びについて調べる。
			復習	構成遊び体験内容を記録ノートにまとめる。
第９回	内容	応用２ 構成遊びについて２ 与えられたきっかけから画面構成１	予習	構成遊びについて調べる。
			復習	画面構成の内容を記録ノートにまとめる。
第10回	内容	応用３ 構成遊びについて３ 与えられたきっかけから画面構成２発表	予習	構成遊びについて調べ、まとめたノートを持参する。
			復習	発表内容を記録ノートにまとめる。
第11回	内容	応用４ 様々な技法遊び デカルコマニー/スクラッチ	予習	技法遊びについて５つの種類とその方法を調べ、まとめたものを持参する。
			復習	技法遊びの体験内容を記録ノートにまとめる。
第12回	内容	立体の扱いについて「紙立体」 合同制作と共同制作を体験する	予習	参考書の紙立体に関する記述について、ノートにまとめ持参する。
			復習	合同制作の体験内容を記録ノートにまとめる。
第13回	内容	生活素材を使った制作体験	予習	造形素材として使用できる可能性のあるものを集めておく。
			復習	制作体験内容を記録ノートにまとめる。
第14回	内容	工作１ 動かして遊ぶ「紙工作」	予習	参考書の紙工作に関する記述について読み込み、ノートにまとめ持参する
			復習	紙工作の体験内容を記録ノートにまとめる。
第15回	内容	振り返り　ドキュメンテーション作成	予習	ドキュメンテーションについて調べ、ノートにまとめる。(60分)
			復習	記録ノートを整理する。

予習に要する学習時間：概ね３０分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね４５分を目安とする。

課題へのフィードバック	各提出課題に対し採点をする。返却の際に保育現場での実践方法や注意点などをその都度伝える。
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　）する／（ O ）しない 成績評価の方法：　筆記試験（　　%）、レポート・課題（２０%）、作品・発表（４０%）、実技（　　%）、授業態度（４０%）
教科書	『保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 幼稚園教育要領』平成 29 年 3 月 31 日告示
参考文献	『楽しい造形表現』(子ども造形表現研究会、圭文社) 『保育園・幼稚園の造形あそび』(鮫島良一,馬場千晶、成美堂出版)
注意事項	出来映えは重視しません。誠実に、積極的に取り組むこと。 ※ 作品制作に関わる道具、材料費は個人負担です。(1600 円)。

科　目　名	音楽・身体表現	単 位 数	1	実務経験	担当教員	おおわ　こういち　しおざき 大輪　公壱・塩崎　みづほ
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	CHS22106	授業形態	演習			

授業の内容	領域「表現」における音楽・身体表現の指導法に関する、乳幼児期の特徴を捉え、乳幼児の感性や創造性を豊かにする表現遊びや環境について実践的に学ぶとともに、保育者として必要な知識・技能を学び、豊かな感性と表現力を身に付ける。
到達目標	1. 見る・聴く・動くなどの様々な表現を楽しむことを通して、イメージを豊かにすることができる。 2. 生活の中での出来事を、様々な素材を生かして表現することができる。 3. それぞれの表出・表現を受け止め、表現する過程を工夫し、より楽しめるよう発展させることができる。 4. 他者を受け入れ、互いに共感しあう活動を通して、表現の楽しさの要因についての知識を深め、生かすことができる。 5. ソルフェージュ（音感教育）をベースに唱歌・童謡における基本的な音楽要素を下記の訓練を通して身に付け、かつピアノ・打楽器演奏及び歌唱法を理解している。
学位授与方針	幼児教育学科（　　）地域保育学科（1・2）文化表現学科（　　）

授業計画

第１回	内容	授業の概要について理解する 領域「表現」のねらい及び内容について理解する	予習	シラバスを読み、本授業のねらいを理解する
			復習	本講義の内容をノートにまとめる
第２回	内容	「乳幼児の表現」　乳幼児期のリズム遊びの実技の実践を通して、保育者として受け止める視点についてグループ討議し、その大切さについて考える。	予習	乳幼児期の表現の特徴について、調べる
			復習	リズムの実技の内容をノートにまとめる
第３回	内容	「身体表現とは」運動会作品に繋がる表現遊びの実践を行い、その活動を通して、豊かな表現を引き出すための保育者の役割や、題材について討議する。	予習	乳幼児期の運動発達についての箇所を読んでくる
			復習	身体表現の題材についてまとめる
第４回	内容	「生活の中での身体表現」　生活を題材とした身体表現遊びの実技を通して、豊かな表現活動の展開の可能性についてグループ討議する。	予習	生活の中での身表現の題材について考えてくる
			復習	生活での表現遊びの本時の内容をノートにまとめる
第５回	内容	「絵本と身体表現」　絵本を題材とした身体表現遊びの実技を通して、展開についてグループ討議する。	予習	身体表現に利用できる絵本を探してくる
			復習	実技での活動の内容についてノートにまとめる
第６回	内容	「自然と身体表現」　自然を題材とした身体表現遊びの実技を通して、展開についてグループ討議する。	予習	自然素材について探してくる
			復習	グループ討議の内容をノートにまとめる
第７回	内容	「ＩＣＴを使った身体表現」　ICT を利活用した表現方法について実践し、生かし方・工夫について話し合い、まとめる。	予習	ICT の意味について調べ活用方法について考えてくる
			復習	活用の仕方、操作の仕方の練習をする
第８回	内容	「作品創作と発表」今までの授業のまとめとして、作品創作過程を学び、発表し、発表会までの流れについて学ぶ。	予習	作品創作の選曲をしてくる
			復習	発表までの過程を振り返りレポートにまとめる
第９回	内容	楽典①譜表・音名・階名、及び英・日における音符の読み書き。	予習	楽典資料を熟読し、要点をレポートにまとめる。
			復習	プリント資料の五線紙へ音符及び音名を書く。
第 10 回	内容	楽典②楽語・音程・調：伊語による基本的な楽語ならびにインターヴァルと調性の理解。	予習	楽典資料を熟読し、要点をレポートにまとめる。
			復習	プリント資料へ楽語、音程、調性を書き込む。
第 11 回	内容	楽典③音・休符の種類と和音：音・休符、和音の名称とその内容への理解。	予習	楽典資料を熟読し、要点をレポートにまとめる。
			復習	プリント資料へ音・休符・和音と名称を記入。
第 12 回	内容	リズム及び書き取りの基本：基礎的なリズムを拍子とともに理解し、ディクテーションの方法を学ぶ。	予習	リズム資料を熟読し、要点をレポートにまとめる。
			復習	書き取ったものを再度演奏して確認する。
第 13 回	内容	リズムカノン唱とリズム叩き：カノン形式への理解と、カノン唱及びリズム叩きを学ぶ。	予習	資料を参照しカノンをレポートへまとめる。
			復習	カノン唱・リズム叩きを再度演奏し確認する。
第 14 回	内容	リズム諸楽器（打楽器）の解説とリズム楽器演奏：リズム楽器の絵図をまとめ、リズム楽器を実演する。	予習	資料を参照し打楽器をレポートへまとめる。
			復習	絵図のまとめと手拍子によるリズムの再演奏。
第 15 回	内容	学習まとめの発表：唱歌・童謡を任意選択し妥当と思われるリズム楽器を付して演奏。	予習	資料を参照し選択した作品をレポートへ記す。
			復習	無伴奏による歌唱に打楽器を付し再演奏。

予習に要する学習時間：概ね 15 分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね 30 分を目安とする。

課題へのフィードバック	提出を求めた課題レポート等に対しては、添削を施し返却・解説する。また簡易な実技演奏に関しては可能な限り個別に対応しながらコメントを行う。
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　）する／（〇）しない 成績評価の方法：　筆記試験（%）、レポート・課題（30%）、作品・発表（20%）、実技（20%）、授業態度（30%）
教科書	『運動あそび・表現あそび　指導方法を身につける理論と実例』（宮下恭子編著、大学図書出版）
参考文献	『新・幼児の音楽教育』（井口太編、朝日出版社）

	『実用こどものうた』（田口雅夫・高崎和子編、カワイ出版）
注意事項	成績評価は授業内でのレポート、発表、授業態度等で総合的に判断する。 授業内での飲食、スマートフォンの使用、私語は厳禁。 身体表現の授業では、実技を行う際必ず指定のジャージを着用のこと。（塩崎８・大輪８）

科目名	音楽Ⅰ	単位数	1	実務経験	担当教員	大輪（おおわ） 公壱（こういち） 他
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	ＥＤＳ12101	授業形態	演習			

授業の内容	この授業では、保育現場で求められるピアノ演奏技術の修得のための個人レッスンと、音楽の基礎的な知識や理論（楽典）、歌唱法、伴奏法を学ぶクラス授業を並行して行う。6名前後のグループの半数が個人レッスン、それ以外の半数はクラス授業を受講し、45分で交代する。
到達目標	1. 基礎的な練習曲を学習することで、保育現場で求められるピアノ演奏技術を修得している。 2. 幼稚園・保育所実習や保育現場での実践に対応できるよう、こどものうたの弾き歌いができる。 3. 保育の中の音楽に必要な楽典やソルフェージュへの理解を深めることによって、楽譜の読み書きができ、自らの力でピアノ演奏することができる。
学位授与方針	幼児教育学科（ 2 3 7 ）地域保育学科（ ）文化表現学科（ ）

授業計画

第1回	内容	オリエンテーション 授業内容、進め方について	予習	事前にシラバスを読んでおく
			復習	この科目で学ぶ内容を確認しておく
第2回	内容	ハ長調の和音・分散和音の伴奏形① 教本 No.1～8	予習	教本 No.1～8の予習
			復習	教本 No.1～8の復習
第3回	内容	分散和音の伴奏形②・③ 教本 No.9～16	予習	教本 No.9～16の予習
			復習	教本 No.9～16の復習
第4回	内容	分散和音の伴奏形④ 4分音符と8分音符 教本 No.17～24	予習	教本 No.17～24の予習
			復習	教本 No.17～24の復習
第5回	内容	ハ長調の下属和音 教本 No.25～26	予習	教本 No.25～26の予習
			復習	教本 No.25～26の復習
第6回	内容	ヘ長調の主和音・下属和音・属和音 教本 No.27～32	予習	教本 No.27～32の予習
			復習	教本 No.27～32の復習
第7回	内容	ト長調の主和音・下属和音・属和音 教本 No.33～38	予習	教本 No.33～38の予習
			復習	教本 No.33～38の復習
第8回	内容	いろいろな伴奏形①・②・③・④ 教本 No.39～42	予習	教本 No.39～42の予習
			復習	教本 No.39～42の復習
第9回	内容	高い音の練習 教本 No.43～46	予習	教本 No.43～46の予習
			復習	教本 No.43～46の復習
第10回	内容	3/8拍子と6/8拍子 教本 No.47～48 生活のうたの弾き歌い①	予習	教本 No.47～48他の予習
			復習	教本 No.47～48他の復習
第11回	内容	付点4分音符を用いたリズム 教本 No.49～54 生活のうたの弾き歌い②	予習	教本 No.49～54他の予習
			復習	教本 No.49～54他の復習
第12回	内容	ハ長調の音階 教本 No.55～58 生活のうたの弾き歌い③	予習	教本 No.55～58他の予習
			復習	教本 No.55～58他の復習
第13回	内容	ヘ長調の音階 教本 No.59～61 生活のうたの弾き歌い④	予習	教本 No.59～61他の予習
			復習	教本 No.59～61他の復習
第14回	内容	ト長調の音階 教本 No.62～67 生活のうたの弾き歌い⑤	予習	教本 No.62～67他の予習
			復習	教本 No.62～67他の復習
第15回	内容	これまでの授業のまとめと発表	予習	発表曲の予習
			復習	指導を受けた点を復習する

予習に要する学習時間：概ね60分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね60分を目安とする。

課題へのフィードバック	授業内での発表や実技試験での演奏に対して、個別に講評を行う。
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ○ ）する／（ ）しない 成績評価の方法： 筆記試験（ 10%）、作品・発表（30%）、実技（50%）、授業態度（10%）
教科書	『教職課程のための大学ピアノ教本』（大学音楽教育研究グループ、教育芸術社） 『いろいろな伴奏で弾ける こどものうた100』（小林美実 他、チャイルド本社）
参考文献	必要に応じて楽譜・プリントを配布する。
注意事項	各15回（大輪・有賀・阿部・加畑・木住野・河野・櫻澤・諏訪・高尾・高橋・辻・土屋・綱川・長島・横田）

科目名	音楽Ⅱ	単位数	1	実務経験	担当教員	大輪（おおわ） 公壱（こういち） 他
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	ＥＤＳ12102	授業形態	演習			

授業の内容	音楽Ⅰに引き続き、保育現場で求められるピアノ演奏技術の修得のための個人レッスンと、音楽の基礎的な知識や理論（楽典）、歌唱法、伴奏法を学ぶクラス授業を並行して行う。６名前後のグループの半数が個人レッスン、それ以外の半数はクラス授業を受講し、45 分で交代する。
到達目標	1. 基礎的な練習曲を学習することで、保育現場で求められるピアノ演奏技術を修得している。 2. 幼稚園・保育所実習や保育現場での実践に対応できるよう、こどものうたの弾き歌いができる。 3. 保育の中の音楽に必要な楽典やソルフェージュへの理解を深めることによって、楽譜の読み書きができ、自らの力でピアノ演奏することができる。
学位授与方針	幼児教育学科（ 2 3 7 ）地域保育学科（ ）文化表現学科（ ）

授業計画

第１回	内容	臨時記号と半音階　教本　No.68～69 季節のうた（春）弾き歌い①	予習	教本　No.68～69 他の予習
			復習	教本　No.68～69 他の復習
第２回	内容	16 分音符を用いたリズム　教本　No.70～72 季節のうた（春）弾き歌い②	予習	教本　No.70～72 他の予習
			復習	教本　No.70～72 他の復習
第３回	内容	イ短調の主要三和音　教本　No.73～76 季節のうた（春）弾き歌い③	予習	教本　No.73～76 他の予習
			復習	教本　No.73～76 他の予習
第４回	内容	6 度・3 度の重音　教本　No.77～78 季節のうた（夏）弾き歌い①	予習	教本　No.77～78 他の予習
			復習	教本　No.77～78 他の復習
第５回	内容	3 連符　教本　No.79～80 季節のうた（夏）弾き歌い②	予習	教本　No.79～80 他の予習
			復習	教本　No.79～80 他の復習
第６回	内容	ヘ長調よりハ長調への転調　教本　No.81 季節のうた（夏）弾き歌い③	予習	教本　No.81 他の予習
			復習	教本　No.81 他の復習
第７回	内容	3 度の重音と 8 度の跳躍　教本　No.82 季節のうた（秋）弾き歌い①	予習	教本　No.82 他の予習
			復習	教本　No.82 他の復習
第８回	内容	弱起の曲　教本　No.83～84 季節のうた（秋）弾き歌い②	予習	教本　No.83～84 他の予習
			復習	教本　No.83～84 他の復習
第９回	内容	ニ長調とニ短調の主要三和音　教本　No.85～86 季節のうた（秋）弾き歌い③	予習	教本　No.85～86 他の予習
			復習	教本　No.85～86 他の復習
第 10 回	内容	装飾音　教本　No.87～90 季節のうた（冬）弾き歌い①	予習	教本　No.87～90 他の予習
			復習	教本　No.87～90 他の復習
第 11 回	内容	複付点音符　教本　No.91 季節のうた（冬）弾き歌い②	予習	教本　No.91 他の予習
			復習	教本　No.91 他の復習
第 12 回	内容	教本　No.92～94 季節のうた（冬）弾き歌い③	予習	教本　No.92～94 他の予習
			復習	教本　No.92～94 他の復習
第 13 回	内容	マーチ、その他①　教本　No.95～98	予習	マーチ曲（教本　No.95～98）他の予習
			復習	マーチ曲（教本　No.95～98）他の復習
第 14 回	内容	マーチ、その他②　教本　No.99～102	予習	マーチ曲（教本　No.99～102）他の予習
			復習	マーチ曲（教本　No.99～102）他の復習
第 15 回	内容	マーチ、その他③　教本　No.103～107	予習	教本　No.103～107 他の予習
			復習	教本　No.103～107 他の復習

予習に要する学習時間：概ね 60 分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね 60 分を目安とする。

課題へのフィードバック	授業内での発表や実技試験での演奏に対して、個別に講評を行う。
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ○ ）する／（ ）しない 成績評価の方法：　筆記試験（ 10%）、作品・発表（30%）、実技（50%）、授業態度（10%）
教科書	『教職課程のための大学ピアノ教本』（大学音楽教育研究グループ、教育芸術社） 『いろいろな伴奏で弾ける　こどものうた 100』（小林美実　他、チャイルド本社）
参考文献	必要に応じて楽譜・プリントを配布する。
注意事項	各 15 回（大輪・有賀・阿部・加畑・木住野・河野・櫻澤・諏訪・高尾・高橋・辻・土屋・綱川・長島・横田）

科　目　名	音楽Ⅲ	単 位 数	1	実務経験	担当教員	大輪（おおわ）　公壱（こういち）　他
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	ＥＤＳ12201	授業形態	演習			

授　業　の　内　容	音楽Ⅰ、音楽Ⅱで学んだ内容をもとに、子どもの音楽活動を支える基礎技能として、さらに高度なピアノ演奏技術を修得し、教育実習や保育所実習、採用試験で重要視されるこどもの歌の弾き歌いを中心に学ぶ。クラスを担当する複数の教員より指導を受ける。
到 達 目 標	1. 音楽Ⅰ、音楽Ⅱで身につけた知識、ピアノ演奏技術を深め、教育実習や保育現場での実践に対応できるよう、より多くのこどものうたの弾き歌いができている。 2. コードネームを用いた楽譜から、簡単な伴奏付けをすることができている。
学位授与方針	幼児教育学科（　2　3　7　）地域保育学科（　　）文化表現学科（　　）

授 業 計 画

第１回	内容	オリエンテーション	予習	事前にシラバスを読んでおく
			復習	この科目で学ぶ内容を確認しておく
第２回	内容	園生活のうた　弾き歌い① 「おはよう」「おはようのうた」他	予習	「おはよう」「おはようのうた」の予習
			復習	「おはよう」「おはようのうた」を復習
第３回	内容	園生活のうた　弾き歌い② 「おべんとう」「おかえりのうた」他	予習	「おべんとう」「おかえりのうた」の予習
			復習	「おべんとう」「おかえりのうた」の復習
第４回	内容	園生活のうた　弾き歌い③ 「さよならのうた」他	予習	「さよならのうた」の予習
			復習	「さよならのうた」の復習
第５回	内容	季節のうた　４月①　他 「あくしゅでこんにちは」「せんせいとおともだち」	予習	「あくしゅでこんにちは」他の予習
			復習	「せんせいとおともだち」他の復習
第６回	内容	季節のうた　４月② 「チューリップ」「ちょうちょう」「めだかの学校」他	予習	「チューリップ」「ちょうちょう」他の予習
			復習	「ちょうちょう」「めだかの学校」他の復習
第７回	内容	季節のうた　５月① 「手をたたきましょう」「こいのぼり」他	予習	「手をたたきましょう」「こいのぼり」他の予習
			復習	「手をたたきましょう」「こいのぼり」他の復習
第８回	内容	季節のうた　５月② 「ぶんぶんぶん」「むすんでひらいて」他	予習	「ぶんぶんぶん」「むすんでひらいて」他の予習
			復習	「ぶんぶんぶん」「むすんでひらいて」他の復習
第９回	内容	季節のうた　６月① 「あめふりくまのこ」「あまだれぽったん」他	予習	「あめふりくまのこ」「あまだれぽったん」の予習
			復習	「あめふりくまのこ」「あまだれぽったん」の復習
第 10 回	内容	季節のうた　６月② 「とけいのうた」「すてきなパパ」他	予習	「とけいのうた」「すてきなパパ」他の予習
			復習	「とけいのうた」「すてきなパパ」他の復習
第 11 回	内容	季節のうた　７・８月① 「たなばたさま」「うみ」他	予習	「たなばたさま」「うみ」の予習
			復習	「たなばたさま」「うみ」の復習
第 12 回	内容	季節のうた　７・８月② 「おばけなんてないさ」「シャボン玉」他	予習	「おばけなんてないさ」「シャボン玉」他の予習
			復習	「おばけなんてないさ」「シャボン玉」他の復習
第 13 回	内容	あそびのうた① 「グーチョキパーでなにつくろう」他	予習	「グーチョキパーでなにつくろう」他の予習
			復習	「グーチョキパーでなにつくろう」他の復習
第 14 回	内容	あそびのうた② 「とんとんとんとんひげじいさん」他	予習	「とんとんとんとんひげじいさん」他の予習
			復習	「とんとんとんとんひげじいさん」他の復習
第 15 回	内容	あそびのうた③ 「むすんでひらいて」「こぶたぬきつねこ」他	予習	「むすんでひらいて」他の予習
			復習	「こぶたぬきつねこ」他の復習

予習に要する学習時間：概ね 60 分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね 60 分を目安とする。

課題へのフィードバック	授業内での発表や実技試験での演奏に対して、個別に講評を行う。
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　○　）する／（　　）しない 成績評価の方法：　作品・発表（　30　%）、実技（　50　%）、授業態度（　20　%）
教科書	『いろいろな伴奏で弾ける　こどものうた 100』（小林美実　他、チャイルド本社）
参考文献	必要に応じて楽譜・プリントを配布する。
注意事項	各 15 回（大輪・有賀・阿部・加畑・木住野・河野・櫻澤・諏訪・高尾・高橋・辻・土屋・綱川・長島・横田）

科　目　名	音楽Ⅳ	単 位 数	1	実務経験	担当教員	大輪（おおわ）　公壱（こういち）　他
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	ＥＤＳ12202	授業形態	演習			

授　業　の　内　容	音楽Ⅰ～Ⅲで学んだ内容をもとに、子どもの音楽活動を支える基礎技能として、さらに高度なピアノ演奏技術を修得し、教育実習や保育所実習、採用試験で重要視されるこどもの歌の弾き歌いを中心に学ぶ。クラスを担当する複数の教員より指導を受ける。
到 達 目 標	1. 音楽Ⅰ～Ⅲで身につけた知識、ピアノ演奏技術を深め、教育実習や保育現場での実践に対応できるよう、より多くのこどものうたの弾き歌いができている。 2. コードネームを用いた楽譜から、簡単な伴奏付けをすることができている。
学位授与方針	幼児教育学科（　2　3　7　）地域保育学科（　　）文化表現学科（　　）

授 業 計 画

第１回	内容	季節のうた　9月① 「とんぼのめがね」「つき」他	予習	「とんぼのめがね」「つき」他の予習
			復習	「とんぼのめがね」「つき」他の復習
第２回	内容	季節のうた　9月② 「きらきら星」「どんぐりころころ」他	予習	「きらきら星」「どんぐりころころ」他の予習
			復習	「きらきら星」「どんぐりころころ」他の復習
第３回	内容	季節のうた　10月① 「やきいもグーチーパー」「きのこ」他	予習	「きらきら星」「どんぐりころころ」他の予習
			復習	「きらきら星」「どんぐりころころ」他の復習
第４回	内容	季節のうた　10月② 「小さい秋みつけた」「まつぼっくり」他	予習	「小さい秋みつけた」「まつぼっくり」の予習
			復習	「小さい秋みつけた」「まつぼっくり」の復習
第５回	内容	季節のうた　11月① 「大きなくりの木の下で」「まっかな秋」他	予習	「大きなくりの木の下で」「まっかな秋」の予習
			復習	「大きなくりの木の下で」「まっかな秋」の復習
第６回	内容	季節のうた　11月② 「夕やけこやけ」「たきび」他	予習	「夕やけこやけ」「たきび」他の予習
			復習	「夕やけこやけ」「たきび」他の復習
第７回	内容	季節のうた　12月① 「あわてんぼうのサンタクロース」他	予習	「あわてんぼうのサンタクロース」他の予習
			復習	「あわてんぼうのサンタクロース」他の復習
第８回	内容	季節のうた　12月② 「ジングルベル」他	予習	「ジングルベル」他の予習
			復習	「ジングルベル」他の復習
第９回	内容	季節のうた　1月① 「お正月」「雪」他	予習	「お正月」「雪」他の予習
			復習	「お正月」「雪」他の復習
第10回	内容	季節のうた　1月② 「雪のこぼうず」「雪のぺんきやさん」他	予習	「雪のこぼうず」「雪のぺんきやさん」他の予習
			復習	「雪のこぼうず」「雪のぺんきやさん」他の復習
第11回	内容	季節のうた　2月① 「まめまき」「北風小僧の寒太郎」他	予習	「まめまき」「北風小僧の寒太郎」他の予習
			復習	「まめまき」「北風小僧の寒太郎」他の復習
第12回	内容	季節のうた　2月② 「春がきた」「どこかで春が」他	予習	「春がきた」「どこかで春が」他の予習
			復習	「春がきた」「どこかで春が」他の復習
第13回	内容	季節のうた　3月① 「うれしいひなまつり」「思い出のアルバム」他	予習	「うれしいひなまつり」他の予習
			復習	「思い出のアルバム」他の復習
第14回	内容	季節のうた　3月② 「さよならぼくたちのほいくえん」「一年生になったら」他	予習	「一年生になったら」他の予習
			復習	「さよならぼくたちのほいくえん」他の復習
第15回	内容	コードネームを用いた伴奏づけ	予習	コードネームについての予習
			復習	コードネームを用いた伴奏の練習

予習に要する学習時間：概ね60分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね60分を目安とする。

課題へのフィードバック	授業内での発表や実技試験での演奏に対して、個別に講評を行う。¥
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　○　）する／（　　）しない 成績評価の方法：　作品・発表（　30　%）、実技（　50　%）、授業態度（　20　%）
教科書	『いろいろな伴奏で弾ける　こどものうた100』（小林美実　他、チャイルド本社）
参考文献	必要に応じて楽譜・プリントを配布する。
注意事項	各15回（大輪・有賀・阿部・加畑・木住野・河野・櫻澤・諏訪・高尾・高橋・辻・土屋・綱川・長島・横田）

科目名	教育社会学	単位数	2	実務経験	担当教員	のぶた　りな 信田　理奈
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	SOE2323	授業形態	講義			

授業の内容	AI や IoT による第四次産業革命が加速するなか、プログラミング学習などを取り入れた教育改革が進められようとしている。しかしその一方で、いじめ、不登校、引きこもり、ネット依存、ブラック校則、教育格差、ワンオペ育児、セクシュアリティなどの問題が後を絶たない。授業では、グローバル化や ICT により変動する社会との関係から教育事象を捉え、いかなる社会的要因が教育問題の発生や増減に影響しているかを考える。
到達目標	１．　現代の教育事象について社会学的視点から説明できる。 ２．　子どもを取り巻く環境と教育的課題について理解している。 ３．　保育や教育の現場で適用可能な社会学的思考力を身につけている。
学位授与方針	幼児教育学科（　　）地域保育学科（ 1,2,4 ）文化表現学科（　　）

授業計画					
	第１回	内容	ガイダンス、教育事象を捉える視角	予習	教育に関する最新の動きを調べる
				復習	教育社会学的思考とは何かを理解する
	第２回	内容	家族の機能と子どもの社会化	予習	子どものしつけの実態について調べる
				復習	家庭の教育力低下の要因について理解する
	第３回	内容	成育環境としての地域とコミュニティ	予習	地域の変容と子どもの遊びについて調べる
				復習	地域の教育力低下の要因について理解する
	第４回	内容	子どもの非行・逸脱・不適応① いじめ	予習	いじめ増加の背景に何があるかを調べる
				復習	いじめ問題の社会学的アプローチを理解する
	第５回	内容	子どもの非行・逸脱・不適応② 不登校	予習	不登校増加の背景に何があるかを調べる
				復習	不登校への対応についてノートにまとめる
	第６回	内容	子どもの非行・逸脱・不適応③ ブラック校則	予習	校則の教育的意義とは何かを考える
				復習	管理教育の動きと問題点について理解する
	第７回	内容	子ども・若者の貧困と居場所づくり	予習	子ども・若者にとって居場所とは何かを考える
				復習	子ども食堂の機能と課題について理解する
	第８回	内容	グローバリゼーションと教育格差① 途上国の子どもたち	予習	途上国の就学率と識字率について調べる
				復習	貧困による負の連鎖についてノートにまとめる
	第９回	内容	グローバリゼーションと教育格差② 先進国の子どもたち	予習	子どもの幸福度は何に影響されるかを考える
				復習	世帯収入と学力との関係について理解する
	第 10 回	内容	ICT と教育の情報化① プログラミング教育	予習	PISA に基づく学力観について調べる
				復習	ICT 教育推進の課題についてノートにまとめる
	第 11 回	内容	ICT と教育の情報化② スマホ育児、ネット依存	予習	ネット社会の負の側面について調べる
				復習	情報活用能力について理解する
	第 12 回	内容	教育・子育てとジェンダー① 隠れたカリキュラム	予習	隠れたカリキュラムの事例について調べる
				復習	ジェンダー秩序の再生産について理解する
	第 13 回	内容	教育・子育てとジェンダー② ワンオペ育児	予習	ワンオペ育児の背景と要因について調べる
				復習	ワーク・ライフ・バランスについて理解する
	第 14 回	内容	教育・子育てとジェンダー③ 人権としての LGBT 教育	予習	LGBT の子どもへの対応について考える
				復習	多様な性と人権について理解する
	第 15 回	内容	持続可能な社会と教育、多様性の尊重に向けて	予習	持続可能な開発目標（SDGs）について調べる
				復習	持続可能な社会と教育の役割を理解する
	予習に要する学習時間：概ね９０分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね９０分を目安とする。				

課題へのフィードバック	作成したレポートにコメントを付して返却する。
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　）する／（ ○ ）しない 成績評価の方法：レポート・課題（７０％）、授業態度（３０％）
教科書	なし
参考文献	『シリーズ現代の教職７　新しい時代の教育社会学』（加野芳正・越智康詞、ミネルヴァ書房） 『新版　教育の社会学』（苅谷剛彦・濱名陽子・木村涼子・酒井朗、有斐閣アルマ）
注意事項	日頃から教育に関する最新のニュースに目を通し、問題意識をもって授業に臨むこと。

科　目　名	教育方法・技術論	単 位 数	1	実務経験	担当教員	當麻（とうま）　祐子（ゆうこ）
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	EDU22203	授業形態	演習			

授　業　の 内　　容	幼児教育における教育方法と技術に関する基本的な事柄について学ぶ。 また、保育の実践やねらいなどを伝える色々な方法を学ぶ。 教材制作の技術と方法について学び、教材を作成して発表する。 情報機器を活用した教材も作成し、プレゼンテーションを行い、学び合う。
到 達 目 標	1. 幼児期の特性を理解し、具体的な教育方法について考察できる 2. 保育の実践や、そのねらいなどを適切に伝える方法を理解している 3. 教育目標に即した教材を、情報機器などを使って作成できる 4. 学生相互が発表する機会をもち、プレゼンテーション能力や聞く態度を身につけている
学位授与方針	幼児教育学科（　　）地域保育学科（①・②・⑤）文化表現学科（　　）

授 業 計 画

第１回	内容	オリエンテーション・教育方法とは何か	予習	シラバスを読んでおく
			復習	授業の進め方や習得すべきことを理解する
第２回	内容	幼児期の特性について	予習	幼児の発達を調べる
			復習	幼児期の生活や発達をまとめる
第３回	内容	幼児と環境について	予習	色々な環境を考える
			復習	幼児と環境の関係をまとめる
第４回	内容	幼児期の遊びについて	予習	自分の幼児期の遊びを思い出しておく
			復習	遊びの捉え方の変化を記録する
第５回	内容	子ども理解① ～ビデオから学ぶ（グループワーク）～	予習	自分が持つ子どもイメージを考える
			復習	学んだ後の子どもイメージをまとめる
第６回	内容	子ども理解② ～エピソードから学ぶ～	予習	子どもの行動に注目してみる
			復習	注目するポイントをまとめる
第７回	内容	ワーク～歌とペープサート制作～	予習	教材にしたい歌を選んでくる
			復習	次週までに完成しておく
第８回	内容	発表～ペープサートの発表と評価～	予習	発表に向けて練習しておく
			復習	自己と他者の評価をまとめる
第９回	内容	発表～子どもの育ちをどう伝えるか～	予習	保護者への伝達方法を考える
			復習	伝達方法の色々をまとめる
第 10 回	内容	プレゼンテーションソフトの活用① ～おたよりの作成～	予習	おたよりに必要な事項を調べる
			復習	おたより作成のポイントを整理する
第 11 回	内容	プレゼンテーションソフトの活用① ～発表資料の収集～	予習	発表したい教材内容を考える
			復習	情報収集のルールを確認する
第 12 回	内容	プレゼンテーションソフトの活用① ～発表に向けた制作～	予習	資料を集めておく
			復習	見直し、工夫する
第 13 回	内容	プレゼンテーションの技法① ～個人発表と意見交換①～	予習	発表の練習をしておく
			復習	自分なりに振り返り、まとめる
第 14 回	内容	プレゼンテーションの技法② ～個人発表と意見交換②～	予習	他学生のテーマを確認しておく
			復習	他学生から学んだことをまとめる
第 15 回	内容	プレゼンテーションの技法③ ～個人発表と意見交換③・まとめ～	予習	授業全体の振り返りをしておく
			復習	学んだことや自己課題を整理する

予習に要する学習時間：概ね２０分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね２５分を目安とする。

課題へのフィードバック	前回の課題を全体で振り返り、確認したり新たな気付きにつなげる
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　　）する／（ ○ ）しない 成績評価の方法：　筆記試験（２０％）、レポート・課題（４０％）、作品・発表（２０％）、実技（　　％）、授業態度（２０％）
教科書	オリジナルのパワポスライドを使用（適宜配布）
参考文献	「幼稚園教育要領 / 保育所保育指針 / 幼保連携型認定こども園教育・保育要領」（チャイルド本社）
注意事項	大切な幼児期の保育教育に携わる為の勉強であることを自覚して臨むこと。各自の進捗に応じて課題の制作を進めておくこと。

科　目　名	保育指導法Ⅰ	単 位 数	1	実務経験	担当教員	とうま　ゆうこ 當麻　祐子
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	EDU2321	授業形態	演習			

授　業　の 内　　容	保育・教育指導に必要な知識を学び、具体的な事例や保育教材研究等を通して実践的に学ぶ。 様々な保育・教育場面を想定し、実際に活動する幼児の姿等のビデオやグループワークなど交えながら学んでいく。
到 達 目 標	1. 子どもの姿を映したビデオを見て、子ども理解の課題に答えることが出来る 2. 提示されたエピソードに対し、学生同士で話し合い、色々な視点に気付くことが出来る 3. 指導要領を実際の保育教育とつなげて理解している 4. 幼児教育に携わることへの責任とやりがいを感じ取ることが出来る
学位授与方針	幼児教育学科（　　）地域保育学科（①・②・④）文化表現学科（　　）

授 業 計 画

第１回	内容	オリエンテーション・保育指導法とは何か	予習	シラバスを読んでおく
			復習	授業の進め方や習得すべきことを理解する
第２回	内容	子どもをとりまく現状と子ども理解	予習	子どもをとりまく現状を調べる
			復習	子どもを理解する為に必要なことをまとめる
第３回	内容	子ども理解～ビデオを通して （グループワーク）	予習	自分なりの子ども観をまとめておく
			復習	ビデオからの読み取りを整理する
第４回	内容	環境を通しての保育	予習	色々な環境を考えておく
			復習	環境を通して行う保育の意義をまとめる
第５回	内容	ふさわしい生活の展開	予習	幼児期にふさわしい生活とは何か考える
			復習	ふさわしい生活の展開をまとめる
第６回	内容	遊びを通しての保育	予習	自分なりの遊びのイメージを考える
			復習	幼児期の遊びとは何かまとめる
第７回	内容	子どもの遊び～ビデオを通して （グループワーク）	予習	子どもが遊んでいるのを観察する
			復習	子どもの遊びの読み取りを整理する
第８回	内容	発達の特性に応じた保育 ０歳から２歳までの発達と保育	予習	発達の特性とは何か調べる
			復習	発達の課題についてまとめる
第９回	内容	３歳児　１期～５期の保育	予習	３歳児の発達をおさえておく
			復習	３歳児の育ちと保育を整理する
第 10 回	内容	４歳児　１期～５期の保育	予習	４歳児の発達をおさえておく
			復習	４歳児の育ちと保育を整理する
第 11 回	内容	５歳児　１期～５期の保育	予習	５歳児の発達をおさえておく
			復習	５歳児の育ちと保育を整理する
第 12 回	内容	様々な保育形態	予習	保育形態の種類を調べる
			復習	それぞれの特徴をまとめる
第 13 回	内容	保育研究～自然	予習	身近な生き物や植物を観察する
			復習	自然と保育のかかわりをまとめる
第 14 回	内容	保育研究～音楽	予習	様々なジャンルの子どもの音楽を調べる
			復習	音楽の指導についてまとめる
第 15 回	内容	保育研究～運動	予習	運動の大切さについて考える
			復習	運動の指導についてまとめる

予習に要する学習時間：概ね２０分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね２５分を目安とする。

課題へのフィードバック	レポートや発表に対し、コメントを行う 前回の授業の振り返りを行う
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　　）する／（ ○ ）しない 成績評価の方法：　筆記試験（５０％）、レポート・課題（２０％）、作品・発表（１０％）、実技（　　％）、授業態度（２０％）
教科書	オリジナルのパワポスライドを使用（適宜配布）
参考文献	「幼稚園教育要領 / 保育所保育指針 / 幼保連携型認定こども園教育・保育要領」（チャイルド本社）
注意事項	人格の基礎を培う幼児期の保育教育に携わる為の勉強であることを自覚し臨むこと 授業へ取り組む姿勢を重視していく

科　目　名	保育指導法Ⅱ	単 位 数	1	実務経験	担当教員	當麻（とうま）　祐子（ゆうこ）
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	EDU2322	授業形態	演習			

授　業　の 内　　容	保育・教育指導に必要な知識を学び、具体的な事例や保育教材研究等を通して実践的に学ぶ。 様々な保育・教育場面を想定し、実際に活動する幼児の姿等のビデオやグループワークなど交えながら学んでいく。
到 達 目 標	1. 子どもの姿を映したビデオを見て、子ども理解の課題に答えることが出来る 2. 提示されたエピソードに対し、学生同士で話し合い、色々な視点に気付くことが出来る 3. 指導要領を実際の保育教育とつなげて理解している 4. 幼児教育に携わることへの責任とやりがいを感じ取ることが出来る
学位授与方針	幼児教育学科（　　）地域保育学科（①・②・④）文化表現学科（　　）

授 業 計 画

第１回	内容	様々な安全指導	予習	園内での危険について考える
			復習	安全対策についてまとめる
第２回	内容	教育課程と指導計画	予習	指導計画について調べる
			復習	指導計画と実践についてまとめる
第３回	内容	保育研究～絵本・紙芝居	予習	読み聞かせ用の絵本を選んでくる
			復習	指導計画の練り直しをする
第４回	内容	絵本読み聞かせ（発表）	予習	読み聞かせの練習をする
			復習	他学生から学んだことを整理する
第５回	内容	保育研究～造形	予習	色々な造形活動を調べる
			復習	発達と表現について整理する
第６回	内容	園行事について	予習	様々な園行事を調べる
			復習	園行事の捉え方をまとめる
第７回	内容	基本的生活習慣と規範意識	予習	生活習慣の現状を調べる
			復習	生活習慣の重要性をまとめる
第８回	内容	記録について	予習	記録の種類を調べる
			復習	実践と記録について整理する
第９回	内容	実践から学ぶ（グループワーク）	予習	実習での課題をまとめる
			復習	他学生から学んだことを整理する
第10回	内容	エピソードから学ぶ（発表）	予習	実習でのエピソードをまとめる
			復習	エピソードを新たな視点で整理する
第11回	内容	特別支援教育について	予習	発達障害について調べる
			復習	支援についてまとめる
第12回	内容	幼小連携について	予習	幼小連携の必要性を考える
			復習	必要性や注意点などをまとめる
第13回	内容	地域との連携・保護者とのかかわり	予習	地域との連携について考える
			復習	必要性や注意点などをまとめる
第14回	内容	３つの柱と１０の姿	予習	生きる力の基礎について調べる
			復習	幼児期の教育の重要性をまとめる
第15回	内容	保育者の専門性・まとめ	予習	保育者の心構えを考える
			復習	幼児期の教育・保育者の役割についてまとめる

予習に要する学習時間：概ね２０分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね２５分を目安とする。

課題へのフィードバック	レポートや発表に対し、コメントを行う 前回の授業の振り返りを行う
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　　）する／（ ○ ）しない 成績評価の方法：　筆記試験（５０％）、レポート・課題（２０％）、作品・発表（１０％）、実技（　　％）、授業態度（２０％）
教科書	オリジナルのパワポスライドを使用（適宜配布）
参考文献	「幼稚園教育要領 / 保育所保育指針 / 幼保連携型認定こども園教育・保育要領」（チャイルド本社）
注意事項	人格の基礎を培う幼児期の保育教育に携わる為の勉強であることを自覚し臨むこと 授業へ取り組む姿勢を重視していく

科　目　名	総合演習Ⅰ	単位数	2	実務経験	担当教員	はしもとようこ　ほしのおさむ　しみずすみこ 橋 本洋子・星野 治 ・清水澄子
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	CHS2325	授業形態	演習			

授業の内容	少子社会が進む中様々な対策がなされているが、子どもが安心して育つ環境が充分に整えられているとはいえない。そこで、本演習では、３グループに分かれて子どもを取り巻く実状を様々な視点から捉え、理解し、視野を広げるとともに、保育者として適切な対応ができる保育力を養う。また、次年度に開講される総合演習Ⅱ（卒業研究）のテーマや作業方針を決めるためのヒントを習得する。
到達目標	１．文献検索や発表を通して、保育者として必要な知識･情報を得るための適切な手段を身につけている。 ２．弱者を守ることの意味を考えながら、防災に対する知識を習得している。 ３．　社会問題をはじめ保育に関係する様々な問題に向き合い、保育者として考える力を身につけている。
学位授与方針	幼児教育学科（　　）地域保育学科（　①・②・3・④・⑤　）文化表現学科（　　）

授業計画

第１回	内容	合同授業 ガイダンス：本演習のねらい、進め方			予習	シラバスに目を通し授業形態を理解する
					復習	配布資料の内容を確認し理解しておく
第２回	内容	橋本① 健康の意義を考える ビデオ「病の起源」	星野①	清水①	予習	自身の生活を振り返り「健康」について考える
					復習	ビデオからの学びをレポートにまとめる
第３回	内容	橋本② 子どもの健康・食生活の現状 論文の検索、研究テーマの選択	星野②	清水②	予習	子どもの健康に関連する情報を収集する
					復習	研究テーマを決定する
第４回	内容	橋本③ 論文・資料の読み方 文献調査(1)	星野③	清水③	予習	収取した論文、資料を精読する
					復習	収取した論文、資料をまとめる
第５回	内容	橋本④ 文献調査(2)発表準備・ スライド作成	星野④	清水④	予習	図書館で研究テーマに必要な資料を探す
					復習	研究発表に必要な資料を整理する
第６回	内容	橋本⑤ 文献調査(3)発表レジュメの提出	星野⑤	清水⑤	予習	研究発表の内容をまとめる
					復習	研究発表の準備①レジュメを作成し提出する
第７回	内容	橋本⑥ 研究発表(1)	星野⑥	清水⑥	予習	研究発表の準備②作成したスライドを確認する
					復習	発表者の内容をまとめる
第８回	内容	橋本⑦ 研究発表(2)	星野⑦	清水⑦	予習	発表予定学生のレジュメを確認する
					復習	発表者の内容をまとめ、整理する
第９回	内容	橋本⑧ 研究発表(3) まとめ	星野⑧	清水⑧	予習	発表予定学生のレジュを確認する 既発表者の評価をまとめる
					復習	研究方法・発表を振り返り、自己評価する
第10回	内容	合同授業 学外授業のオリエンテーション			予習	各教員の指示に従い準備する
					復習	学外授業の意義と目的を理解する
第11回	内容	合同授業 学外授業			予習	学外授業配布資料を確認する
					復習	レポートにまとめる
第12回	内容	星野① 防災の基礎知識	清水①	橋本①	予習	シラバスを読んでおく
					復習	配布資料の内容を理解する
第13回	内容	星野② 文芸作品と防災(1)	清水②	橋本②	予習	防災県連の文字作品を選択する
					復習	作品のあらすじをまとめる
第14回	内容	星野③ 文芸作品と防災(2)	清水③	橋本③	予習	前回選択した作品を精読する
					復習	作品に対する鑑賞文を作成する
第15回	内容	星野④ 保育と防災	清水④	橋本④	予習	必要な参考書を通読しておく
					復習	保育と防災の関連をまとめる
第16回	内容	星野⑤ 文芸作品と防災(3)	清水⑤	橋本⑤	予習	防災関連の映像作品を選択する
					復習	作品の概要を整理する
第17回	内容	星野⑥ 文芸作品と防災(4)	清水⑥	橋本⑥	予習	前回選択した作品を上映する
					復習	作品に対する感想文を作成する
第18回	内容	星野⑦ 防災関連の最新情報	清水⑦	橋本⑦	予習	作業内容を予め確認する
					復習	ネットサーフィンを行う
第19回	内容	星野⑧ 演習まとめ	清水⑧	橋本⑧	予習	これまでの予習内容を振り返る
					復習	防災に関する見解をまとめる
第20回	内容	清水０１ 少子化を考える　原因・現状・対策	橋本①	星野①	予習	少子化問題を考えてみる
					復習	将来の日本について少子化の視点から考える

	第 21 回	内容	清水② 変わる日本の家庭・親子関係	**橋本②**	**星野②**	予習	家庭って何だろう、自分への影響を考える
						復習	自分の問題としてもう一度考えてみる
	第 22 回	内容	清水③ 子どもへの虐待問題　その変遷と対策	**橋本③**	**星野③**	予習	インターネットで児童虐待事件を読んでみる
						復習	保育士として「できること」を考えてみる
	第 23 回	内容	清水④ 子どもの貧困問題　現状と影響と対策	**橋本④**	**星野④**	予習	子ども食堂について調べてみる
						復習	社会は、自分は何ができるのかを考える
	第 24 回	内容	清水⑤ 様々な職業と日本人の賃金について	**橋本⑤**	**星野⑤**	予習	自分のアルバイトの賃金を考えてみる
						復習	就職コーナーに足を運んで求人票をみてみる
	第 25 回	内容	清水⑥ 日本の税金 どこから集めて何に使っているのか	**橋本⑥**	**星野⑥**	予習	所沢市の税金の歳入・歳出をみておく
						復習	自分なら何に使うかを考えてみる
	第 26 回	内容	清水⑦ 様々な絵本や児童文学が伝えたいこと	**橋本⑦**	**星野⑦**	予習	日ごろから「子ども向きの本」を読んでおく。
						復習	自分が著したい絵本や児童文学を考えてみる。
	第 27 回	内容	清水⑧ 世界の子どもたちは何を考え どう生きているのか	橋本⑧	**星野⑧**	予習	ネットで好きな国の子どもについて調べる。
						復習	「幸福って何？」というテーマで考えてみる。
	第 28 回	内容	合同授業 総合演習Ⅱ（卒業研究・ゼミ）への準備			予習	研究内容を振り返り次年度の研究テーマを考える
						復習	次年度のゼミの研究テーマを絞る
	第 29 回	内容	合同授業 女子教育を考える（ビデオ）			予習	女性が働く社会（環境）について調べる
						復習	女性の社会進出について考えレポートにまとめる
	第 30 回	内容	合同授業・まとめ 保育者としての心構え(ビデオ「みんなの夢まもるため」)			予習	１年間の学びを振り返る
						復習	保育者となる責任と自覚についてまとめる
	予習に要する学習時間：概ね３０分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね３０分を目安とする。						

課題へのフィードバック	**発表後（または授業終了時）の振り返りシートで課題を確認し、返却する。**
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　）する／（〇）しない 成績評価の方法：　レポート・課題（４０％）、発表（４０％）、授業態度（２０％）
教科書	必要に応じて随時紹介する
参考文献	必要に応じて随時紹介する
注意事項	この演習は、ＡおよびＢクラスを３グループに分け、グループ毎に演習８回を１ラウンドとするオムニバス形式が中心となる。詳細は初回の合同授業（オリエンテーション）で説明する。ラウンド毎に研究発表を行うため、各ラウンドの担当教員の指導・指示に従うこと。ラウンド（８回）毎に２/３以上の出席が必要となるので注意すること。校外学習を実施する。詳細については授業内で説明する。 （橋本 30・星野 30・清水 30）

科　目　名	児童館・放課後児童クラブの機能と運営	単 位 数	2	実務経験	担当教員	あきやま　ひろこ 秋山　展子
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	EDU22203	授業形態	講義			

授　業　の　内　容	児童館は、子どもに健全な遊びを与えてその健康を増進し、情操を豊かにすることを目的とする児童福祉法による児童厚生施設である。そして、放課後児童クラブは、同法に基づき小学生のうち、保護者が昼間家庭にいないものに、適切な遊び及び生活の場を与え、健全な育成を図る事業である。授業では、児童館・放課後児童クラブの歴史、目的、役割、利用状況、現状・課題を学んでいく。
到 達 目 標	1．児童館・放課後児童クラブの機能や地域における役割を理解している。 2．児童館・放課後児童クラブにおける子育て支援や児童の健全育成を理解している。 3．児童館が小学生及び中・高生の居場所づくりなど、地域の核となる児童福祉施設として重要な役割を担っていることを理解している。
学位授与方針	幼児教育学科（　　）地域保育学科（　1　）文化表現学科（　　）

授 業 計 画

第１回	内容	児童厚生員とその資格の説明	予習	シラバスを読んでおく
			復習	この科目で習得すべき内容を理解する
第２回	内容	児童館・放課後児童クラブの説明	予習	教科書「児童館の概要」の章を読んでおく
			復習	プリントを中心に児童館の概要をまとめる
第３回	内容	現代の子どもたちの遊び環境	予習	教科書「児童館の施設特性」の章を読んでおく
			復習	プリントを中心に遊び環境についてまとめる
第４回	内容	法的根拠・事業目的	予習	教科書「事業目的」の章を読んでおく
			復習	プリントを中心に事業目的についてまとめる
第５回	内容	児童館・放課後児童クラブの種別及び機能	予習	教科書「施設規模別特徴」の章を読んでおく
			復習	プリントを中心に種別と機能をまとめる
第６回	内容	小型児童館・児童センター・大型児童館の設置及び運営	予習	教科書「施設特性」の章を読んでおく
			復習	プリントを中心に施設特性についてまとめる
第７回	内容	児童館ガイドライン	予習	教科書「ガイドライン」の章を読んでおく
			復習	プリントを中心にガイドラインを整理する
第８回	内容	職員の役割	予習	教科書「児童厚生員の役割」の章を読んでおく
			復習	プリントを中心に職員の役割についてまとめる
第９回	内容	放課後児童健全育成事業の概要と実態	予習	教科書「放課後児童クラブ」の章を読んでおく
			復習	プリントを中心に児童クラブについてまとめる
第 10 回	内容	放課後児童クラブの現状と課題	予習	教科書「クラブの現状」の章を読んでおく
			復習	プリントを中心に現状と課題についてまとめる
第 11 回	内容	小学生・中学生・高校生の対応	予習	教科書「児童館の機能」の章を読んでおく
			復習	プリントを中心に中高生対応の内容をまとめる
第 12 回	内容	児童館の活動内容と事例	予習	教科書「児童館プログラム」の章を読んでおく
			復習	プリントを中心に活動内容をまとめる
第 13 回	内容	放課後児童クラブの活動内容と事例	予習	教科書「実践事例」の章を読んでおく
			復習	プリントを中心に事例から学んだことをまとめる
第 14 回	内容	子育て支援	予習	教科書「子育て支援」の章を読んでおく
			復習	プリントを中心に子育て支援の内容をまとめる
第 15 回	内容	これまでのまとめ	予習	教科書・プリントの内容を整理する
			復習	学習内容をまとめて、学習成果を振り返る

予習に要する学習時間：概ね 90 分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね 90 分を目安とする。

課題へのフィードバック	・小テストを行い、試験後に解答を示し、解説をおこなう。 ・提出物等について確認を行う。
成績評価	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（○）しない 成績評価の方法：　筆記試験（５０％）、課題（２０％）、授業態度（３０％）※講義の中で必要に応じて小テストをおこなう。
教科書	『児童館論』（一般財団法人　児童健全育成推進財団）
参考文献	なし
注意事項	児童館実習参加者は必修となる。

科　目　名	児童館・放課後児童クラブの活動内容と指導法	単 位 数	2	実務経験	担当教員	井垣　利朗（いがき　としろう）
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	EDU22105	授業形態	講義			

授業の内容	児童ソーシャルワークをベースとした児童館・放課後児童クラブの活動概要、行事の企画立案法、利用者への対応、地域とのかかわり等、児童館・放課後児童クラブの業務の実際を理解する。授業の中で児童館活動事例の映像と子どもの遊びを紹介し、実践的な指導スキルが身につくことを目的とする。
到達目標	1．児童館・放課後児童クラブの機能と役割、活動の概要を提示することができる。 2．地域の子育て支援のエキスパートとして、児童のソーシャルワークスキルを身につけている。 3．子育て支援法、ボランティアの育成法等の実施方法を身につけている。 4．現場における実践可能なプログラムの企画立案ができる。
学位授与方針	幼児教育学科（　　）地域保育学科（　２，４　）文化表現学科（　　）

授業計画

第１回	内容	オリエンテーション（児童館・放課後児童クラブの一日、年間の流れ）	予習	シラバスを読む。
			復習	児童館の一日について理解をする。
第２回	内容	児童館の概要（児童館の歴史と設置目的、法的根拠、児童館ガイドライン等）	予習	児童館ガイドラインの第１章を読む。
			復習	児童館の機能と役割を理解し整理する。
第３回	内容	子どもの発達と遊びの支援の実際（グループワーク）	予習	小学生の好きな遊びを調査する。
			復習	子どもの発達と遊びについてまとめる。
第４回	内容	子どもの遊びを通した健全育成（実技）	予習	子どもの現状を表すキーワードを調査する。
			復習	子どもの遊びの効用を理解する。
第５回	内容	子どもの居場所づくりと保護者への子育て拠点事業	予習	児童館の活動についてレポートを作成する。
			復習	居場所づくりの必要性について考える。
第６回	内容	ボランティアの育成と地域連携	予習	ボランティア体験の感想を整理する。
			復習	ボランティアと地域連携の必要性を理解する。
第７回	内容	放課後児童クラブの概要（法的根拠、活動内容、育成支援の内容、放課後児童クラブ運営指針等）	予習	放課後児童クラブのレポートを作成する。
			復習	放課後児童クラブ運営指針を読む。
第８回	内容	子育ち子育て支援を行う乳幼児活動（実技）	予習	児童館の乳幼児活動の事例を調査する。
			復習	子育て支援における配慮する点を理解する。
第９回	内容	体験・自己実現を目指す小学生活動（仲間づくり、支援法）	予習	児童館の小学生活動の事例を調査する。
			復習	小学生活動の配慮する点を理解する。
第 10 回	内容	地域社会と結びつける中高生活動（地域連携、子どもの意見を取り入れた活動）	予習	児童館の中高生活動の事例を調査する。
			復習	中高生活動の配慮する点を理解する。
第 11 回	内容	子どものニーズに基づいた行事やイベントの企画立案（グループワーク）	予習	イベント企画立案の課題を作成する。
			復習	イベント企画立案の手法を整理する。
第 12 回	内容	グループ企画発表会と講評（発表）	予習	グループ企画発表の事前準備をする。
			復習	イベント企画の留意点を理解する。
第 13 回	内容	児童厚生員の職務と子どもの接し方（実技）	予習	児童館ガイドライン第５章を読む。
			復習	児童厚生員の職務を理解する。
第 14 回	内容	児童館・放課後児童クラブの運営（倫理、安全管理、防犯防災対策等）	予習	子どもの安全管理について考える。
			復習	児童館の運営について理解する。
第 15 回	内容	まとめ（児童館・放課後児童クラブに求められる社会的課題）	予習	児童館の必要性のレポートを作成する。
			復習	児童館の社会的課題と必要性を整理する。

予習に要する学習時間：概ね１００分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね９０分を目安とする。

課題へのフィードバック	作成したレポートにコメントを行う。
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　）する／（○）しない 成績評価の方法：レポート・課題（１５％）、作品・発表（１５％）、実技（１５％）、授業態度（５５％）
教科書	「なし」毎回、資料を配布する。
参考文献	『児童館論』（一般財団法人　児童健全育成推進財団）、『健全育成論』（一般財団法人　児童健全育成推進財団）
注意事項	課題は、期限を厳守すること。欠席回数が、全授業の３分の１を超えた場合は評価の対象外となる。

科　目　名	児童文化（感受性開発を含む）	単 位 数	2	実務経験	担当教員	はまな　なな 浜名　那奈
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	CHS22111	授業形態	演習			

授　業　の　内　容	子どもの文化は、しあわせな子ども時代を実現できる学問であることを理解する。児童文化財（わらべうた、手遊び、絵本、おはなし、紙芝居、パネルシアター、エプロンシアター、おもちゃ等）全般に亘って、知識を深める。保育士、保護者、子どもが、相互に交流できる楽しいコミュニケーションの仕方を学ぶ。
到 達 目 標	1. 子どもの文化（手遊び、わらべ歌、絵本、パネルシアター等）の知識を習得することができる。 2. 文化財の表現の仕方と実技力を習得することができる。 3. 楽しみながら、制作、実演し、自らの感性を高めることができる。
学位授与方針	幼児教育学科　（　　）地域保育学科（１・２・３・４）文化表現学科（　　）

授 業 計 画					
	第１回	内容	児童文化の概念の成立と変遷	予習	シラバスを読んでおく。
				復習	この科目で習得すべき内容を理解する。
	第２回	内容	子ども観の歴史	予習	子ども観とは何かを調べる。
				復習	子ども観の歴史をまとめる。
	第３回	内容	子どもの文化財の背景と特色１：わらべ歌・手遊び	予習	わらべ歌、手遊びについて調べる。
				復習	わらべ歌、手遊びについてまとめる。
	第４回	内容	子どもの文化財のグループ演習①：わらべ歌・手遊び　（アクティブ・ラーニング）	予習	わらべ歌、手遊びを習得する。
				復習	わらべ歌、手遊びについて復習する。
	第５回	内容	子どもの文化財のグループ演習②：わらべ歌・手遊び　（アクティブ・ラーニング）	予習	わらべ歌、手遊びを習得する。
				復習	わらべ歌、手遊びについて復習する。
	第６回	内容	子どもの文化財の背景と特色２：手袋人形	予習	手袋人形と子どもの発達について調べる。
				復習	手袋人形と子どもの発達についてまとめる。
	第７回	内容	子どもの文化財のグループ演習①：ミトンぐまを作る。	予習	製作の準備をする。
				復習	製作手順を理解する。
	第８回	内容	子どもの文化財のグループ演習②：ミトンぐまを演じる。	予習	製作手順を整理しておく。
				復習	演じる手順をまとめる。
	第９回	内容	子どもの文化財の背景と特色３：絵本の歴史	予習	絵本の歴史を調べる。
				復習	絵本の歴史をまとめる。
	第10回	内容	子どもの文化財の背景と特色４：絵本とは何か？	予習	絵本とは何かを調べる。
				復習	絵本とは何かをまとめる。
	第11回	内容	子どもの文化財の背景と特色５：絵本の特色	予習	絵本の特色を調べる。
				復習	絵本の特色をまとめる。
	第12回	内容	子どもの文化財のグループ演習①：絵本を読む　（アクティブ・ラーニング）	予習	絵本を多読し、選ぶ。
				復習	絵本と読み方をまとめる。
	第13回	内容	子どもの文化財のグループ演習②：絵本の読み方　（アクティブ・ラーニング）	予習	絵本を多読し、選ぶ。
				復習	絵本と読み方をまとめる。
	第14回	内容	発表　絵本の読み聞かせ実践①　（アクティブ・ラーニング）	予習	発表する絵本を読んで練習する。
				復習	発表の振り返りをする。
	第15回	内容	発表　絵本の読み聞かせ実践②　（アクティブ・ラーニング）	予習	発表する絵本を読んで練習する。
				復習	発表の振り返りをする。
	第16回	内容	手作りおもちゃ制作①　デザインを考える。	予習	手作りおもちゃ製作の準備をする。
				復習	手作りおもちゃ製作手順を整理する。
	第17回	内容	手作りおもちゃ制作②　制作する。	予習	手作りおもちゃ製作の手順を理解する。
				復習	材料の準備をする。
	第18回	内容	グループ発表：夏祭り　（アクティブ・ラーニング）	予習	指導の手順を理解する。
				復習	指導の振り返りをする。
	第19回	内容	子どもの文化財のグループ演習①：季節の行事・遊び	予習	日本の季節の行事、遊びを調べる。
				復習	日本の季節の行事、遊びをまとめる。
	第20回	内容	子どもの文化財の背景と特色７：パネルシアターとは何か？	予習	パネルシアターと何かを調べる。
				復習	パネルシアターと何かをまとめる。

授業計画	第21回	内容	パネルシアター制作①： 型紙をとる。　デザインをする。	予習	パネルシアター製作の準備をする。
				復習	パネルシアター製作の手順を整理する。
	第22回	内容	パネルシアター又はエプロンシアター制作②　：Pペーパーに型どりする。パーツを作成する。	予習	パネルシアター製作を理解する。
				復習	パネルシアター製作を振り返る。
	第23回	内容	パネルシアター又はエプロンシアター制作③：色を塗る。　エプロンの仕掛けを作成する。	予習	パネルシアター製作を理解する。
				復習	パネルシアター製作の見直しをする。
	第24回	内容	パネルシアター又はエプロンシアター制作④　脚本を作成する。	予習	演じ方作成する。
				復習	演じ方をまとめる。
	第25回	内容	パネルシアター又はエプロンシアター制作⑤ 各自リハーサルを行う。	予習	リハーサルの準備をする。
				復習	リハーサルの振り返りを行う。
	第26回	内容	発表　発表の仕方を学ぶ。(アクティブ・ラーニング)	予習	発表の準備をする。
				復習	発表全般を振り返る。
	第27回	内容	発表　発表する。(アクティブ・ラーニング)	予習	発表の準備をする。
				復習	発表全般を振り返る。
	第28回	内容	発表　発表を振り返る。(アクティブ・ラーニング)	予習	発表の準備をする。
				復習	発表全般を振り返る。
	第29回	内容	発表　質疑応答。	予習	パネルシアター全般を整理する。
				復習	発表全般をまとめる。
	第30回	内容	まとめ	予習	児童文化の知識、方法等を整理する。
				復習	児童文化の知識、方法等をまとめる。
	予習に要する学習時間：概ね　15　分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね　30　分を目安とする。				
課題へのフィードバック	発表後に、各自振り返りシートに記入する。クラスにて発表内容の振り返りを行う。				
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　）する／（　○　）しない 成績評価の方法：　筆記試験（　%)、レポート・課題（　60　%)、作品・発表（　30　%)、実技（　%)、授業態度（10　%）				
教科書	『書店』(著者名、出版社名) 『絵本から学ぶ子どもの文化』(浅木尚実編著、同文書院)				
参考文献	『書店』(著者名、出版社名) その都度紹介する。				
注意事項	児童文化に関する講義と演習をテーマごとに交互に行うため、準備、復習を行うこと。 制作に必要な材料を準備すること。ミトンぐまキット代1000円、及びPペーパー代1000円の準備。 各自、発表の準備を行うこと。				

科　目　名	地域活動Ⅰ	単 位 数	2	実務経験	担当教員	きたの　いとう　ほしの 北野・伊藤・星野
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	SWS22105	授業形態	演習			

授業の内容	1．　なぜ、ボランティア活動が必要なのか、日本に於けるボランティアの歴史及びボランティア活動を実施するうえでの注意点について学ぶ。 2．　これらの講義のあと、2，3人のグループに分かれ、それぞれがボランティア実施計画を作成し、他の学生の前で発表し質疑応答をする。 3．　質疑応答をもとにボランティア実施計画を修正完成させる。 4．　次年度の『地域活動Ⅱ』への参加に向けた心構えを整える。
到達目標	1．　ボランティア活動について、その必要性を身に着け、かつ他者に説明できる。 2．　自らの考えを他者に説明し理解させる技術を身に着けている。 3．　ボランティア活動依頼事業体の関係者とのホウレンソウ（報告・連絡・相談）を支障なく行える。 4．　次年度の『地域活動Ⅰ』の履修者に対して、自分自身の活動経験に基いたアドバイスを行うことができる。
学位授与方針	幼児教育学科（　　）地域保育学科（　2、3、5　　）文化表現学科（　　）

授業計画

第1回	内容	前期授業ガイダンス／ボランティア概論（1/7）： 『現在および将来の日本を知る[1/3]』	予習	日ごろから新聞を丹念に読み、社会の動きなど問題意識を養うこと。
			復習	授業で学んだ内容について、よく理解できなかった点をノートに記述し、次回の授業で質問をする。
第2回	内容	ボランティア概論（2/7）： 『現在および将来の日本を知る[2/3]』	予習	配布資料の内容を理解しておく。
			復習	授業で学んだ内容について、よく理解できなかった点をノートに記述し、次回の授業で質問をする。
第3回	内容	ボランティア概論（3/7）： 『現在および将来の日本を知る[3/3]』	予習	配布資料の内容を理解しておく。
			復習	授業で学んだ内容について、よく理解できなかった点をノートに記述し、次回の授業で質問をする。
第4回	内容	ボランティア概論（4/7）： 『ボランティアの歴史』	予習	配布資料の内容を理解しておく。
			復習	授業で学んだ内容について、よく理解できなかった点をノートに記述し、次回の授業で質問をする。
第5回	内容	ボランティア概論（5/7）： 『ボランティア活動の基礎』／『高齢者ボランティア論』	予習	配布資料の内容を理解しておく。
			復習	授業で学んだ内容について、よく理解できなかった点をノートに記述し、次回の授業で質問をする。
第6回	内容	ボランティア概論（6/7）： 『障碍者ボランティア論』	予習	配布資料の内容を理解しておく。
			復習	授業で学んだ内容について、よく理解できなかった点をノートに記述し、次回の授業で質問をする。
第7回	内容	ボランティア概論（7/7）： 『環境・災害ボランティア論』	予習	配布資料の内容を理解しておく。
			復習	授業で学んだ内容について、よく理解できなかった点をノートに記述し、次回の授業で質問をする。
第8回	内容	課題の作成（1） 主要キーワードに関する簡単な調査	予習	必要に応じてネットサーフィン等を実施する。
			復習	各キーワードとボランティアとの関連を理解する。
第9回	内容	課題の作成（2） 「ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ」・「ｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ」・「ｱﾙﾊﾞｲﾄ」の各々の相違点	予習	必要に応じてネットサーフィンを実施し、自分自身の体験も参考にする。
			復習	「ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ」と後二者との相違点を確認する。
第10回	内容	課題の作成（3） 小論文①『今後のﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ活動に際して大切にしたいこと』	予習	自分自身のボランティア体験があれば適宜参照する。
			復習	今後参加する予定のボランティア活動に向けての目標を再確認する。
第11回	内容	小論文①の口頭発表（1/3）	予習	自身の作成した課題内容を振り返っておく。
			復習	授業参加者からの講評やコメントをもとに課題内容を再整理する。
第12回	内容	小論文①の口頭発表（2/3）	予習	自身の作成した課題内容を振り返っておく。
			復習	授業参加者からの講評やコメントをもとに課題内容を再整理する。
第13回	内容	小論文①の口頭発表（3/3）	予習	自身の作成した課題内容を振り返っておく。
			復習	授業参加者からの講評やコメントをもとに課題内容を再整理する。
第14回	内容	過去のボランティア事例からの学び ボランティア経験者による体験報告、その他	予習	配布された資料等に目を通しておく。
			復習	近い将来の参加に向けた心構えを整える。
第15回	内容	課題の作成（4） 小論文②『感染症防止体制下におけるﾎﾞﾗﾝﾃｨｱのありかた』	予習	現今の感染症防止対策について、ネットサーフィン等を行って調べておく。
			復習	自分自身のボランティア参加のありかたを想定しておく。
第16回	内容	後期授業ガイダンス／ボランティア実施計画の作成 ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ先選択の理由、目的、作業内容及び事前準備など	予習	これまでの授業内容全般を復習しておく。
			復習	作成した実施計画を読み直し、必要な加筆修正を行う。

第 17 回	内容	ボランティア実施計画の発表（1/3） 発表内容について他のグループとの質疑	予習	決められた時間内で発表できるよう練習をすること。・
			復習	他のグループからの意見をもとに計画の修正をする。
第 18 回	内容	ボランティア実施計画の発表（2/3） 発表内容について他のグループとの質疑	予習	決められた時間内で発表できるよう練習をすること。・
			復習	他のグループからの意見をもとに計画の修正をする。
第 19 回	内容	ボランティア実施計画の発表（3/3） 発表内容について他のグループとの質疑	予習	決められた時間内で発表できるよう練習をすること。・
			復習	他のグループからの意見をもとに計画の修正をする。
第 20 回	内容	大規模ボランティア活動のための事前指導（1）	予習	大規模ボランティア［所沢市民フェスティバル（予定)］について概要を調べておく。
			復習	配布資料等を通して当日の各自の役割を確認する。
第 21 回	内容	大規模ボランティア活動への参加（1）: 所沢市民フェスティバル（予定）など	予習	配布資料等を通してイベント当日の各自の役割を再度確認し、必要な準備を行う。
			復習	イベント当日の各自の活動内容を記録する。
第 22 回	内容	大規模ボランティア活動に係る事後指導（1）	予習	イベント当日の各自の活動内容を振り返る。
			復習	各自の活動報告を作成する。
第 23 回	内容	駅ボランティア体験講習会（学内にて実施予定）	予習	配布された資料等に目を通して活動内容の概要を把握しておく。
			復習	当日の活動報告を作成する。
第 24 回	内容	大規模ボランティア活動のための事前指導（2）	予習	大規模ボランティア［所沢市民フェスティバル（予定)］について概要を調べておく。
			復習	配布資料等を通して当日の各自の役割を確認する。
第 25 回	内容	大規模ボランティア活動への参加（2）: サンタをさがせ！（予定）など	予習	配布資料等を通してイベント当日の各自の役割を再度確認し、必要な準備を行う。
			復習	イベント当日の各自の活動内容を記録する。
第 26 回	内容	大規模ボランティア活動に係る事後指導（2）	予習	イベント当日の各自の活動内容を振り返る。
			復習	各自の活動報告を作成する。
第 27 回	内容	ボランティア活動に係るまとめ（1/3）: 活動報告レポートの作成	予習	今年度全般の活動内容を振り返る。
			復習	今年度全般の各自の活動報告を作成する。
第 28 回	内容	ボランティア活動に係るまとめ（2/3）: 活動報告の発表[1/2]	予習	決められた時間内で発表できるよう練習をすること。・
			復習	他のグループからの発表をもとに必要な修正をする。
第 29 回	内容	ボランティア活動に係るまとめ（3/3）: 活動報告の発表[2/2]	予習	決められた時間内で発表できるよう練習をすること。・
			復習	他のグループからの発表をもとに必要な修正をする。
第 30 回	内容	全体のまとめ： 次年度『地域活動Ⅱ』に向けての準備と心構え	予習	今年度全般の各自のボランティア活動の内容を振り返る。
			復習	次年度の各自のボランティア活動へ向けた心構えを確認する。
予習に要する学習時間：概ね 45 分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね 45 分を目安とする。				

課題へのフィードバック	小テストを実施するときは次週に返却し、正解を説明する。
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　）する／（〇）しない 成績評価の方法：　レポート・課題（７０％)、授業態度（３０％）
教科書	必要に応じて随時紹介する。
参考文献	「これからの日本の人口と社会」(白波瀬佐和子、東京大学出版会)、その他必要に応じて随時紹介する。
注意事項	この科目は、地域保育学科の必修科目である。 ボランティア活動の実施および内容については、諸事情により変更される場合がある。 ボランティア活動の参加に当たっては、ボランティア活動依頼事業体関係者とのホウレンソウ（報告・連絡・相談）に留意すること。

0 科 目 名	地域活動Ⅱ	単 位 数	2	実務経験	担当教員	きたの　いとう　ほしの 北野・伊藤・星野
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	SWS22214	授業形態	演習			

授業の内容	「地域活動Ⅱ」は「地域活動Ⅰ」での学びと実践を基礎にして第2年次に行う。具体的には、受講生自らが本学のある所沢市と狭山市の公的イベントや各児童館等に活動場所を選定し、一定期間継続して活動を行うことを中心とする。「地域活動Ⅰ」経験のまとめと反省、そして、活動での学び、内容学習、企画、グループディスカッションを通して地域貢献についての経験と理解を深化させて今後の糧となるようにする。 ※新型コロナウイルス感染拡大の状況により本演習内容等は変更されることがある。
到達目標	1.「地域のニーズにあった支援をする」保育者を目指し、地域の子育ての実態を理解する。 2. 地域の子育てのニーズを学ぶ。 3. 活動に関わる、あるいは参加する大人との交流による経験と学びを積むことができる。 4. 活動を通して、課題を発見し考察を行える力の養成。
学位授与方針	幼児教育学科（　　）地域保育学科（　2,3,5　　）文化表現学科（　　）

授業計画					
	第1回	内容	オリエンテーション	予習	ニュースや新聞を通して、社会の動きなど問題意識を養うこと。
				復習	授業内容を理解する。
	第2回	内容	課題(4/8 配布)1 についてまとめ解説と質疑応答	予習	課題1について理解しておく。
				復習	授業で学んだ内容について理解し、不明な点は次回の授業で質問をする。
	第3回	内容	課題(4/8 配布)2 についてまとめ解説と質疑応答	予習	課題2について理解しておく。
				復習	授業で学んだ内容について理解し、不明な点は次回の授業で質問をする。
	第4回	内容	課題(4/8 配布)続2についてまとめ解説と質疑応答	予習	課題3について理解しておく。
				復習	授業で学んだ内容について理解し、不明な点は次回の授業で質問をする。
	第5回	内容	活動先の長所と改善点等についてのディスカッション	予習	今回の授業テーマについて調べ、考えておく。
				復習	授業で学んだ内容について理解し、不明な点は次回の授業で質問をする。
	第6回	内容	個人発表の説明と準備	予習	今回の授業テーマについて理解し、考えをまとめておく。
				復習	授業で学んだ内容について理解し、自分の発表に生かすことを考える。
	第7回	内容	全受講生による個人発表とディスカッション1 (一人持ち時間は約10分)	予習	今回の授業テーマについて理解し、考えをまとめておく。
				復習	他者の発表で学んだ内容について理解し、自身の地域貢献に生かすことを考える。
	第8回	内容	全受講生による個人発表とディスカッション2	予習	今回の授業テーマについて理解し、考えをまとめておく。
				復習	他者の発表で学んだ内容について理解し、自身の地域貢献に生かすことを考える。
	第9回	内容	全受講生による個人発表とディスカッション3	予習	今回の授業テーマについて理解し、考えをまとめておく。
				復習	他者の発表で学んだ内容について理解し、自身の地域貢献に生かすことを考える。
	第10回	内容	活動先領域別グループ発表の導入とグループ分けと討議	予習	今回の授業テーマについて理解し、考えをまとめておく。
				復習	授業内容の理解を図り、グループ内での他者との協力関係を育む。
	第11回	内容	グループ発表準備作業	予習	今回の授業テーマについて理解し、考えをまとめておく。
				復習	授業内容の理解を図り、グループ内での他者との協力関係を育む。
	第12回	内容	グループ発表1とディスカッション	予習	今回の授業テーマについて理解し、考えをまとめておく。
				復習	他者の発表で学んだ内容について理解し、自身の地域貢献に生かすことを考える。
	第13回	内容	グループ発表2とディスカッション	予習	今回の授業テーマについて理解し、考えをまとめておく。
				復習	他者の発表で学んだ内容について理解し、自身の地域貢献に生かすことを考える。
	第14回	内容	グループ発表3とディスカッション	予習	今回の授業テーマについて理解し、考えをまとめておく。
				復習	他者の発表で学んだ内容について理解し、自身の地域貢献に生かすことを考える。
	第15回	内容	まとめと課題出題 (感染症防止体制下におけるﾎﾞﾗﾝﾃｨｱのありかた)	予習	前期で学んだことを復習しておく。
				復習	新たな学びを理解し、課題作成についての計画を練る(文献探索等)。
	第16回	内容	[後期開始] オリエンテーション	予習	前期の復習と課題提出準備。
				復習	授業内容を理解しておく。
	第17回	内容	事前指導①(提出書類の書き方や活動先調べの方法等)	予習	活動先の種類、内容等について事前に調べ理解しておく。

				復習	授業内容をしっかり理解する。
	第 18 回	内容	先輩による体験報告会①(内容、学び、反省点等と質疑応答)	予習	講演者の活動についての事前調べ。
				復習	学びの整理とレポート作成。
	第 19 回	内容	先輩による体験報告会②(内容、学び、反省点等と質疑応答)	予習	先輩の活動先の事前調べ。
				復習	学びの整理とレポート作成。
	第 20 回	内容	活動先スタッフ(企画者等)の話①(企画意図、内容、活動学生へのメッセージ等と質疑応答)	予習	講演者の活動についての事前調べ。
				復習	学びの整理とレポート作成。
	第 21 回	内容	活動先スタッフ(企画者等)の話②	予習	講演者の活動についての事前調べ。
				復習	学びの整理とレポート作成。
	第 22 回	内容	事前指導：活動先と活動内容についての事前調べと書類準備。(所沢市市民フェスティバル、サンタを探せ、児童館等)	予習	改めて活動先意義等について確認する。
				復習	最終チェックをおこなう。
	第 23 回	内容	実際の活動	予習	活動先への理解と体調面を含めた準備を整えておく。
				復習	実際の活動での反省等をする。
	第 24 回	内容	実際の活動	予習	活動先への理解と体調面を含めた準備を整えておく。
				復習	実際の活動での反省等をする。
	第 25 回	内容	実際の活動	予習	活動先への理解と体調面を含めた準備を整えておく。
				復習	実際の活動での反省等をする。
	第 26 回	内容	事後指導：活動レポートの作成指導	予習	実際の活動で内容を整理しておく。
				復習	レポートの作成。
	第 27 回	内容	各グループによる発表会①：発表と質疑応答	予習	発表準備と聴く姿勢を整える。
				復習	他者からの学びを整理する。
	第 28 回	内容	各グループによる発表会②：発表と質疑応答	予習	発表準備と聴く姿勢を整える。
				復習	他者からの学びを整理する。
	第 29 回	内容	まとめレポートの作成①：社会貢献とは何か/これまでの活動を今後にどのように生かすか等	予習	課題の内容を理解し、吟味する。
				復習	より深い考察を丁寧におこないレポートを作成する。
	第 30 回	内容	まとめレポートの作成②と将来に向けて	予習	課題の内容を理解し、吟味する。
				復習	より深い考察を丁寧におこないレポートを作成する。
	予習に要する学習時間：概ね 45 分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね 45 分を目安とする。				
課題へのフィードバック	レポートや発表について講評を行う。				
成績評価	試験期間における定期試験：実施しない 成績評価の方法：レポート・課題（70%）、授業態度（30%）				
教科書	特に指定しない。				
参考文献	授業内で随時紹介する。				
注意事項	この科目は、地域保育学科の必修科目である。 ボランティア活動の実施および内容については、諸事情により変更される場合がある。 ボランティア活動の参加に当たっては、ボランティア活動依頼事業体関係者とのホウレンソウ（報告・連絡・相談）に留意すること。				

科目名	インターンシップⅠ	単位数	2	実務経験	担当教員	橋本　洋子（はしもと　ようこ）
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	SWS22107	授業形態	実習			

授業の内容	インターンシップ（就業体験）は学外実習のひとつであり、様々な分野の企業等の就業体験を通して職業理解を深め、広い視野をもつことができる。この授業は夏季および春季の長期休業期間等を利用して実施されるインターンシップ実習、および事前事後指導からなる。実務体験を通して、自身の職業適性、社会人に求められる基礎学力、キャリア形成を考える絶好の機会である。
到達目標	1. 授業を通して社会人として必要なビジネスマナーを習得している。 2. 修業体験を通して仕事への責任感を持つことができる。 3. 就業体験を通して自己の課題に気づき自主的に行動することができる。
学位授与方針	地域保育学科（②・③・⑤）

授業計画

第1回	内容	ガイダンス① インターンシップ実習の意義と概要	予習	インターンシップとは何か考える
			復習	インターンシップの意義を理解する
第2回	内容	ガイダンス② インターンシップ報告会 （前回実習参加学生の体験発表）	予習	インターンシップで学ぶ内容を考える
			復習	先輩等の体験報告をまとめる
第3回	内容	インターンシップへの心構え 受入事業体の職種・業務内容の理解	予習	事業体の職種、仕事内容を調べておく
			復習	希望する実習先について調べる
第4回	内容	インターンシップ実習への申込手続き 事業体の選定・実習申込書の作成	予習	実習で学びたいことを考える
			復習	必要書類をまとめる
第5回	内容	学内選考（書類提出・面談）	予習	選定した実習先について調べる
			復習	書類を精読する
第6回	内容	実習先の決定、書類の配布	予習	実習先の職務内容を理解する
			復習	必要書類に記入する
第7回	内容	事前指導① 実習の目的、目標設定、手続き	予習	実習の目標を考える
			復習	調査書の下書きをする
第8回	内容	事前指導② 調査書、承諾書等書類の作成および提出	予習	必要書類を揃える
			復習	必要書類を確認する
第9回	内容	事前指導③ 社会人としての基本マナーを学ぶ	予習	テキスト、配布資料を精読する
			復習	テキストを読み返す
第10回	内容	事前指導④ オリエンテーションについて 日誌の書き方	予習	オリエンテーションの意義を考える
			復習	実習先への連絡方法を確認する
第11回	内容	事前指導⑤ 実習中の注意事項	予習	日誌の必要個所を記入する
			復習	実習に必要な書類を確認する
第12回	内容	就業体験（現場での実務体験）５～１４日 （事業体によって実習時期･期間は異なる）	予習	実習先からの注意事項を確認する
			復習	学んだことを日誌に記録する
第13回	内容	事後指導① 記録の提出、報告書の作成・提出	予習	実習を振り返り報告書にまとめる
			復習	報告会の準備をする
第14回	内容	事後指導② 面談、実習報告会の準備	予習	学んだことをまとめておく
			復習	面談を通して学びを振り返る
第15回	内容	事後指導③ インターンシップ報告会	予習	発表の準備をする
			復習	インターンシップで学んだことを確認する

予習に要する学習時間：概ね３０分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね３０分を目安とする。

課題へのフィードバック	課題について毎授業で確認し説明する。事後指導にて講評する。
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　）する／（○）しない 成績評価の方法：　実習（６０％）、課題・記録（２０％）、授業態度（２０％）
教科書	『新編　ワークで学ぶ　インターンシップ・リテラシー』（長谷川文代　編、西文社）
参考文献	必要に応じて紹介する。
注意事項	インターンシップは保育実習では体験できない一般企業をはじめ様々な事業体での就業体験である。積極的にチャレンジして欲しい。ただし、以下の注意事項を厳守すること。事業体によって実習の時期および期間が異なるため、詳細は授業内で説明する。

	１．学外でのインターンシップ実習にはこの授業を履修、出席することが条件である。 ２．実習に必要な手続きをはじめ事前・事後指導を行うので授業の無断欠席は派遣を中止する場合もある。 ３．実習の派遣は、書類の提出および面談の上、決定する。 ４．履修態度、必要書類の提出等に問題がある場合は履修を取り止めることもある。

科　目　名	インターンシップⅡ	単位数	2	実務経験	担当教員	橋本（はしもと）　洋子（ようこ）
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	SWS22207	授業形態	実習			

授業の内容	この授業は、「インターンシップⅠ」修了学生のみ履修することができる、様々な分野の企業等での就業体験である。夏季および春季および春季休暇を利用して実施する。「インターンシップⅠ」実習内容を振り返るとともに、社会人として必要なマナーや責任感を習得することを目標とする。実際の体験を通して、自らの視野を広げるだけではなく、課題に直面した際の解決能力やコミュニケーション能力の向上をはかる貴重な体験となる。
到達目標	１．就業体験を通して社会人に求められるマナーと責任感を習得している。 ２．就業体験を通して学ぶ意義を考え、今後の学習に活かすことができる。 ３．就業体験を通して自らのキャリアプランやライフプランを考えることができる。 ４．就業体験を報告書としてまとめ発表、および質疑応答に適切に対応することができる。
学位授与方針	地域保育学科（②・③・⑤　）

授業計画				
第１回	内容	オリエンテーション インターンシップⅠを振り返る	予習	インターンシップⅠでの学びを振り返る
			復習	インターンシップⅠでの課題を明確にする
第２回	内容	報告会の準備	予習	発表の準備をする
			復習	発表内容をまとめる
第３回	内容	報告会での発表	予習	発表内容を確認する
			復習	希望する実習先について調べる
第４回	内容	インターンシップ実習への申し込み手続き 事業体の選定、実習申込書の作成	予習	実習の目的を明確にする
			復習	実習申込書を確認する
第５回	内容	学内選考（書類提出・面談）	予習	実習申込内容を確認し、面談の準備をする
			復習	書類を精読する
第６回	内容	実習先の決定 書類の作成（調査書、約書など）	予習	意義を考える
			復習	書類の下書きをする
第７回	内容	事前指導① 実習の目的、目標設定、実習先について調べる	予習	目標を設定する
			復習	目標に沿って書類を作成する
第８回	内容	事前指導② 書類の提出	予習	提出書類を準備する
			復習	配布資料を精読する
第９回	内容	事前指導③ 社会人としてのマナーの確認	予習	配布資料を確認する
			復習	配布資料、課題を読みかえり理解する
第10回	内容	事前指導④ オリエンテーションについて、　日誌の書き方	予習	インターンシップⅠの日誌を準備する
			復習	オリエンテーションと日誌の意義を考える
第11回	内容	事前指導⑤ 実習中の意事項、オリエンテーション報告書の提出	予習	配布資料を精読する
			復習	実習中の注意事項を確認する
第12回	内容	就業体験**（現場での実務体験）５～１４日** **（事業体によって実習時期･期間は異なる）**	予習	実習先からの注意事項を確認する
			復習	体験、学びを日誌に記録し考察する
第13回	内容	事後指導① 記録、報告書の作成	予習	記録を整理する
			復習	
第14回	内容	事後指導② 面談、報告書の提出	予習	
			復習	
第15回	内容	事後指導③ 報告会	予習	
			復習	

予習に要する学習時間：概ね３０分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね３０分を目安とする。

課題へのフィードバック	授業内で課題にたいし説明を行う。事後指導にて講評する。
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　）する／（○）しない 成績評価の方法：　実習（６０％）、記録（日誌）・課題（２０％）、授業態度（２０％）
教科書	『新編　ワークで学ぶ　インターンシップ・リテラシー』（長谷川文代　編、西文社）
参考文献	必要に応じて紹介する
注意事項	インターンシップⅡは保育実習では体験できない一般企業をはじめ様々な事業体での２度目の就業体験となる。インターンシップⅠでの学びから自己の課題と向き合い、社会人として必要なマナーやスキルだけではなく、コミュニケーション力を身につけて欲しい。事業体によって実習の時期および期間が異なるため、詳細は授業内で説明する。この授業を履修、出席することが条件であり、実習に必要な手続きをはじめ事前・事後指導を行う。履修態度、必要書類の提出等に問題がある場合、授業の無断欠席は派遣を中止する場合もある。

科　目　名	レクリエーション論	単 位 数	2	実務経験	担当教員	しんど　のぶゆき 新戸　信之
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	HES22101	授業形態	講義			

授　業　の　内　容	楽しみを持って行う全ての活動は「レクリエーション」であり、決して特別な活動を指す言葉ではない。しかし、他者を楽しませる為には特別なスキルが必要となる。 本講義では楽しむことの必要性を理解するとともに、楽しませるために必要な知識を習得する。
到 達 目 標	1.「レクリエーション」とは即ち“笑顔を作ること”であり、特別な活動ではないことを理解している。 2. 効率良く、効果的にプログラムを展開する方法について理解している。 3. 内発的な動機付けにより活動を促す原理について理解している。 4. 簡単なイベントを企画立案することができる。
学位授与方針	幼児教育学科（　　）地域保育学科（　1,3　）文化表現学科（　　）

授 業 計 画

第１回	内容	オリエンテーション 自由とレクリエーション	予習	シラバスの確認　　「自由」とは何か考える
			復習	「レクリエーション」とは何か考える
第２回	内容	レクリエーションの意義 伝統・文化の中の“レクリエーション”	予習	「レクリエーション」の必要性を考える
			復習	授業の内容を整理してまとめる
第３回	内容	レクリエーション運動の展開	予習	レクリエーションが広がった理由を考える
			復習	授業の内容を整理してまとめる
第４回	内容	領域別レクリエーション	予習	レクリエーションはどのような場所で行われているか考える。
			復習	授業の内容を整理してまとめる
第５回	内容	ライフスタイルとレクリエーション	予習	どのような人がどのようなレクリエーション活動を行っているか考える
			復習	授業の内容を整理してまとめる
第６回	内容	レクリエーション支援の構造と役割	予習	レクリエーション支援は誰が誰にどのようにして行われているか考える
			復習	授業の内容を整理してまとめる
第７回	内容	健康スポーツとレクリエーション	予習	健康･スポーツとレクリエーションとの関係を考える
			復習	授業の内容を整理してまとめる
第８回	内容	レクリエーションの価値とニーズ 財の分類	予習	レクリエーション活動のニーズとその価値について考える
			復習	授業の内容を整理してまとめる
第９回	内容	レクリエーション行動のメカニズム	予習	人はなぜレクリエーション活動をするのか？を考える
			復習	授業の内容を整理してまとめる
第 10 回	内容	集団づくりとコミュニケーション グループワーク	予習	人が集う理由を考える
			復習	授業の内容を整理してまとめる
第 11 回	内容	ホスピタリティ グループワーク	予習	ホスピタリティについて検索する
			復習	授業の内容を整理してまとめる
第 12 回	内容	レクリエーション事業の展開	予習	「運動会」というプロジェクトの全体像をイメージする
			復習	授業の内容を整理してまとめる
第 13 回	内容	イベントチラシの作成方法 グループワーク	予習	折り込みチラシやイベントポスターの内容を見ておく
			復習	授業の内容を整理してまとめる
第 14 回	内容	支援プログラム案の作成方法 支援プログラム評価の視点	予習	責任実習で担当してみたい内容をイメージする
			復習	授業の内容を整理してまとめる
第 15 回	内容	まとめ	予習	半期の授業内容をふりかえる
			復習	シラバスの確認　　「自由」とは何か考える

予習に要する学習時間：概ね９０分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね９０分を目安とする。

課題へのフィードバック	授業中に行う小テストの解説
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　）する／（○）しない 成績評価の方法：　筆記試験（６０％）、授業態度（４０％）
教科書	『楽しさをとおした心の元気づくり～レクリエーション支援の理論と方法～』（日本レクリエーション協会）
参考文献	なし
注意事項	

科　目　名	レクリエーション実技	単 位 数	2	実務経験	担当教員	しんど　のぶゆき 新戸　信之
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	HES22102	授業形態	実技			

授業の内容	前期は、コミュニケーションゲームをはじめ、工作、スポーツ、手遊び、パズル、伝承遊びなど、様々なレク財に親しむ。 後期は、日時・場所・対象など、現場に即した状況設定でロールプレイをすることにより、余裕を持って各実習に臨み得るスキルを身につけることを目的とする
到達目標	1. 事前情報に即した支援プログラムを作成することができる。 2. 支援現場の状況に応じた対応ができる。 3. 他者の指導を的確に評価することができる。
学位授与方針	幼児教育学科（　　）地域保育学科（ 1,2,5 ）文化表現学科（　　）

授業計画

第1回	内容	オリエンテーション コミュニケーション・ワーク（個人→グループ）	予習	シラバスの確認
			復習	個々のゲームの機能をまとめる
第2回	内容	動的グループ・ゲーム	予習	幼少期に行ったグループ対抗の運動遊びを想起する。
			復習	指導上の留意点、活動の効果についてふりかえる。
第3回	内容	静的グループ・ゲーム ※グループワーク	予習	幼少期に行った座位によるグループ対抗の遊びを想起する。
			復習	指導上の留意点、活動の効果についてふりかえる。
第4回	内容	イニシアティブ・ゲーム ※グループワーク	予習	グループで課題を解決する際にできることとできないことを自己分析する。
			復習	指導上の留意点、活動の効果についてふりかえる。
第5回	内容	伝承遊び	予習	伝承遊びの種類や遊び方について調べる。
			復習	指導上の留意点、活動の効果についてふりかえる。
第6回	内容	レクリエーション・スポーツ① 「チャレンジ・ザ・ゲーム」　※グループワーク	予習	自分が集団を率いる際に必要な言動をイメージする。
			復習	指導上の留意点、活動の効果についてふりかえる。
第7回	内容	レクリエーション・スポーツ② 「ドッヂビー」「アルティメット」	予習	「ドッヂビー」、「アルティメット」についてＷＥＢサイトで調べる。
			復習	指導上の留意点、活動の効果についてふりかえる。
第8回	内容	身近な物を利用して遊ぶ 「新聞紙ファッションショー」　※グループワーク	予習	ドレスや小物などを新聞紙で作る方法をイメージする。
			復習	指導上の留意点、活動の効果についてふりかえる。
第9回	内容	知的レクリエーション 「クロスワードパズル」「Hit&Blow」 「ナンバープレイス」「五目並べ」	予習	WEB サイトで体験してみる。
			復習	指導上の留意点、活動の効果についてふりかえる。
第10回	内容	身体的レクリエーション① 「バドミントン」	予習	WEB 動画等でゲームの組み立てをイメージする。
			復習	指導上の留意点、活動の効果についてふりかえる。
第11回	内容	身体的レクリエーション② 「ソフトバレーボール」「ビーチボール」「インディアカ」	予習	WEB 動画等でバレーボールとの差異を確認する。
			復習	指導上の留意点、活動の効果についてふりかえる。
第12回	内容	創造的レクリエーション（絵画）	予習	描きたいものを決めておく。
			復習	指導上の留意点、活動の効果についてふりかえる。
第13回	内容	創造的レクリエーション財（造形）	予習	作る物をイメージしておく。
			復習	指導上の留意点、活動の効果についてふりかえる。
第14回	内容	スマートフォンを利用して遊ぶ① 「SNS フォトコンテスト」	予習	コラージュフレームをインストールし、使い方をマスターしておく。
			復習	指導上の留意点、活動の効果についてふりかえる。
第15回	内容	スマートフォンを利用して遊ぶ② 「フォトラリー」	予習	ＱＲコードリーダーをインストールし、使い方をマスターしておく。
			復習	指導上の留意点、活動の効果についてふりかえる。
第16回	内容	グループ・ワーク・トレーニング　※グループワーク	予習	意見がぶつかった時の雰囲気の変化を想像する。
			復習	指導上の留意点、活動の効果についてふりかえる。
第17回	内容	支援プログラム案の作成　※グループワーク	予習	関心がある指導内容や状況設定について整理しておく。

				復習	支援プログラム案の作成
	第 18 回	内容	支援プログラム案の作成　※グループワーク	予習	支援プログラム案の作成
				復習	支援プログラム案の作成
	第 19 回	内容	リハーサル　※グループワーク	予習	時間を有効に使えるよう準備しておく。
				復習	評価の視点を考慮してリハーサルをする。
	第 20 回	内容	ロールプレイによるレクリエーション支援発表：グループＡ発表、相互評価	予習	評価の視点を考慮してリハーサルをする
				復習	ＬＭＳで相互評価を確認する。
	第 21 回	内容	ロールプレイによるレクリエーション支援発表：グループＢ発表、相互評価	予習	支援プログラム案に相互評価を反映させる。
				復習	ＬＭＳで相互評価を確認する。
	第 22 回	内容	ロールプレイによるレクリエーション支援発表：グループＣ発表、相互評価	予習	支援プログラム案に相互評価を反映させる。
				復習	ＬＭＳで相互評価を確認する。
	第 23 回	内容	ロールプレイによるレクリエーション支援発表：グループＤ発表、相互評価	予習	支援プログラム案に相互評価を反映させる。
				復習	ＬＭＳで相互評価を確認する。
	第 24 回	内容	ロールプレイによるレクリエーション支援発表：グループＥ発表、相互評価	予習	支援プログラム案に相互評価を反映させる。
				復習	ＬＭＳで相互評価を確認する。
	第 25 回	内容	ロールプレイによるレクリエーション支援発表：グループＦ発表、相互評価	予習	支援プログラム案に相互評価を反映させる。
				復習	ＬＭＳで相互評価を確認する。
	第 26 回	内容	ロールプレイによるレクリエーション支援発表：グループＧ発表、相互評価	予習	支援プログラム案に相互評価を反映させる。
				復習	ＬＭＳで相互評価を確認する。
	第 27 回	内容	ロールプレイによるレクリエーション支援発表：グループＨ発表、相互評価	予習	支援プログラム案に相互評価を反映させる。
				復習	ＬＭＳで相互評価を確認する。
	第 28 回	内容	ロールプレイによるレクリエーション支援発表：グループＩ発表、相互評価	予習	支援プログラム案に相互評価を反映させる。
				復習	ＬＭＳで相互評価を確認する。
	第 29 回	内容	ロールプレイによるレクリエーション支援発表：グループＪ発表、相互評価	予習	支援プログラム案に相互評価を反映させる。
				復習	ＬＭＳで相互評価を確認する。
	第 30 回	内容	まとめ	予習	支援プログラム案に相互評価を反映させる。
				復習	支援プログラム案を完成させる。
	予習に要する学習時間：概ね　　分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね　　分を目安とする。				
課題へのフィードバック	前期：授業の最後に指導上のポイントや留意点を伝える。 後期：支援発表後にアドバイスをする。				
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　　）する／（○）しない 成績評価の方法：レポート・課題（２０％）、作品・発表（５０％）、実技（１０％）、授業態度（２０％）				
教科書	必要に応じて資料を配布				
参考文献	『楽しさをとおした心の元気づくり』(日本レクリエーション教会、日本レクリエーション教会)		『ミックスじゅーちゅ（子どもの遊びポータルサイト）』(https://45mix.net/)		
注意事項	作品（画像）の提出や、小テスト、後期の他者評価についてはスマートフォンと MOODLE（LMS)を利用します。				

科　目　名	保育所実習Ⅰ	単 位 数	2	実務経験	担当教員	つちや　ゆう 土屋　由
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	EDU2322	授業形態	実習	有		

授　業　の 内　　容	保育所実習Ⅰは、保育所実習のうち前期実習にあたり、実習の段階としては「見学・観察実習」となる。前期実習では、保育所の役割と機能を理解する、子どもの発達や援助への理解を深める、保育内容や環境への理解を深める、保育の計画や記録・省察による保育の実際への理解を深めるといった内容を中心に学ぶ。
到 達 目 標	1. 子どもの生活や遊び、発達過程を理解している。 2. 保育内容や保育環境を理解している。 3. 記録に基づく省察や自己評価することができる。 4. 実習を通して、保育の意義や保育者の役割を理解している。
学位授与方針	幼児教育学科（　　）地域保育学科（②④⑤　）文化表現学科（　　）
授 業 計 画	前期保育所実習は、原則として第２学年の２月に実施する（２週間)。 見学・観察実習の主な内容 １．保育所の役割と機能 (1) 保育所の生活と一日の流れ (2) 保育所保育指針の理解と保育の展開 ２．子ども理解 (1) 子どもの観察とその記録による理解 (2) 子どもの発達過程の理解 (3) 子どもへの援助やかかわり ３．保育内容・保育環境 (1) 保育の計画に基づく保育内容 (2) 子どもの発達過程に応じた保育内容 (3) 子どもの生活や遊びと保育環境 (4) 子どもの健康と安全 ４．保育の計画、観察、記録 (1) 保育課程と指導計画の理解と活用 (2) 記録に基づく省察・自己評価 ５．専門職としての保育士の役割と職業倫理 (1) 保育士の業務内容 (2) 職員間の役割分担や連携 (3) 保育士の役割と職業倫理
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　）する／（〇）しない 成績評価の方法：　実習園による評価（50%)、実習日誌評価（30%)、課題（20%）
教科書	『実習の手引き』(著者名、出版社名)、『子どもの育ちと安全を守る幼稚園・保育所・施設実習＜改訂版＞（仮題)』(茗井香保里、大学図書出版)
参考文献	授業において紹介する。
注意事項	実習に参加する学生は、心身ともに健康であり、学内における教科の履修状況・出席・学習態度が良好であること。常に自分自身を見つめ直し、保育者になるための努力を続けることが求められる。 **※実習を授業の中心に位置づけている実践的教育から構成される授業科目である。**

科　目　名	児童館実習	単 位 数	2	実務経験	担当教員	あきやま　ひろこ 秋 山　展子
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	SWS2322	授業形態	実習	有		

授　業　の 内　　容	児童館において、約 10 日間の実習を行う。実習を通して、児童館・放課後児童クラブの現場で実際に業務を体験することで、児童館や放課後児童クラブの活動を理解するとともに、自分自身の適性を改めて見つめなおす。
到 達 目 標	1．児童館・放課後児童クラブの役割、意義について実践を通じて理解している。 2．一日の活動プログラムを理解している。 3．職員、児童の家族、地域社会の連携を理解している。
学位授与方針	幼児教育学科（　　）地域保育学科（　5　）文化表現学科（　　）
授 業 計 画	児童館実習の内容 ①　児童館・放課後児童クラブの役割、意義について実践を通じて理解 ②　一日の活動プログラムの理解 ・母親クラブの活動について ・館全体のプログラム ・放課後児童クラブのプログラム ③　活動への参加 ・指導職員の助手の立場に立って、参加実習から、実習後半では部分指導実習、責任担当実習に入る。 ④　職員、児童の家族、地域社会との関係の学習 ・職員集団等専門家集団のチームワーク ・児童の家庭、地域との関わり方 ・児童館と高齢者・ボランティア等の関わりを学ぶ
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　）する／（ ○ ）しない 成績評価の方法：実習先評価（50%）、実習記録（30%）、実習課題（20%）
教科書	なし
参考文献	なし
注意事項	**※実習を授業の中心に位置づけている実践的教育から構成される授業科目である。**

科　目　名	保育所実習指導Ⅰ	単 位 数	1	実務経験	担当教員	つちや　ゆう 土屋　由
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	EDU2322	授業形態	演習			

授　業　の 内　　容	保育所実習研究は、前期保育所実習（２年次２月）の事前事後指導である。事前指導では、保育所実習の意義や目的を理解する、実習課題を明確にする、実習記録の意義や記録方法・指導計画を学ぶなど、実習に関する必要な知識と心構えを身につけることを目的とする。事後指導では、実習に対する自己評価・反省を求め、後期保育所実習に向けての課題を明らかにし、前期実習から後期実習へと保育についての学びを深めていけるよう必要な準備を行う。
到 達 目 標	1. 保育所実習の意義や目標を理解している。 2. 子どもの観察や実習記録の意義や方法を理解している。 3. 実習に関する必要な知識と心構えを身につけ、心身ともに実習に向けて準備することができる。 4. 実習を通じて、自己課題を理解している。
学位授与方針	幼児教育学科（　　）地域保育学科（②④⑤　）文化表現学科（　　）

授 業 計 画					
	第１回	内容	オリエンテーション	予習	教科書の全体に目を通す
				復習	実習の手引きに目を通す
	第２回	内容	保育所実習の意義・目的の理解	予習	教科書の実習の意義・目的に目を通す
				復習	実習の意義・目的の大切な箇所をまとめる
	第３回	内容	前期実習の内容の理解	予習	教科書の実習内容に目を通す
				復習	実習の内容の大切な箇所をまとめる
	第４回	内容	保育所についての理解	予習	教科書の保育所についての理解に目を通す
				復習	保育所の制度や現状の大切な箇所をまとめる
	第５回	内容	実習の心構え	予習	教科書の実習の心構えに目を通す
				復習	実習の心構えの大切な箇所をまとめる
	第６回	内容	実習に必要な書類の作成	予習	調査書の実習の心構えを考えてくる
				復習	調査書を仕上げる
	第７回	内容	実習に必要な書類の修正	予習	調査書の修正をする
				復習	修正を加えて調査書を仕上げる
	第８回	内容	実習課題を明らかにする	予習	実習課題を考える
				復習	実習課題を修正する
	第９回	内容	実習記録の意義の理解	予習	教科書の実習記録に目を通す
				復習	実習記録の大切な箇所をまとめる
	第 10 回	内容	実習記録の実際と方法①生活場面	予習	教科書の実習記録例に目を通す
				復習	生活場面の記録の練習をする
	第 11 回	内容	実習記録の実際と方法②　遊び場面	予習	教科書の実習記録に目を通す
				復習	遊びの記録の練習をする
	第 12 回	内容	実習に必要な実技の確認	予習	教科書の実技の箇所に目を通す
				復習	実技の練習をする
	第 13 回	内容	オリエンテーションと実習中の心得	予習	教科書のオリエンテーションに目を通す
				復習	オリエンテーションの大切な箇所をまとめる
	第 14 回	内容	実習内容の振り返りとまとめ	予習	実習の振り返りを考える
				復習	他者の発表を聞き、大切な箇所をまとめる
	第 15 回	内容	後期保育所実習への課題を明確にする	予習	後期実習に向け、課題を考える
				復習	後期実習に向け、必要な準備を行う
	予習に要する学習時間：概ね 25 分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね 20 分を目安とする。				

課題へのフィードバック	実習園からの評価票に基づき、面談を行う。
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　）する／（〇）しない 成績評価の方法：　レポート・課題（60%）、授業態度（30%）、手続き（10%）
教科書	『実習の手引き』(実習委員会)、『保育所保育指針』、『子どもの育ちと安全を守る幼稚園・保育所・施設実習＜改訂版＞（仮題)』(若井香保里、大学図書出版)
参考文献	『保育実習（基本保育シリーズ)』(児童育成協会、中央法規出版)
注意事項	授業では、保育園での子どもの生活や実際の実習内容のイメージがもてるように、視聴覚教材やワーク・シートを活用する。実習に関する知識を身につけ、必要な準備を進めるために、原則として欠席はしないこと。

科　目　名	施設実習指導	単 位 数	1	実務経験	担当教員	あきやま　ひろこ 秋 山　展子
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	SWS2325	授業形態	演習			

授　業　の 内　　容	保育所を除く児童福祉施設を中心とした実習準備のための授業である。実習の目的や意義、実習内容等福祉 施設実習に必要な知識や技能を学ぶ。また、福祉施設利用者の権利擁護、施設職員としての倫理観、実習生と しての勤務のあり方についても学ぶ。実習に必要な書類の提出のほか実習施設から届けられる様々な情報も授業時に伝える。
到 達 目 標	1．施設の種別、それぞれの機能について理解している。 2．施設の種別ごとの利用者について理解している。 3．施設実習に必要な知識や技能を身につけている。
学位授与方針	幼児教育学科（　　）地域保育学科（　5　）文化表現学科（　　）

授 業 計 画					
	第1回	内容	施設実習の位置づけについて	予習	シラバスを読んでおく
				復習	この科目で習得すべき内容を理解する
	第2回	内容	施設実習の意義について、実習申込書（誓約書）について	予習	実習のしおりを読み要件を理解しておく
				復習	実習の形態についてまとめる
	第3回	内容	実習の要件、実習の形態について	予習	教科書「福祉施設」の章を読んでおく
				復習	プリントを中心に福祉施設の内容をまとめる
	第4回	内容	実習中の注意点の確認、実習申込書の提出	予習	教科書「障害児・者施設」の章を読んでおく
				復習	プリントを中心に障害者施設の内容をまとめる
	第5回	内容	福祉施設における実習	予習	福祉施設の特性を理解しておく
				復習	各福祉施設における実習内容をまとめる
	第6回	内容	障がい系施設における実習内容	予習	教科書「障がい系施設」の章を読んでおく
				復習	プリントを中心に障がい系施設の内容をまとめる
	第7回	内容	障がい児支援施設について	予習	教科書「障がい児施設」の章を読んでおく
				復習	プリントを中心に障がい児施設の内容をまとめる
	第8回	内容	障がい者支援施設について	予習	教科書「障がい者施設」の章を読んでおく
				復習	プリントを中心に障がい者施設の内容をまとめる
	第9回	内容	自閉症について	予習	教科書「自閉症」の章を読んでおく
				復習	プリントを中心に自閉症の内容をまとめる
	第10回	内容	重度心身障害について	予習	教科書「重度心身障害」の章を読んでおく
				復習	プリントを中心に重度心身障害の内容をまとめる
	第11回	内容	障がい児・者支援施設における職員の役割	予習	教科書で2施設の該当の章を読んでおく
				復習	プリントを中心に2施設の内容をまとめる
	第12回	内容	養護系福祉施設における実習内容	予習	教科書「養護系施設」の章を読んでおく
				復習	プリントを中心に養護系施設の内容をまとめる
	第13回	内容	児童養護施設について	予習	教科書「児童養護施設」の章を読んでおく
				復習	プリントを中心に児童養護施設の内容をまとめる
	第14回	内容	乳児院について	予習	教科書「乳児院」の章を読んでおく
				復習	プリントを中心に乳児院の内容をまとめる
	第15回	内容	実習希望調査 配当資料の提出	予習	核施設の特性を整理してくる
				復習	実習で学びたいことを明確にする
	第16回	内容	母子生活支援施設・一時保護所について	予習	教科書で2施設の該当の章を読んでおく
				復習	プリントを中心に2施設の内容をまとめる
	第17回	内容	養護系施設における職員の役割	予習	教科書「職員の役割」の章を読んでおく
				復習	プリントを中心に職員の役割の内容をまとめる
	第18回	内容	実習課題について	予習	教科書「実習課題」の章を読んでおく
				復習	プリントを中心に実習課題の内容をまとめる
	第19回	内容	実習書類の記入と提出	予習	実習の抱負を考えてくる
				復習	書類の添削を受けて、訂正をしてくる
	第20回	内容	実習施設におけるオリエンテーションについて	予習	教科書「オリエンテーション」の章を読む
				復習	プリントでオリエンテーションの内容をまとめる

	第 21 回	内容	実習施設に関する事前学習	予習	実習施設の種類について調べてくる
				復習	プリントを中心に施設の特性をまとめる
	第 22 回	内容	実習日誌の書き方	予習	教科書「実習日誌」の章を読んでおく
				復習	プリントを中心に実習日誌内容をまとめる
	第 23 回	内容	実習書類の確認 細菌検査、実習施設に提出するレポートや誓約書等確認	予習	提出書類の記入及び準備をする
				復習	書類の確認・実習課題の整理をする
	第 24 回	内容	実習直前指導、各種報告書の準備	予習	実習前の質問事項を確認してくる
				復習	実習前課題にとりくむ
	第 25 回	内容	個人の実習の振り返り	予習	実習の反省を整理してくる
				復習	振り返った内容をレポートにまとめる
	第 26 回	内容	グループで実習の振り返りを行う	予習	グループ内で報告する内容を整理してくる
				復習	メンバーの報告内容をレポートにまとめる
	第 27 回	内容	グループごとに実習内容の報告を全体に向けて行う	予習	グループの報告内容を準備してくる
				復習	全グループの報告内容をレポートにまとめる
	第 28 回	内容	実習評価、個別面談	予習	施設実習のまとめとして学んだことを整理する
				復習	実習評価・面談を受けて、学習成果を振り返る
	予習に要する学習時間：概ね 15 分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね 30 分を目安とする。				
課題へのフィードバック	提出物等の評価を実習後の面談により伝える。				
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　）する／（　○　）しない 成績評価の方法：レポート（５０％）、課題（２０％）、授業態度（２０％）、実習書類提出（１０％）				
教科書	『保育士養成課程　五訂　福祉施設実習ハンドブック』（喜多一憲、児玉俊郎／監修　吉村美由紀、吉村譲　編 、株式会社みらい）				
参考文献	なし				
注意事項	なし				

科　目　名	児童館実習指導	単 位 数	1	実務経験	担当教員	あきやま　ひろこ 秋山　展子
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	SWS22210	授業形態	演習			

授　業　の 内　　容	児童館実習を履修する学生は必ず履修しなければならない。授業は実習の前後にわたって実施される。実習前の授業では、児童館・放課後児童クラブの実際の活動内容を理解するため、先輩の実習報告を参考に理解を深め、実習への動機付けを図る。その上で実習調査書の作成をはじめ、実習の目的やねらいの理解、オリエンテーション、日誌の記入方法、実習手続き書類の作成等の指導を行う。
到 達 目 標	1．児童館実習の意義を理解する。 2．児童館実習に必要な知識と技能を習得する。 3．児童館、放課後児童クラブの特性と実習における課題を理解する。
学位授与方針	幼児教育学科（　　）地域保育学科（　5　）文化表現学科（　　）

授 業 計 画					
	第1回	内容	児童厚生員－資格の説明と取得までの手順の説明	予習	シラバスを読んでおく
				復習	この科目で習得すべき内容を理解する
	第2回	内容	児童館実習参加申込書の配布と申込書の提出	予習	実習のしおりを読み要件を理解しておく
				復習	実習準備についてまとめる
	第3回	内容	児童館実習の意義、目的の理解	予習	実習の意義について教科書を読んでおく
				復習	プリントを中心に内容をまとめる
	第4回	内容	児童館実習参加者の体験談を聞き、実習内容を理解する	予習	教科書「実習内容」の章を読んでおく
				復習	プリントを中心に内容をまとめる
	第5回	内容	文章の書き方を学ぶ	予習	前回の体験談の感想を書いてくる
				復習	添削結果を受けて反省点を考える
	第6回	内容	調査書の作成－下書き準備	予習	実習先について調べてくる
				復習	注意事項を確認し、内容を考える
	第7回	内容	調査書の作成－下書き・証明写真説明	予習	調査書の下書きをしてくる
				復習	書類の添削を受けて、訂正をする
	第8回	内容	調査書の作成－清書	予習	証明写真の注意事項を理解し、準備する
				復習	清書を完成させる
	第9回	内容	実習日誌の記入の意義について	予習	教科書「実習日誌の意義」の章を読んでおく
				復習	プリントを中心に内容をまとめる
	第10回	内容	実習日誌の記入方法	予習	教科書「実習日誌の注意」の章を読んでおく
				復習	プリントを中心に内容をまとめる
	第11回	内容	オリエンテーションについて	予習	教科書「オリエンテーション」の章を読む
				復習	プリントを中心に内容をまとめる
	第12回	内容	指導案の概要と作成	予習	教科書「指導案」の章を読んでおく
				復習	指導案のための情報を集める
	第13回	内容	細菌検査・個人情報誓約書について	予習	教科書「個人情報取り扱い」の章を読む
				復習	プリントを中心に内容をまとめる
	第14回	内容	実習後の対応-礼状等－について	予習	教科書「お礼状」の章を読んでおく
				復習	プリントを中心に内容をまとめる
	第15回	内容	実習直前指導（実習への心構え、緊急時への対応の確認等々）	予習	実習前の質問事項を確認してくる
				復習	学習内容をまとめて、学習成果を振り返る
	予習に要する学習時間：概ね15分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね30分を目安とする。				

課題へのフィードバック	提出物等の評価を面談により伝える。
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　）する／（ ○ ）しない 成績評価の方法：　課題（30%）授業態度（70%）
教科書	『保育・教育・施設実習　子どもを理解し実践できる保育者を目指して』（福田真奈、五十嵐淳子、大学図書出版）
参考文献	なし
注意事項	なし

科　目　名	教育実習Ⅰ	単 位 数	2	実務経験	担当教員	とねがわ　あきひろ 利根川　彰 博
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	EDU2314	授業形態	実習	有		

授　業　の 内　　容	授業を通して学んだ知識や技能が、幼児教育の場でいかに活かされ応用することができるかということを実践を通して学ぶ。また、保育の様子を観察する、子どもの活動に参加する、 保育者の助手的立場をとるなどの経験を通し、保育者の職務理解に務める。前期実習を 2 年次 11 月に実施する。
到 達 目 標	1. 子どもの発達を体験的に学び、子どもの実態に合った保育の営みについて理解している。 2. 保育者の職務理解に努め、責任実習を通し指導方法、指導技術などを体得している。 3. 幼稚園の地域における役割や社会的な機能について理解している。
学位授与方針	幼児教育学科（　　）地域保育学科（２，４，５）文化表現学科（　　）
授 業 計 画	前期実習（観察・参加実習） 実習園の概要を知る。 実習園の日課を理解する。 配属クラスの子どもの名前を覚える。 子どもの遊びに参加する。 保育の進め方を観察する。 環境構成のあり方を学ぶ。 いざこざへの対応の仕方を学ぶ。 絵本の読み聞かせ、紙芝居、手遊び等、保育の営みの一部分を担当する。 子どもの興味・関心、思考傾向など子どもの実態を知る。 保育者の職務について学ぶ。 前期実習を振り返り自己評価をする。 自己課題を明確にし、後期実習にむけた準備をする。
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　）する／（〇 ）しない 成績評価の方法：　実習園の評価（５０%）、実習日誌評価（５０%）
教科書	『実習の手引き』（実習委員会）
参考文献	『幼稚園教育要領解説』（文部科学省、フレーベル館）
注意事項	実習日誌等、必要書類の提出期限は厳守すること。 **※実習を授業の中心に位置づけている実践的教育から構成される授業科目である。**

科　目　名	教育実習指導Ⅰ	単 位 数	1	実務経験	担当教員	とねがわ　あきひろ 利根川　彰 博
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	EDU2325	授業形態	演習			

授　業　の 内　　容	この授業は、教育実習を効果的に進めることができるよう、実習に向けて事前に準備をするための教科である。 実習に必要な書類を整えることや社会人としてのマナーを身につけること、あるいは指導案の作成、自己課題の発見等学ぶ範囲も非常に広い。 幼稚園現場の具体的な画像や動画を使用したドキュメンテーションを使用し、幼稚園や保育者幼児の実態を具体的理解し、視点をもって実習に臨めるようにする。
到 達 目 標	1. 幼稚園の生活に関する基本的事項を理解している。 2.　幼児の発達の様子や遊びの実態を理解している。 3. 幼稚園における保育活動、保育内容を理解している。
学位授与方針	幼児教育学科（　　）地域保育学科（２，４，５）文化表現学科（　　）

授 業 計 画

第１回	内容	教育実習の意義・目的	予習	シラバスを読んでおく
			復習	『実習の手引き』を読む。
第２回	内容	教育実習のための手続き	予習	実習の計画を確認する。
			復習	提出書類を確認する。
第３回	内容	前期実習の目的と心得：参加・観察実習について	予習	『実習の手引き』を読む。
			復習	学んだ内容を整理する。
第４回	内容	幼稚園での生活を学ぶ	予習	幼稚園の一日の生活を調べる。
			復習	感想・気付きをまとめる。
第５回	内容	幼稚園見学についてのオリエンテーション	予習	対象園の概要を調べておく。
			復習	園見学の注意点をまとめる。
第６回	内容	幼稚園見学①	予習	注意点を確認しておく。
			復習	気づき等をまとめる。
第７回	内容	幼稚園見学②	予習	視点を考えておく。
			復習	感想をまとめる。
第８回	内容	幼稚園見学の振り返り：グループディスカッション	予習	視点にそって感想をまとめておく。
			復習	他者の意見等も整理する。
第９回	内容	自己紹介の方法と紹介グッズの作成	予習	自己紹介の方法とグッズを調べる。
			復習	自己紹介グッズを使って練習する。
第10回	内容	自己紹介の練習	予習	事前に構想を確認しておく。
			復習	気づいた点をまとめる。
第11回	内容	実習時期の保育や子どもの様子を学ぶ	予習	季節の絵本や手遊びを調べる。
			復習	調べた絵本や手遊びを実践する。
第12回	内容	提出書類の作成①：「学生調査書」下書き	予習	事前に作成した下書きを用意する。
			復習	期日までに下書きを提出する。
第13回	内容	提出書類の作成②：「学生調査書」清書	予習	下書きの修正内容を確認する。
			復習	「学生調査書」などの書類を提出する
第14回	内容	実習課題の検討	予習	実習課題を考える。
			復習	実習課題を整理する。
第15回	内容	実習課題の作成	予習	実習課題の下書きを作成する。
			復習	実習課題の清書を作成する。
第16回	内容	保育における「記録」の意義：エピソード記述など	予習	プリントを読んでおく。
			復習	学んだ点をまとめる。
第17回	内容	実習日誌の書き方①：実習園の概況・環境等	予習	実習日誌を確認する。
			復習	実習園の概況・環境等の書き方を確認する。
第18回	内容	実習日誌の書き方②：保育の記録	予習	実習日誌を書く意義について確認する。
			復習	保育の記録の書き方を確認する。
第19回	内容	実習日誌の書き方③：１日の振り返りと自己評価	予習	実習日誌を書く目的について確認する。
			復習	1 日の振り返りの書き方を確認する。
第20回	内容	オリエンテーションについて	予習	オリエンテーションの事前準備をする。
			復習	オリエンテーション報告書を作成する。

	第 21 回	内容	実習の諸注意	予習	『実習の手引き』を読む。
				復習	実習中の諸注意を整理する。
	第 22 回	内容	実践事例の読み取り	予習	プリントを読んでおく。
				復習	学んだ点を整理する。
	第 23 回	内容	実習の振り返り：グループディスカッション	予習	実習の振り返りをしておく。
				復習	他者の意見を整理する。
	第 24 回	内容	お礼状について	予習	プリントを読んでおく。
				復習	学んだ点をまとめる。
	第 25 回	内容	報告書・自己評価	予習	示された視点から振り返る。
				復習	自己評価表を作成する。
	第 26 回	内容	評価面談①	予習	実習の振り返りをしておく。
				復習	気づいた点を整理する。
	第 27 回	内容	評価面談②	予習	実習の振り返りをしておく。
				復習	気づいた点を整理する。
	第 28 回	内容	評価面談③	予習	実習の振り返りをしておく。
				復習	他者の意見も踏まえて整理する。
	第 29 回	内容	現場の先生の講話	予習	プリントを読んでおく。
				復習	学んだ点を整理する。
	第 30 回	内容	後期実習に向けて	予習	後期実習に向け、課題を考える。
				復習	後期実習に向け、必要な準備を行う。
	予習に要する学習時間：概ね４５分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね４５分を目安とする。				
課題へのフィードバック	レポートや課題にはコメントを付けて返却する。				
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　）する／（〇）しない 成績評価の方法：レポート・課題（６０％）、授業態度（４０％）				
教科書	『実習の手引き』（実習委員会）				
参考文献	『幼稚園教育要領解説』（文部科学省、フレーベル館） 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（内閣府・文部科学省・厚生労働省、フレーベル館）				
注意事項	・事前に十分な準備を行なうことは、子どもや実習園の状況に応じた柔軟な対応を可能にする。受講生には、授業時だけでなく、授業時間外にも書籍や保育雑誌に目を通し、実践方法を学ぶことが求められる。				

【地域保育学科】

「実務経験のある教員等による授業科目」一覧

（シラバスリンク：新カリキュラム）
https://www.akikusa.ac.jp/akitan/wordpress/wp-content/themes/akikusaTheme/assets/pdf/ch_syllabus_2020.pdf#pagemode=bookmarks

	科目名	単位数	授業形態	担当教員	シラバスページ
1	保育所実習Ⅰ	2	実習	土屋由	70
2	施設実習	2	実習	秋山展子	本年度配当無し
3	保育所実習Ⅱ	2	実習	土屋由	本年度配当無し
4	児童館実習	2	実習	秋山展子	71
5	教育実習Ⅰ	2	実習	利根川彰博	76
6	教育実習Ⅱ	2	実習	利根川彰博	本年度配当無し
	計	12			

（シラバスリンク：旧カリキュラム）
https://www.akikusa.ac.jp/akitan/wordpress/wp-content/themes/akikusaTheme/assets/pdf/ch_syllabus_2020_old.pdf#pagemode=bookmarks

	科目名	単位数	授業形態	担当教員	シラバスページ
1	保育所実習Ⅰ	2	実習	土屋由	本年度配当無し
2	施設実習	2	実習	秋山展子	31
3	保育所実習Ⅱ	2	実習	土屋由	32
4	児童館実習	2	実習	秋山展子	本年度配当無し
5	幼児教育実習	4	実習	利根川彰博	37
	計	12			

注）「実務経験のある教員等による授業科目」とは、担当する授業科目に関連した実務経験を有している者が、その実務経験を十分に授業に活かしつつ、実践的教育を行っている授業科目を指す。実務経験があっても、担当する授業科目の教育内容と関わりがなく、授業に実務経験を活かしているとは言えない場合は対象とはならないことに注意すること。また、必ずしも実務経験のある教員が直接の担当でなくとも、例えば、オムニバス形式で多様な企業等から講師を招いて指導を行う場合や、学外でのインターンシップや実習等を授業の中心に位置付けているなど、主として実践的教育から構成される授業科目もこれに含む。必修科目、選択科目又は自由科目の別を問わない。